

知能を伸ばし、創造性豊かな
人間性を育てる教育

聖徳の教育



聖徳学園小学校 聖徳幼稚園

知能を伸ばし、創造性豊かな
人間性を育てる教育

聖徳の教育



聖徳学園小学校 聖徳幼稚園

目 次

小学校と幼稚園の歩み	5
聖徳の教育	7

小 学 校 編

I. 聖徳学園小学校の教育

1. 教育の基本	13
2. 教育の特色	13
3. 教育方針	17
4. 教育構造	19
5. 教育課程	19

II. 教科の基本方針と内容

知能教育	21
国語教育	43
数学教育	50
英語教育	57
理科教育	62
地理教育	70
歴史教育	74
美術教育	78
音楽教育	81
体育教育	85
家庭科教育	93
道徳教育	101
特別研究	104
聖徳の図書室	108

Ⅲ. 生活指導	110
Ⅳ. 学校行事	
入学式	113
卒業式	117
林間学校	121
スキー学校	125
聖徳祭	127
運動会	128
マラソン大会	129
修学旅行	130
自由研究展	133
ゲーム大会	135
校外授業	136
オーストラリア国際交流の旅	137
イングリッシュキャンプ	138
新入生を迎える会	139
卒業生を送る会	141
テスト関係	143
公開研究発表会	145
Ⅴ. 卒業生の進路状況	
中学校への進路状況	150
大学への進路状況	153
主な就職先	154
Ⅵ. 聖徳の思い出	156
Ⅶ. 学校生活	
学校規定服装用品	165
日課時限表	166

年間行事予定表	167
VIII. 児童会活動	
児童会	168
幼稚園編	
I. 聖徳幼稚園の教育	
1. 教育目標	175
2. 教育の特色	175
3. 教育方法	177
4. 課外教育活動	177
II. 領域別の基本方針と内容	
知能あそび	179
体育あそび	187
造形あそび	190
リトミックあそび	194
英語あそび	198
理科あそび	201
III. 園生活の目標	
学年の生活目標	203
IV. 園行事	
入園式	207
卒園式	208
花まつり	209
成道会	210
遠足	211
七夕まつり	211
自然体験教室	212

運 動 会	213
おもちつき会	214
おゆうぎ会	215

V. 園生活

園規定及び服装用品	216
園生活の流れ	217
年間行事予定表	218
預かり保育	220

付 記

聖徳学園と英才教育	和 田 玄 之	223
聖徳学園の建学の精神と教育の改革	和 田 知 雄	224
学校における英才教育	伏 見 猛 彌	227
お誓い三か条解説	小 林 健 三	231

聖徳の教育に関する各紙の反響

小学校と幼稚園の歩み

- 1927年 4月 和田幽玄先生、関東中学校を創立する。
- 1950年 4月 聖徳幼稚園を設置する。
- 1951年 4月 学校法人聖徳学園に組織変更する。
関東小学校を設置する。
和田玄之初代校長就任
- 1968年 10月 昭和44年度から小学校において“英才教育”を導入することを決定。そのために、独自の教育課程を作成するため、伏見猛弥先生（英才教育研究所所長）を座長とするカリキュラム委員会を発足させ、準備を進める。
- 1969年 4月 小学校に“英才教育”を導入。校名を、聖徳学園小学校に改め、教育課程を一新し、知能教育を基本にした英才教育を始める。その独特な学習内容と学習形態は、教育界やマスコミからも注目され、NHKをはじめ新聞や雑誌等でも紹介され、全国から注目されるようになる。
- 1972年 4月 発達段階に応じた指導を徹底する為に、知能訓練・国語・数学において能力別クラス編成を実施する。
- 1974年 4月 和田知雄校長就任
- 1976年 1月 聖徳学園英才教室を開設し、幼児のための知能教育を始める。
4月 小学校・中学校の一貫教育を始める。小学校・中学校の教育課程を一本化して、義務教育9ヶ年間の教育内容を充実させる。
- 1979年 4月 新一学年2クラス編成となる。
- 1987年 4月 幼稚園に知能あそびを導入する。
小学校で英語の授業を始める。
- 1988年 4月 幼稚園で、放課後預かり保育（延長保育～17:00）を実施する。
- 1991年 4月 幼稚園の保育を「自由あそび」、「カリキュラムあそび（知能あそび・体育あそび、造形あそび、リトミックあそび）」を中心にする。
- 1992年 4月 園田達彦校長・園長就任
幼稚園と小学校の教育内容の一本化を図り、幼・小一貫教育体制を整える。
聖徳学園中学校・聖徳学園高等学校が一貫教育体制を整える。
- 1995年 すすくすく王将杯全国大会で優勝する。

- 1998年11月 全国小・中学校作文コンクールにおいて、「文部大臣奨励賞」を受賞する。
- 1999年4月 長尾央学園長・理事長就任
発想コンテストにおいて「文部大臣奨励賞」を受賞する。
- 11月 「聖徳式知能検査法」を完成させる。
- 2002年4月 完全学校5日制」を実施する。
- 8月 全国陸上大会400mリレー東京都代表として出場する。
- 2003年8月 算数オリンピックにおいて「金メダル」・「銀メダル」を受賞する。
- 2006年8月 第一回「アメリカ国際交流の旅」を実施する。
- 2007年3月 全日本学生児童生徒発明くふう展において「内閣総理大臣賞」を受賞する。
- 7月 幼稚園で、第一回自然体験教室を実施する。(年長児 1泊2日 清里高原)
- 11月 全国小中学生作文コンクールにおいて「文部科学大臣賞」を受賞する。
- 2008年4月 郡司英幸校長・園長就任
お誓い三か条碑除幕式を行う。
- 2010年4月 加賀光悦校長・園長就任
- 2011年8月 オーストラリア国際交流の旅を実施する。
- 11月 全国小中学生作文コンクールにおいて「文部科学大臣賞」を受賞する。
- 2013年4月 文部科学大臣より、7度目の「創意工夫育成功労学校賞」を受賞する。
- 2014年11月 東京都児童生徒発明くふう展において、27度目の「学校賞」を受賞する。
- 2015年4月 和田知之校長・園長就任。
- 11月 聖徳祭外部会場での開催を始める。
- 12月 東京都児童生徒発明くふう展において、28度目の「学校賞」を受賞する。
- 2016年3月 全日本学生児童発明くふう展において、「恩賜記念賞」「豊田佐吉賞」受賞。
- 4月 TKCアフタースクール・課外教室（レゴスクール・英語教室）を開校する。
- 9月 7つの習慣に基づく「リーダーインミー」の授業を開始する。
- 12月 東京都児童生徒発明くふう展において、29度目の「学校賞」を受賞する。
- 2017年12月 東京都児童生徒発明くふう展において、30度目の「学校賞」を受賞する。
- 2018年4月 文化科学大臣から平成30年度「創意工夫育成功労学校賞」(8回目) 絵画教室を開校
- 5月 給食センターによる弁当の提供を始める。

聖徳の教育

— 知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる教育 —

聖徳幼稚園長 和田知之
聖徳学園小学校長



聖徳学園は創立以来90余年にわたり、聖徳太子の教えを建学の精神として、幼稚園から高等学校までの教育活動を行っております。

ここ十数年来、我が国では文部科学省を中心にして教育改革が進められてきましたが、私たちの聖徳では1969年（昭和44年）から21世紀の社会の変化を展望して、まず小学校において教育改革に取り組み、知能教育を基本にした英才教育を行ってまいりました。それは潜在的な可能性を秘めている子ども達、興味関心の強い子ども達を英才児に育てていくことを目指してきたということです。また、知能の抜きんでている英才児たちを、周囲に合わせてとどまらせるのではなく、さらに伸ばしていくということ自体が、聖徳の目指した歩みそのものなのです。

● 聖徳の教育の基本的な考え方

「現在子どもたちが社会に出て活躍する21世紀は科学技術の進歩は著しく、恐らくコンピュータ時代を迎えるようになる。そうなるとこれまでのように、知識を理解させてそれを記憶するような、記憶力中心の学校教育では、21世紀の社会では通用しなくなる。むしろ個性的で創造的知能に優れた人間が必要になってくる。」（英才教育の主唱者：伏見猛弥先生）という考え方にに基づき、科学技術の発展に伴う社会の変化に対応できるような、個性的で創造性豊かな人間を育てることに重点をおくことにしたのです。

私たちが教育改革を進めてから50年を経過する今日、社会は予測した方向へ変化してきました。21世紀になり、科学技術は今後ますます進歩して、私たちは家庭でもロボットと共生するようになるだろうと予測されています。そのようになってくると私たち人間にとっては、これまで以上に「個性」と「創造性」に富む資質と能力が求められる社会になってくるでしょう。

● 幼稚園と小学校の連携

小学校に続き、昭和62年には幼稚園でも教育改革を進め、聖徳学園の初等教育である幼稚園と小学校の連携を深め、幼稚園から小学校までの教育課程を一本化して、個性の伸長と知能教育を基本にした一貫教育を推進することにしました。私たちの長年の実践から、知能教育は幼児期から始めた方が効果が高まることははっきりしてきたからです。

そこで、私たちは幼稚園から小学校までの一貫した教育課程を編成して、基礎基本は押さえた上で、自由に伸び伸びとした環境の中で子どもと教師の触れ合いを大切にしながら、

- ① 一人ひとりの子どもの個性を育てる
- ② 知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる
- ③ 正しい心、優しい心、たくましい心を育てる

この3つの教育目標を達成するために、「教える教育から育てる教育」へ質的な転換を図り、知識よりも考える力を育てることに重点をおき、

*主体的に学ぶ態度、つまり意欲と集中力の育成

*個性を伸ばし、創造的知能の開発と育成

に力を入れて教育活動を行っております。

こうした日々の教育活動が徐々に実を結び、これまで文部科学大臣から「創意工夫育成功労学校賞」を8回、また昨年は「東京都児童生徒発明くふう展」において30回目の学校賞を受賞する等、成果を上げてまいりました。

● 個性・創造性豊かな子どもたち

よく学園参観者の皆様方から、

「聖徳の子どもたちは、大変活発で伸び伸びとしていますね」とか、「子どもたちの絵画や工作等の作品には、個性的でユニークなものが多いですね」と、

いったような評価をいただきますが、これが聖徳の教育であり子どもたちの姿なのです。つまり、本学園が目指す英才教育は、一人ひとりの個性を生かし、基礎基本はしっかりと押さえた上で自由で伸び伸びとした環境の中で、豊かな個性を育て知能と学力を高め、子どもの可能性を育てる教育なのです。

私たちのこうした実践成果を、卒業生が大学進学実績や社会での活躍で実証してくれるようになってきたことを大きな支えとして、これからも理想に向かって勇気と信念を持って聖徳の教育を推進していきたいと思えます。

21世紀が、子どもたちにとって大きな夢と希望をもてる社会になることを信じて。

本誌が、聖徳学園の小学校と幼稚園の教育をご理解いただくための資料となれば幸いです。



小学校編

I 聖徳学園小学校の教育

❖ 教育の基本

○ 教育目標

- 1 一人ひとりの個性を育てる
- 2 知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる
- 3 正しい心、優しい心、たくましい心を育てる

○ 教育信条～お誓い三か条～

- 一、われわれは 未来をひらく戦士となり 新しい世界を 開拓します
- 一、われわれは 恥と涙をわきまえて 光明正大に 行動します
- 一、われわれは 祖国の伝統を重んじ 祖国と人類のために つくします

* 「お誓い三か条」の解説は、231 ページをご覧ください。

❖ 教育の特色

聖徳の特色を4つ挙げると次の通りです。

(1) 知能教育 ～特に創造的知能の開発と育成～

○ねらい [知能教育の詳細は、21 ページをご覧ください]

- ① 知識や情報、技能を習得する力を育てる
- ② 習得した知識や情報、技能を新しい場面（学習や生活面等）に活用する能力を育てる
- ③ 洞察力や判断力を育てる

つまり知能教育は、知識や情報を習得する“器”を大きくし、自分の頭で考え、正しく判断して行動する能力を育てることがねらいです。

○内容と方法

① 知能訓練

ギルフォードの知能因子構造に基づき、90の知能因子を1年生から4年生まで1週間に1因子ずつ刺激します。

② ゲーム

将棋やおセロ・トランプ等のゲームは、知能開発にはとても効果的です。ですから、知能教育の一環として1、2年生に対して実施しています。

③ 工作

手先の訓練は、大脳の発達を促進させるのにとても効果があり、知能教育の一環として、1、2年生に対して実施しています。

④ 教科による知能開発

聖徳の教科学習の特色は、各教科の学力を伸ばすと共に知能開発にも重点をおいていることです。そのために、基本的な知識を知能のいろいろな角度から考えさせるようにしています。

(2) 一人ひとりの個性と能力に応じた指導

一人ひとりの個性と能力に応じた指導を徹底するために、次のような指導システムを取り入れています。

① 少人数クラス編成

ホームルーム（生活集団）クラスは約30名とし、英語の学習では15名程度で編成しています。

② 教科担任制

1年生から全教科において、教科担任制を実施しています。中学校と同様、国語は国語の先生、数学は数学の先生が教えます。その趣旨は、第一に、一人の先生がたくさんの教科を教えるのではなく、教科専門の先生が教える方が学習効果の高い授業を行えるからです。

第二に、教育は教師と児童の触れ合いを通して営まれるので、多くの教師との出会いが子どもの成長にプラスになると考えるからです。

③ 複数担任制

子どもの個性や能力・発達段階というのは、一人ひとり異なります。

ですから、30人の子どもがいたら30通りの指導法を必要とします。そこで、個人差が顕著な低学年の知能訓練や数学などの授業では、2人担任制にして、一人ひとりの個性と学習進度に応じた指導を行っています。

④ 教科による能力（習熟度）別指導

知能訓練・数学・国語・英語のように個人差が顕著な教科においては、高学年ではその状況に応じて「教科による習熟度別クラス編成」を実施して授業を行います。

⑤ 独自のカリキュラムと教材を編成



英才児（高知能児）は、文部科学省の『学習指導要領』の学年配当の内容だけでは満足しません。そこで、英才児の能力や発達段階に応じた独自のカリキュラムと教材を作成して学習指導を行っています。

⑥ 能力の限界へ挑戦させる

聖徳では、一人ひとりの能力を十分伸ばすことを大切にしています。そのために、一人ひとりの能力の限界を求めて教材を構成するようにします。特に英才児の場合は、その能力のぎりぎりの課題を与えないと、注意の集中が完全に行われず、またそうした限界への挑戦をやらなければ能力は飛躍しないのです。そこで聖徳では、特にこの点に留意してカリキュラムや教材を作成して学習指導を行います。

⑦ 画一的な宿題はありません

個性の伸長と創造的知能の育成に重点をおくために、クラス全員に同じ課題を与えるような画一的な宿題は出しません。家庭は家庭教育

の場であると共に、自分の好きな学習に熱中して、主体的な学習意欲を育み、個性・創造性を伸ばすためです。

⑧ 自由研究

自分で課題を見つけ、それを解決したり、創造する学習に力を入れています。これは主に家庭学習になりますが、夏休み明けの「自由研究展」には、毎年ほとんどの子どもが出品してくれます。どの作品にもその子の個性がとても良く現れています。

この中から「児童生徒発明くふう展」にも出品しますが、毎年のように東京都教育委員会から「学校賞」を受賞するなど、高い評価を戴いています。

⑨ 選択制の特別研究（5、6年生）

一人ひとりの子どもの興味・関心を大切にし、一つのことにじっくり取り組ませ、広く探究させる過程で、個性や創造性を伸ばすことを狙っています。したがって、教科や学年の枠にとらわれないで総合的な学習を目指し、基本的には各自が決めたテーマに基づき、主体的に研究を進めていきます。

⑩ クラブ・委員会活動（4、5、6年生）

心身の調和のとれた発達と個性・創造性の育成を図るとともに、聖徳の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるために、学年の枠を取り去り次の中から選択して活動します。また、委員会活動では奉仕活動としても効果を発揮しています。

[クラブ] サッカー・野球・バスケット・バドミントン・器楽・ゲーム・工作・鉄道研究・パソコン

[委員会] 児童会・気象観測・生活・保健・放送・体育・図書・飼育・園芸

⑪ 学校行事

集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長と創造性の育成を図るとともに、聖徳の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるために、次の学校行事を行っています。

運動会・聖徳祭・マラソン大会・林間学校（3、5、6年生）・イングリッシュキャンプ（4年生）・スキー学校（3～5年生）・修学旅行（6年生）・ゲーム大会（将棋・オセロ・五目並べ・百人一首）

⑫ 校外コンクール等への参加

校内だけではなく、校外の各種コンクール等へも積極的に参加（出品）し、子どもたちが自分の力を発揮する場を設けています。子どもたちは、評価される（認められる）ことにより、より一層学習意欲が高揚するからです。

毎年、次のコンクール等へ参加（出品）して、高い評価をいただいております。

- *全日本学生児童発明くふう展 *全国小・中学校作文コンクール
- *英語検定試験 *漢字検定試験 *算数オリンピック
- *陸上競技記録会等

(3) 意欲と集中力の育成 ～教える教育より育てる教育を重視～

知能を伸ばすにも、学力を高めるためにも、将来仕事で成功するためにも、あらゆる人間生活の土台になるのが意欲と集中力です。意欲や集中力が十分でない子どもにいくら知識を教えても習得できません。そこで、幼稚園から小学校低学年までは、自発的にものごとに取り組もうとする意欲と集中力を育てることに重点をおいています。

(4) 知能を伸ばし、学力を高める教育

知能は学習する力、つまり将来学力を高めるための容器のようなものです。知能と学力の相関はかなり高く、知能が伸びるとそれだけ学力も向上する可能性が高くなります。そこで、低学年では知能開発と基礎・基本の充実、高学年では応用・発展学習に重点をおいています。

❖ 教育方針

- (1) 12歳までにできるだけ知能を伸ばす。
- (2) 基本的な知識を知能のいろいろな角度から考えさせる。

- (3) 国際理解教育を深めるために、英語教育を充実させる。
- (4) 恥と涙をわきまえて光明正大に行動できるように、心の教育を充実させる。

という4つの方針に基づき、1年生から6年生までを発達段階に応じて次の2段階に分けて適切な指導を行います。

[知能開発期 ～1年生から4年生まで～]

- ① 知能指数 (IQ) を伸ばすとともに、理解力・記憶力・創造的思考力・論理的思考力・判断力等を育て知能の幅を広げます。
- ② 基本的な知識を知能のいろいろな角度から考えさせるようにします。
～できるだけ多くの知能因子を刺激できるような学習内容にします～
- ③ 基本的な知識や技能を習得させ、基礎学力を高めます。
- ④ 国際理解教育を深めるために、英語教育を充実させます。

外国の生活や文化など異文化に触れたり、慣れ親しむことにより、英語に興味・関心をもたせるようにします。そのために、英語を言葉として聞く・話すことを重点にナーサリータイム（童謡）、歌、英語のリズム遊び等を通して音声中心の授業を1・2年生は週1時間、3・4年生は週2時間、5・6年生は週3時間、15名程度のグループを編成して実施します。

[知能活用期 ～5・6年生～]

- ① 基本的な知識や技能を習得させます。
- ② 基本的な知識を知能のいろいろな角度から考えさせるようにします。
～できるだけ多くの知能因子を活用できるような学習内容にします～
- ③ 国際理解教育を深めるために、英語教育を充実させます。
- ④ 基礎学力を充実させるとともに、応用学習や発展学習の助長に努めます。
- ⑤ 創造的、総合的課題の探究の助長に努めます。
- ⑥ 進路指導を徹底します。
 - 自主的・自立的な正しい進路の選択をしていく力を育てます。
 - 合理的な学習指導と学力の分析に基づく進路指導を行います。
 - 一人ひとりの個性と能力に応じた適切なアドバイスを行います。

❖ 教育構造

- ① 要素的知的能力（知能）の開発 …… 知能訓練・工作・ゲーム
- ② 基礎的技能の習得 …………… 教科及び知能訓練
社会的技能・知的技能・数量的技能・実技的技能（手技的技能、心身調整）
- ③ 環境文化の学習 …………… 教科内容
- ④ 創造的、総合的課題の探究 …………… 特別研究・教科
- ⑤ 特別活動 …………… 学校行事、クラブ・委員会活動

❖ 教育課程

(1) 本校の教育課程の柱は、次の通りです。

- 知能教育 —— 知能訓練・ゲーム・工作
- 教科教育 —— 各教科
- 特別研究（総合学習）
- 特別活動 —— 学校行事・クラス活動・委員会活動・クラブ活動
- 道徳教育 —— 朝礼・クラス活動・リーダーインミー

(2) 本校の教育課程の特徴は、次の通りです。

- 知能教育
- ゲーム
- 工 作
- 英語教育
- 特別研究
- 社 会 科 —— 地理と歴史に分けて、地理は3年生から、歴史は4年生から学習します。また、政治と経済の分野は、地理・歴史の中に入れて指導します。
- 90分制授業 —— 英才児の集中力の持続性を生かすと共に、教えることより育てること、つまり子どもの主体的な学習活動を大切にするために、授業単位は原則として90分制にしています。

(3) 週当たりの授業時間数

1 校時 45 分として、各学年における教科の配当時間数は次の通りです。

〈教育課程一覧表〉

学年 教科	1	2	3	4	5	6
国 語	7	6	6	6	6	6
数 学	6	6	6	5	5	5
英 語	1*	1	2	2	3	3
理 科	0	2	3	3	3	3
地 理	0	0	2	2	2	0
歴 史	0	0	0	2	2	2
知能訓練	2	2	2	2	0	0
ゲ ー ム	1	1	0	0	0	0
工 作	1	1	0	0	0	0
体 育	2	2	2	2	2	2
美 術	2	2	2	2	1	2
音 楽	2	2	2	1	1	2
家 庭	0	0	0	0	1	1
特別研究	0	0	0	0	2	2
特別活動	1	1	1	2	1	1
朝礼(道徳)	1	1	1	1	1	1
総 数	26	27	29	30	30	30

※原則として、土曜日は休業日です。

※英語科——1年生は9月から英語の授業を開始します。

[備考]

- 特別活動——1年生から3年生までは、学年及びクラス単位で活動します。
4年生から6年生は縦割りで、委員会及びクラブ活動です。
- 生活科——生活科は、特別活動・ホームルーム活動・宿泊を伴う学校行事等において学習します。
- 家庭科——家庭科は、特別時程・クラス活動、宿泊を伴う学校行事等においても学習します。
- 「地理」(2年次)、「歴史」(3年次)は、年間10時間特設授業を設定します。

Ⅱ 教科の基本方針と内容

知能教育

1. 知能教育の基本原則

人間の知能は40数年前までは、遺伝的な要素が強く教育しても効果はない、と考えられていました。ところが、大脳生理学や知能心理学の研究が進むにつれて、遺伝的な要素よりも、生後の環境（教育）によって変化することが分かってきました。

大脳生理学の研究によりますと、

- (1) 大脳皮質の細胞は、外部からの刺激によってのみ発達する。

例えば、狼の中で育った人間の子どもは、外部からの言語的な刺激がないので言語知能は発達しないのです。この立場から大脳生理学者の中には、大脳に関する限り、遺伝的要素を全て否定する人もいます。

- (2) 外部からの刺激による脳髓の発達、身体他の部分に比べて、極めて早期に行なわれる。

これは身長や体重の発達カーブと、脳重量の発達カーブとの比較からも推定できるし、脳髓の髄鞘化や神経回路の研究からも明らかです。したがって、脳髓、知能の発達の度合いは、大体0歳から12歳頃までの間に決定されます。

- (3) 大脳皮質のおよそ150億の細胞は、その位置によって知能のそれぞれのはたらきを分担している。

記憶をつかさどるものもあれば、言語をつかさどるものもある、ということが分かってきました。

このことを教育学の立場から考えますと、

- ① 人間の知能は、外部的刺激、すなわち教育（環境）によって発達する。
- ② そうした知能教育は、できるだけ早期に行なわないと効果がない。
- ③ 知能にはいろいろな因子があるから、知能教育はその因子を分析し

て、その全てに刺激を与えるようにしなければならない。
ということになります。

2. 知能教育の目標

知能についての定義や理論は、知能についての研究者の数ほどある、と言われているくらい、様々な定義づけがなされています。聖徳では、こうした知能研究者の共通した知能観とこれまでの私たちの実践研究を基にして、次の3つの能力を育成することを目標にしています。

- (1) 知識や情報、技能を育てる力を育てる
- (2) 習得した知識や情報、技能を新しい場面（学習や生活）に活用する能力を育てる。
- (3) 洞察力や判断力を育てる

3. 指導内容

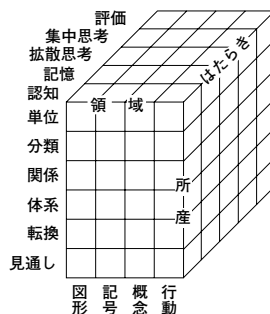
(1) 知能因子の構造

こうした大脳生理学の研究を受けて、知能心理学者の間で、知能因子の分析が盛んに行なわれるようになりました。そして、アメリカの心理学者ギルフォード博士は、知能には三つの面があるとして、下の図のような知能構造を考案しました。この知能の三つの面というのは、領域（Contents）と所産（Products）とはたらき（Operations）です。これを具体的に示すと、

① 考える「領域」としては、

- 図形 (figural) ……………形を使って考えること
- 記号 (symbolic) ……………色彩・音・文字・数字を使って考えること
- 概念 (semantic) ……………言葉の意味を使って考えること

〈知能構造図〉



行動 (behavioral) ……他人の行動を理解するのにその人の行動によって考えること

※その後、ギルフォードは「聴覚」を追加しましたが、本学園では「聴覚」も「記号」の領域に含めて取り扱うことにしています。

② 考える「所産」としては、

単位 (unit) ……あるもの

分類 (class) ……他と区別されるもの

関係 (relation) ……二つの間に成立するもの

体系 (system) ……三つ以上のもの間に成立するもの

転換 (transformation) ……変化・きりかえ

見通し (implication) ……起こりうる結果

③ 考える「はたらき」としては、

認知 (cognition) ……理解する・わかる・知る・意識する能力

記憶 (memory) ……銘記・再生・完全に覚える能力

拡散思考 (divergent production) ……独創的なことを思いつく・自由になめらかに考える能力

集中思考 (convergent production) ……正しい解決を見出す力・推理する能力

評価 (evaluation) ……批判・比較・選別・判断する能力ということになります。



反対語の神経衰弱

具体的な知能因子というのは、領域（横）×はたらき（たて）×所産（高さ）の組合わせですから、

$4 \times 5 \times 6 = 120$ 全部で 120 の知能因子の数になります。たとえば、

「図形で単位を記憶する」

「記号で分類を拡散思考する」

「概念で関係を集中思考する」

というのが、1つの知能因子になるわけです。

(2) 知能教育の実際

この 120 の知能因子の中から、授業で刺激しづらい行動の領域を除くと 90 の知能因子になります。これらを 1 週間に 1 因子ずつを取り上げて、それにふさわしい独自の教材を作成して、刺激を与えるという方法で授業を進めています。授業内容は、パズルやゲーム形式が中心になりますので、子どもたちにはとても好評です。



キャッチ・ザ・スクエア～正方形作りゲーム～

4. 指導方針 ～知能教育とは～

(1) 多くの知能因子を刺激して、幅の広い思考力を育てる

知能指数（IQ）を伸ばすとともに、理解力・記憶力・創造的思考力・

論理的思考力・判断力などを育て、知能の幅を広げます。

(2) 意欲と集中力を育てる

(3) 能力に応じた指導 ～能力の限界に挑戦させる～

学習内容が簡単すぎたり、逆に難しすぎると、子どもは興味を喪失してしまいます。また、子どもが簡単に解決してしまうような学習内容では、知能（能力）は向上しません。そこで、一人ひとりの子どもの能力に応じた内容（課題）を与えるようにします。

(4) 教えるのではなく、考えさせる

知能は知識とは異なり、教え込んで発達するものではありません。したがって、できるだけ自分の力で考えさせるようにして、子どもが行き詰まった場合でもヒントを与える程度にします。

(5) 思考過程を大切にす ～結果だけで評価しない～

知能というのは、子どもが一つのこと（教材）に集中して取り組んでいるときに、最も活発に働いているわけですから、「できた、できない」の結果だけで評価しないようにしています。

5. これまでの成果

(1) 知能指数の伸び

聖徳学園では1969年以来、2歳から小学生の子どもを対象にして知能教育を実践してきました。2000年には聖徳式知能検査を独自に開発し、幼児、小学生を合わせると毎年600回を越える知能検査を実施しています。次のグラフは聖徳学園小学校の児童の入学時と卒業時の知能指数（IQ）の比較です。多くの児童が6年間で著しい伸びを示しています。これは1年生から4年生までに実施している知能訓練の効果とその他の教科でも行われている「教えるのではない、考えさせる授業」の効果と言えます。



(2) 学業成績（学力）との関係

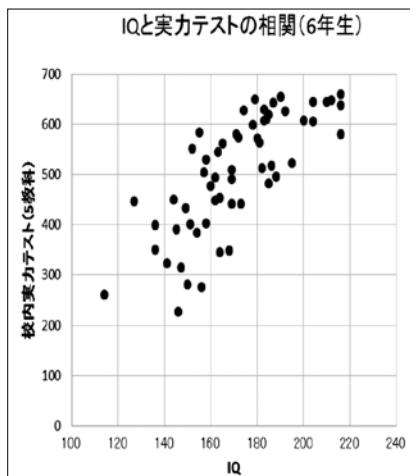
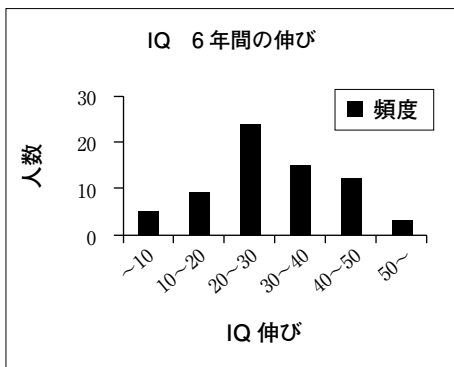
知能と学力との相関が高いことは、世界の学者が認めていますので、あらためて説明するまでもないでしょう。

本校では児童の学力を客観的に評価するために、4年生以上で実力テストを実施しています。次のグラフは6年生の実力テストとIQの相関関係を示す散布図です。実力テストは国語、数学が200点満点、英語、理科、歴史が100点満点、合計700満点です。点の集まりが右上がりになっていることは、IQと実力テスト結果が正の相関になっていることを示しています。つまり、IQが高いと実力テストも高得点になる可能性が高いということになります。

散布図で相関の傾向は見ることはできますが、相関が強いのか、弱いのかの分かりません。

相関の強さを示すものとして相関係数があります。相関係数は0から1までの値になり、1が一番強くなります。また、負の相関の場合は0から-1までになります。一般的に次の表のように言われています。

± 0.7 ~ ± 1.0	強い相関がある
± 0.4 ~ ± 0.7	中程度の相関がある
± 0.2 ~ ± 0.4	弱い相関がある
± 0.0 ~ ± 0.2	ほとんど相関がない



今回の調査では、相関係数が0.763でした。IQと実力テスト結果の関係には強い相関があると言えます。

もちろん本校の場合は、5、6年生になると学年の平均知能指数は160～170ぐらいになりますので成績がいいのは当然といえば当然ですが、このことは知能が伸びればそれだけ学力も向上することを意味するものです。また、こうした傾向は1年生より2年生、2年生よりも3年生といった具合に、上級学年になるにつれて、学力面にはっきり現れてきます。これは上級学年になるにつれて、教科の学習内容がそれだけ高度な知能的処理を必要とするようになるからです。本校で低学年において、知能教育を重視している意味はここにあるのです。

(3) 知能が伸びると受験も有利になる

これまで知能は学習能力でもあること、知能と学力との相関は高いことを述べてきました。入学試験においても、主に学力検査が中心になるので、知能を伸ばしておくだけで受験にも有利になってくることは間違いありません。事実、これまでの卒業生の進学状況をみても学校では特別に受験のための指導をしているわけではありませんが、中学校への進学では国立の附属や開成、慶応、武蔵、麻布、桜蔭など、いわゆる難関校へ毎年10名ぐらい合格しているのです。毎年10名というと、卒業生の数は、約60名ですから、率の上ではどこにも劣らない実績を残していると言えるでしょう。

だから知能教育というのは、単に知能指数を伸ばすとか、学業成績をよくするためだけではなく、人間生活のすべてにかかわってくる大切なものなのです。このことは、卒業生の社会での活躍が証明してくれています。(詳細はV卒業生の進路状況145ページを参照)

進学実績と知能の相関関係 (2009～2014)

学 校 名	進学人数	進学者の平均IQ
筑波大学附属駒場中学校	10	198.7
開成中学校	11	191.3
桜蔭中学校	10	199.3

IQ：卒業時の知能指数（聖徳式知能検査）

《知能訓練科》

1. 指導内容

小学校の知能教育は、次の三つで構成しています。

- ①知能訓練…90の知能因子に基づき、1～4年生に対して週1回90分授業を行い、一年間で30因子の刺激を目指して計画を立てていきます。
- ②ゲーム…ゲームは思考力を養う（知能開発）のに大変効果がある。そこで知能教育の一環として、1～2年生に対して、週1時間相当行う。
- ③工作…手先の訓練は、脳の発達を促進させるのに大変効果があり、知能教育の一環として、1～2年生に対して、週1時間相当行う。

2. 知能訓練科の指導計画

知能訓練科では知能因子訓練順に従って計画を立てます。よって4月にスタートする因子は年によって変わってきます。

具体的には、1年生からスタートして3年生で90因子を一巡します。そして、4年生では同じ因子を刺激しますが、内容は4年生に相応しい内容となり、難易度は高いものとなります。以下、教材名一覧です。3つの段階からクラスの実態に応じて使用します。

（教材名は検討した上で変更することがあります。）

	1年生 使用教材名	2年生・3年生 使用教材名	3年生・4年生 使用教材名
CFR	図形のマトリックス	位置関係の把握Ⅰ	位置関係の把握Ⅱ
CSS	記号体系の発見Ⅰ	記号体系の発見Ⅱ	記号体系の発見Ⅲ
CMC	類似語の認知	類似文の認知ゲーム	類似文の認知
MFS	折り紙遊び	地図の記憶	地図・星座の記憶
MSR	記号の関係記憶Ⅰ	記号の関係記憶Ⅱ	記号の関係記憶Ⅲ
MMT	なぞなぞカルタの記憶	同音異義語の記憶	同音異義語の記憶

Ⅱ 教科の基本方針と内容

DFU	モール遊び	図形の思いつきⅠ	図形の思いつきⅡ
DSS	等式作り	計算ゲーム	記号体系作り
DMC	共通点の思いつき	物の利用法Ⅰ	物の利用法Ⅱ
NFI	線路つなぎの完成	線路図の完成	隠された積木
NSU	クロスワードパズルⅠ	言葉の推理	クロスワードパズルⅡ
NMT	意味転換カルタ	言葉の転換	言葉の転換パズル
EFR	線対称図形の比較判断	対称図形ゲーム	図形変化の比較判断
ESI	最短距離の判断Ⅰ	五十音の見通し判断	最短距離の判断Ⅱ
EMT	用途の比較判断Ⅰ	用途の比較判断Ⅱ	同音語の比較判断
CFS	漢字パズル	立体カード作り	図形変化の比較判断
CSR	数の関係認知	記号の関係認知	記号変化の認知
CMT	同音異義語の認知	絵文字・同音異義語の	なぞ絵・判じ絵の認知
MFR	図形変化の記憶Ⅰ	図形変化の記憶Ⅱ	傾向図形の再生
MSS	記号体系の記憶	数列の再生	暗号の再生解読
MMC	類概念の記憶Ⅰ	類概念の記憶Ⅱ	類概念の記憶Ⅲ
DFS	形作りの拡散Ⅰ	形作りの拡散Ⅱ	形作りの拡散Ⅲ
DSR	計算ゲームⅠ	計算ゲームⅡ	計算ゲームⅢ
DMT	連想遊び	意味上のしりとり	ことばの連想・思いつき
NFR	形の関係推理	図形の類推作図	図形の関係類推
NSS	記号体系の類推	記号体系パズルⅠ	記号体系パズルⅡ
NMC	単語分類カード	目標語分類カード	言葉の分類
EFS	図形の完成	おりがみ	模型作り
ESR	記号の関係判断Ⅰ	記号変化の計算	記号の関係判断Ⅱ
EMC	概念共通点の判断	最適な対語の判断	文章の分類判断
CFT	穴あき折り紙Ⅰ	穴あき折り紙Ⅱ	図形転換の認知
CSC	記号の異質の発見	文字分類の認知	数の類発見ゲーム
CMI	見通し4コマまんがⅠ	見通し4コマまんがⅡ	推理クイズの解法
MFC	漢字の共通部分の再生Ⅰ	漢字の共通部分の再生Ⅱ	漢字の共通部分の再生Ⅲ
MST	数字の言葉置き換え記憶	記号の置き換え記憶	文字の入れ替え記憶
MMR	対概念の再生	反対概念の再生	関係概念の再生
DFT	マッチ棒クイズⅠ	マッチ棒クイズⅡ	正方形作りゲーム
DSC	記号札分類の思いつき	記号分類ゲーム	記号の分類の工夫
DMI	こんなときにはどうするⅠ	こんなときにはどうするⅡ	計画案作り
NFC	形の分類	漢字の分類	漢字の分類
NST	透明記号札パズル	透明記クロスパズル	記号の転換の推理

NMU	ものあてクイズ	上位概念カード	漢字バズル
EFT	マッチ棒の置き換え判断	図形変化の比較判断Ⅰ	図形変化の比較判断Ⅱ
ESC	最高の得点判断Ⅰ	ポーカー式トランプ分類ゲーム	最高の得点判断Ⅱ
EMU	最適な文章表現	意味の通る文の判断	最適な言葉
CFI	迷路	条件つき迷路	詰連珠
CSU	語の完成Ⅰ	語の完成Ⅱ	語の完成Ⅲ
CMS	文作りカード	概念体系の認知	概念体系の完成
MFU	図形の再生	漢字の再生	地図の記憶
MSI	符号の置き換え双六	クロスワードパズルの再生Ⅰ	クロスワードパズルの再生Ⅱ
MMU	語の再生Ⅰ	語の再生Ⅱ	語の再生Ⅲ
DFI	基本図形を使って	迷路作り	見通し双六作り
DSU	言葉の思いつきⅠ	言葉の思いつきⅡ	言葉の思いつきⅢ
DMS	お話作り	カルタ読み札作り	折り句
NFU	隠された文字の推理	投影図からの積み木パズル	見取り図の推理
NSI	記号の見通し推理Ⅰ	記号の見通し推理Ⅱ	記号の見通し推理Ⅲ
NMR	関係概念カルタ	関係概念の推理Ⅰ	関係概念の推理Ⅱ
EFI	道つなぎゲーム	線路つなぎゲーム	36 コースゲーム
ESU	同一記号の判断Ⅰ	同一記号の判断Ⅱ	同一記号の判断Ⅲ
EMR	言葉の関係類推Ⅰ	言葉の関係類推Ⅱ	言葉の関係類推Ⅲ
CFU	隠されているもの	隠された漢字Ⅰ	隠された漢字Ⅱ
CSI	スケルトンⅠ	スケルトンⅡ	記号配列の見通し
CMR	ことばの関係認知Ⅰ	言葉の関係認知Ⅱ	関係概念の類推
MFU	一筆書きの再生Ⅰ	迷路の再生	一筆書きの再生Ⅱ
MSU	記号の再生Ⅰ	記号の再生Ⅱ	記号の再生Ⅲ
MMS	話の記憶Ⅰ	話の記憶Ⅱ	詩の再生
DFR	形の関係づくりⅠ	形の関係づくりⅡ	漢字の思いつき
DSI	本双六	宝探しすごろく	ミニ・バックギャモン
DMU	概念の拡散Ⅰ	概念の拡散Ⅱ	概念の拡散Ⅲ
NFS	清少納言知恵の板	ユークリッドパズル	デビルパズル
NSR	暗号遊び・計算推理ゲーム	暗号解読・計算パズルⅠ	暗号解読・計算パズルⅡ
NMI	事物の推理Ⅰ	事物の推理Ⅱ	事物の推理Ⅲ
EFU	同一図形探し	地図の比較判断Ⅰ	地図の比較判断Ⅱ
ESS	数列のきまりの判断Ⅰ	数列のきまりの判断Ⅱ	数列のきまりの判断Ⅲ
EMI	最も必要なもの	最適なものの判断Ⅰ	最適なものの判断Ⅱ
CFC	共通図形の発見Ⅰ	共通図形の発見Ⅱ	漢字の共通点の発見

CST	文字パズル	文字入れ替え言葉作り	文字入れ替え文作り
CMU	語の完成	クロスワードの完成Ⅰ	クロスワードの完成Ⅱ
MFT	図形変化の記憶Ⅰ	図形変化の記憶Ⅱ	図形変化の記憶Ⅲ
MSC	記号の類の再生Ⅰ	記号の類の再生Ⅱ	記号の類の再生Ⅲ
MMI	カルタの再生Ⅰ	見通しカルタの再生Ⅱ	上方いろはカルタ言葉の順序の記憶
DFC	万国旗の分類法	形の分類法	漢字の分類
DST	文字転換言葉作りⅠ	文字転換言葉作りⅡ	文字転換言葉作りⅢ
DMR	関係概念の思いつきⅠ	関係概念の思いつきⅡ	関係概念の思いつきⅢ
NFT	折り絵漢字パズル	隠された図形Ⅰ	隠された図形Ⅱ
NSC	記号札の分類の工夫Ⅰ	記号札の分類の工夫Ⅱ	記号札の分類の工夫Ⅲ
NMS	文章整序Ⅰ	文章整序Ⅱ	文章整序Ⅲ
EFC	図形得点評価ゲーム	共通図形の分類判断Ⅰ	共通図形の分類判断Ⅱ
EST	記号置き換えの判断Ⅰ	記号置き換えの判断Ⅱ	熟語点数置き換えゲーム
EMS	概念体系の判断	最適な文章の判断	話の矛盾

3. 知能訓練科の教材

知能訓練科では、形式として、パズル、ゲームをふんだんに取り入れていることが大きな特徴といえるでしょう。

『聖徳といえばゲーム』と言うぐらい知能訓練の授業内でたくさんのゲームを取り入れています。子どもは『ゲーム』という響きに心を躍らせます。勿論、聖徳の子ども達も例外ではありません。実際に知能訓練の授業でも決まって「先生、今日ゲームある？」と第一声に声を上げることが多々あります。



聖徳の子どもたちが大好きな「Sケン」「宝陣取り」をモチーフにした手作りの双六盤とコマ。

サイコロの数を使って駒を進める「宝取り双六」

ここ数年、公立などでもゲームを取り入れた授業展開が多く見られていることは知られていますが、聖徳学園では、1969年の英才教育を始めた頃よりゲームの効能に着目し多くの教科でゲーム形式を取り入れていました。

そして、知能訓練では、実に様々な因子ごとに相応しいゲームを開発しており、知能因(90)×段階(SJ/SS/NE)=270教材、少なくとも半数以上の教材数分、ゲームやパズルを作成しています。手作りコマなど小物を使用した双六、ボードゲームは児童にも大人気で楽しみながら考えることができます。カードゲームでも、神経衰弱形式、ババ抜き形式、7並べ形式、ポーカー形式、セブンブリッジ形式、51形式、ドミノ形式等で遊べるようにルールも知能因子のねらいに基づき工夫して考えられ、バラエティに富んでいます。



立体キューブパズル



透明ピースを使って推理する「モザイクパズル」

多くの教材の中には、ゲームだけではなくクイズやパズル形式、手先の巧緻性も大事にしている教材も人気があります。模型作りでは、見本通りに作成することで評価力を養うことに繋がり、自由に発想し、アイデアを形にすることは拡散思考の力を養います。



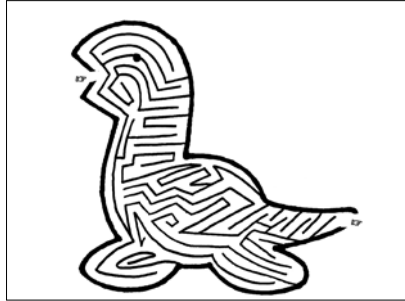
ピースを柔軟に使う作品作り。
「何をつくらうかな」



1本のモールから様々な形を考える。

また、1年生の最初の授業では、「知能訓練は何をやるのかな?」という気持ちを大事にして「楽しそう!面白そう!やってみたい!」と思えるようなオープニング教材を準備して実施しています。そして、4年生になると「人生設計」(自分の人生を見通しを立て、考える年表作り)や、難易度の高いパズルや課題にもチャレンジしていきます。

オープニング教材「迷路」



【知能訓練は考える器作り】

言葉で書くと難しそうな「知能訓練科」の教材ですが、工夫を凝らした手作り教材です。その作成の目的は、楽しく知能の刺激をすることです。しかし、ただ頭が良い子を育てることではありません。知能が高く、創造性が豊かということは、将来、自分の為だけではなく、人の立場に立って考え、人の役に立つ人間、社会貢献する豊かな人格を育てる土台作りに繋がります。それには「教えること」より「考えさせる」ことに重点を置いて教材を作成しています。また、知能訓練で培われた理解力、記憶力、創造的思考力、論理的思考力、解決力、判断力等は各教科でも存分に力を発揮します。

《ゲーム科》

1. ゲーム科が目指すもの

「ゲームの授業は、ゲームの勝ち方を教える時間ではありません」

知能教育の一環として、1、2年生の児童を対象にゲームの授業を行っています。しかしその目的は、勝ち方を教えてゲームの強い子を育てるためではありません。ゲームを通して、知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てることを目標にしています。

ゲームは性質上、見通し力や転換力を中心にした思考力の刺激に有効です。また常に相手がいるので、その対戦を通して人間性・社会性を育てています。それらがゲーム科のねらいであり、知能訓練科と分けて授業を行っている理由です。

知能訓練では、一人ひとりの子どもの個性と能力に応じた指導を行うことが大原則です。「できた・できない」の結果にこだわらず、思考過程を大切に育てていきます。しかしゲームでは、『ルール』というものが存在しますので、一人ひとりの子どもの個性と能力に応じて、「Aは、能力が高いから特別ルールで」「Bは、習得が遅いからハンディキャップを与えて」「Cは、内向的だから一人ではなく二人で組んで戦って」というわけにはいきません。同じルールで同じ土俵で対戦しなければならないのです。

そして必ず勝敗という結果もついてきます。たとえ指導者が勝ち負けにこだわらないように指導したとしても、子ども達が身を持って勝つ喜びや負ける悔しさをリアルタイムで味わっているのです。これはゲームの時間ならではの体験です。

ですから初めに示した通り、ゲームの授業はゲームの勝ち方を教える時間ではないのです。負けたことが悔しかったら、どうすれば勝てるのかを自分で考えます。自分の力でつかむ勝利の喜びを知れば、次も勝てるように、もっと強くなる方法を考えます。実践を通して、どうしたら勝てるのかを考え、先を見通す力を育てていきます。それがゲーム科のねらっているところです。その体験を通して、

勝った人・強い人には尊敬の念を抱けるように。

負けた人には思いやりの気持ちを持って接することができるように。

観戦時には公明正大に戦っている人を心から応援できるように。

そんな子ども達を育てていきます。

それがゲーム科の目指しているものです。

2. 年間計画と指導内容

1 年生		
月	教材	指導内容
4 5	オセロ (90×3)	○ルールを覚える。 ○石の置き方・取り方を工夫させる。
6 7	五目並べ (90×3)	○ルールを覚える。 ○間を空けずに置いていくなど、基石の置き方を工夫させる。
9 10	将棋 (90×3)	○ルールを覚える。 ○駒の動きを活かしながら、詰ませる。
11 12	百人一首 (90×4)	○源平合戦のルールを覚える。 ○百人一首の歌に多く触れ、覚えさせる。
1 2 3	カードゲーム (90×3)	○色々なカードゲームに触れる。 ○カードゲームをする上での基本的な用語や動きを覚えさせる。 ○大勢で行うゲームのマナーを考えさせる。

2 年生		
月	教材	指導内容
4 5	オセロ (90×3)	○ルールを確認する。 ○有利な石の置き方を考えさせる。
6 7	五目並べ (90×3)	○ルールを確認する。 ○「四三」や白の「三三」を作るなど、上手に基石をつなげさせる。
9 10	将棋 (90×3)	○ルールを確認する。 ○手筋を考えながら駒の動きを上手く活かし、詰ませる。
11 12	百人一首 (90×3)	○源平合戦のルールを確認する。 ○覚え方を工夫し、より速く、たくさんの札が取れるようにさせる。
1 2 3	オリジナルルール作り (90×4)	○オリジナルのルールを盛り込んだ新しいゲームを考えさせる。

3. それぞれのゲームについて

「お願いします」と「ありがとうございました」

ゲーム開始時には、戦う相手への礼儀として「お願いします」
終了時には全力で戦ってくれた相手に対し「ありがとうございました」
この二つのあいさつを大事にしています。

オセロ

覚えるのは1分、マスターするには一生かかる

これはオセロゲームのキャッチフレーズです。奥が深いゲームではありますが、ルールがとてもシンプルなので、1年生が最初に行う2人対戦型のゲームとして大変適しています。

2年生でも最初に行いますが、1年生の時に実践しているので、更に有利な石の置き方を考えていきます。

五目並べ

自らの石を、先に五個直線に並べた方が勝ち

聖徳では、1回勝負がついたら、次は石の色を換えて行い、連勝したら勝ちが決まります。黒が先手で対局を開始します。先手の黒には、有利だからこそ禁手があります。逆に、不利な後手の白には禁手がありません。この黑白どちらの碁石でも続けて勝つという点が面白さですが、難しい点でもあります。1年生では1学期の後半に、2人対戦型の二つ目のゲームとして実施します。

2年生でも同時期に行いますが、1年生ではなかなか作ることができない、「四三」や黒に禁手を打たせるような手を考えていきます。

将棋

取った駒をもう一度使えるというルールは、日本の将棋だけの特徴

日本の伝統のゲームです。覚えるルールがたくさんあり、初心者にはとても難解なゲームです。「王将（玉将）を詰ませた方が勝ち」というゲームの目的自体が難しく、その上8種類の駒の配置と動きを覚えなければ、ゲームそのものができません。オセロや五目並べに比べると、この点が複雑で、苦手意識を

作る原因になったりもします。2人対戦型の最後のゲームとして2学期に行います。

2年生でも同時期に行いますが、1年生の時にそれぞれの駒の動きやはたらきをしっかり覚え、取った駒を使えるというルールや成るというルールなど、将棋ならではの面白さを感じ入った児童は、相当なレベルにまで腕を上げて授業に臨んできます。

百人一首

「あきのたの…」と「もしきや…」

聖徳の百人一首のゲームは、50枚持ちの源平戦で行います。チームは、2人から4人で組みます。自分のチームの札を縦5枚、横10枚に並べます。自分のチームの札がなくなったら勝ちになります。

これまでのゲームは2人対戦型なので、2人のペースで試合ができます。しかし百人一首は読み手（指導者）も含めて、クラスが一つにならないと取り組めないゲームです。2学期後半に行うのは、季節柄もありますが、クラスメイトのことが大分わかってきて、他人に目が行くようになっていく時期だからです。クラスがまとまって一つのことを行っていくには丁度良い頃です。

1年生が最初に覚える歌は、「あきのたの…」。そして「もしきや…」も覚えます。これは歌の順番の1番目と100番目に当たります。この二首に関しては、ほぼ毎年かなりのスピードで取ることができます。他の歌に関しては、下の句まで詠まないと、ほとんど取ることができません。それが1年生の実態です。

2年生でも同時期に行いますが、札を取るスピードは格段の差があります。1年生の時に参加した『百人一首大会』での経験が大きな要因となり、力をつけていきます。そこで繰り返される上級生の熱い戦いに衝撃を受け、多くの子ども達がその後熱心に歌を覚え、早く札を取る工夫をします。「む・す・め・ふ・さ・ほ・せ」のように、おはこの歌を作り、瞬時に取る練習をします。2年生では、かなりの歌が上の句で取れるようになります。

カードゲーム

4種類の記号のことをスーツと言います

トランプゲームの説明で、最初にこのことを教えると「へー」と言って感心します。「マーク」と呼んでいる児童がほとんどだからです。またそのスーツの名称を尋ねると「♠スペード」「♥ハート」「♦ダイヤ」は正確に言えますが、「♣クラブ」とは言えません。大概「クローバー」と答えます。この導入だけで、「もっと知りたい」という興味の幅が広がります。

他にもトランプの枚数・カードの強弱・カードの順位・シャッフル・親・親の決め方などなど、基本的なことを教えていきます。トランプゲームは知っているも、基本的な事柄を知らない児童が多いので、とても興味深く説明を聞いています。

取り組むゲームの種類はクラスによって違いますが、七並べを變形させた『變形七並べ』は人気があります。一般的には『殺しの七並べ』という名称ですが、聖徳ではこのようにネーミングし、得点の付け方も独自のルールで行っています。

「大勢で行うゲームのマナーを考えさせる」というねらいに基づいて、1年生のゲームとして最後に取り組んでいます。

オリジナルルール作り

オリジナルのルールを盛り込んだゲームを考えさせます

2年生がゲームの時間のまとめとして取り組みます。今まで学んだゲームのことを活かし、オリジナルのルールを考えて各自でゲームを作ります。自分達で作ったゲームで遊ぶ楽しさも実感させます。

使用するゲームの素材は、その年度やクラスによって違います。その時々に応じて子ども達への与え方を指導者が工夫していきます。ゲームの内容によっては、プレイルームに置いて使ってもらうこともあります。

勝敗に関係なく取り組める唯一のゲームの授業になりますので、普段はなかなかゲームに勝てない児童でも、『オリジナルルール作り』では力を発揮して頑張れます。「負けてばかりだからゲームはつまらない」と思っている児童でも、自分で作ることができるこの時間を楽しみにしています。ゲームのルールそのものを考えることによって思考力を磨いていきます。

Ⅱ 教科の基本方針と内容

作ったゲームで遊ぶ場合には、そのルールが本当に活かされているのか、子ども達同士で検証しながら取り組みます。ゲームとして成り立っているかどうかのジャッジを自分達で行うのも楽しみの一つです。



《工作科》

1. 工作科が目指すもの

「工作の授業は、完成した時の作品をイメージし、そこへ到達するために、いかに素材を加工するか。そのためにはどのような道具を利用するのか。そして、どういう手順で作業を進めていくのか、見通しをもって作業を進めていく」ことがねらいになります。そのためには、次のことが必要になります。

- ① 素材を理解する力。(同じ紙でも種類によって、強度と加工のしやすさに違いがあること、それぞれの長所と短所)
- ② 道具を正しく使用する力。
- ③ 作業手順を見通す力。

この力を利用して、作品完成へ向かって手を進めます。また、夢中になって作業を進める中で、この力が刺激され伸びてきます。子ども達のこういう作品を仕上げたいという意欲・集中力が、相乗効果をうみ、知能面の力を伸ばすことにつながります。こうして、作業を重ね、作品が完成することで、達成感を実感し、その達成感が自信へととなります。この一連の流れが、工作科の目指している知能教育です。その子ども達の意欲・集中力が発揮されるためには、始まるの興味関心が大切になってきます。子ども達の「こういうものを作りたい」という気持ちがわく題材を準備することも重要になります。現在は、次のような計画と指導内容を行っていますが、そこを終着点とせず、反応や作品の完成度をもとに、常に良いものへと部内での研究を行っています。



1年生3学期 コリントゲーム作り

2. 年間計画と指導内容

年間計画

1年		
月	教材	ねらい
4	紙工作Ⅰ 折り紙等 (90×1)	◎一枚の紙から、立体的なものを表現させる。 ○設計図を読み取り(山・谷折り)、想像しながら正確(丁寧)に折る。
5 6 7	紙工作Ⅱ 街づくり 輪投げ (90×4)	◎一枚の紙から、立体的なものを表現させる。 ○板紙に支柱を立てる工夫を考える。
9 10 11	身近な材料を使ってⅠ 紙コップのケン玉等 (90×3)	◎身近にある物に目を向け、それを利用して生活で使用するものや遊ぶものを作らせる。 ○受け皿・玉・糸のバランス(難易度)を意識し、工夫する。
12	凧作りⅠ グニャグニャ凧 (90×2)	◎身近な材料を素材として凧を作り、それを使って伝承的な遊びに親しませる。 ○紐の結び方を習得する。

2年		
月	教材	ねらい
4 5	ゴム動力を利用して 糸車 (90×2)	◎ゴムの元に戻ろうとする力を利用して、走ったり飛んだり回ったりするものを作らせる。 ○ゴムの特性(伸び縮み・捻じれ)をいかす工夫を考える。
6 7	身近な材料を使ってⅡ カバンづくり (90×3)	◎空き箱の形を活かして、生活で使用するものを作らせる。 ○開閉・ポケットなど使い勝手を意識しトータル的に考える。
9 10	紙工作Ⅲ 飛び出すカード (90×2)	◎紙のつけ方を工夫し、仕掛け(飛び出す・現れる等)を考えながら製作させる。 ○見通しを持って、製作する。特に紙に穴をあける場合のハサミの使い方。
11 12	凧作りⅡ ダイヤ凧 (90×3)	◎和紙や竹ひごの特性を考えて凧を作り、それを使った伝承的な遊びに親しませる。 ○わしの取り扱い(糊付け)の習得。 ○梁をつけるための糸の結びを習得。

1 2 3	木工作Ⅰ コリントゲーム盤作り (90×4)	<p>◎玉の進み方などを考え釘を打ち、楽しく遊べるコリントゲーム盤を作らせる。</p> <p>○道具（釘・金槌・釘抜き・鋸・ペンキ塗り）の使い方の習得する。</p>	1 2 3	木工作Ⅱ 箱作り等 (90×4)	<p>◎製作する作品をイメージし、必要とする部品を考え組み立て、生活で使用するものを作らせる。</p> <p>○限られた材料を利用し、完成を意識したうえで、見通しをもって作成する。（糸鋸・蝶番）の利用。</p>
free	ゴム動力利用して ゴムでつぼう (90×1)	<p>◎ゴムの元に戻ろうとする力を利用し、走ったり飛んだり回ったりするものを作らせる。</p> <p>○ゴムの特性（伸び縮み・捻じれ）をいかす工夫を考える。</p>	free	グライダー作り (90×1)	<p>◎飛ばすという条件のもとで、正確に作図し製作させる。</p> <p>○バランスをとり正確に制作する。</p>



2年生3学期 ティッシュボックス作り

国語教育

1. 私たちの国語

ことばは精神発達のあとからついてくるものですから、私たちは国語教育の対象を子どもたちの精神発達に求めています。

英才児の成長・発達の実態を知らずにその相手はできません。私たちは、英才教育発足以来この子どもたちの思考路線を追跡し、感情発達の道筋を辿ることによって、その分化と組織化の進展を明らかにしてきました。

三つの観点から見る精神発達の実態

第一に、英才児の特徴をその感覚・直感に見いだしています。この子どもたちが人間成長の階梯を早くのぼっていくのは、すぐれた感覚・直感のためだと考えられます。たとえば対人関係意識のなかの恥ずかしさのような成長の課題は、その問題解決も短時間で処理しているものと考えられます。あるいはこの子たちの直感が、高い次元での意識の転換、整理をもたらすとすれば、感情生活の問題とならない成長が進行しているとも考えられます。

第二として、意識世界の住み替えが早期に進行していることがこの子たちの書いた作文資料から明らかになっています。無意識世界（潜在意識世界）と現実意識の問題です。幼稚園から低学年時代の子どもたちをラッコに喩えるならば、潜在意識世界という海中が子どもたちの住む世界です。その海中から時折、現実世界という海面に顔を出しているのがこの時期の子どもたちだと言えます。一般的には3年生頃から始まる意識世界の住み替えが、本校の児童の場合、少なくとも1年は早く現実意識世界を主たる意識世界とする住み替えをはじめていることが認められます。

更に特筆すべきは、この住み替え後も潜在意識世界との行き来を絶たない子どもたちだということです。しばしば起こるこの意識世界の転換、即ちイメージネーションが子どもたちの発想を豊かなものに行っているといえます。

第三に、自己意識の獲得が早期になされることがあげられます。自己を客観的に対象化することは成長の大きな節目であることはいまでもありません。これも、第二の特徴で述べたイメージネーションが強烈に子どもたちに作用した

結果と考えられます。

こうして三つの特徴を見ただけでも、この子どもたちの成長の歩みは早くなるのだということが分かります。この事実は、論理を操るようになるのが早いことも納得させます。しばしば英才児を生意気といった見方をしますが、それはけっして本来のものではなく、この子どもたちの本来の生きざまは素直の一語につきると言えます。

2. 教材の基本構造

(1) 成長課題を捉える

国語の領域を、「思考」「感情」「構え」の三領域と「用具言語」の四つに分けて児童の成長に接近しようとしています。児童の成長課題を捉えようとするわけですが、この成長課題をことば以前の人間のあり方—視・聴・触覚の発達過程—において捉えようとしています。

○思考

私たちは比較—照合・弁別—分離・連続—順次・転移—連絡・関係等の名称によって代表される人間の思考路線を、子どもたちの中に追跡する姿勢を取り、その思考・方法・段階に接近してきました。

○感情

ことばが体系を持ち、その世界に人間が没入する以前に、その体系構造を生み出してきた心意伝承と発達があったはずです。私たちは、それを児童の感情発達の上に捉えます。まず変化に伴う感覚分離より始め、情緒表出から感覚基準のあり方を追求、対人感情・対人態度へと進めました。対人間に生ずる感情を扱うと言っても、羨的な意味でとりあげるのではなく、感情が人に伝わる時に成立する感情や、それを見越す感情等、感情の動きとその名づけをめぐってのことです。

○構え

絵を描いたり、文章を書いたり、ものを話したりする内容とは別に、人間には特定の構えがあります。この構えを把握させることは、よりよく相手を理解するために必要なばかりでなく、生活経験上、自己を育成するために極めて重要です。児童が持っている構えに対する直感力にしばしば大人は驚嘆させられ

ます。人間は眼球の水晶体に反射したすべてを網膜に投影しているとは思われません。物理的にそうであっても、私たちは、生まれ落ちたときより人間らしい対象の定め方を習得しているのです。耳に聞こえる音響においてもおなじです。その対象と人間の交わりを構えと呼んでいると考えれば、このさまざま人間限定の在り方を、児童に把握させることは極めて必要です。

構えは、単一場面とは限らない。構えは継続され、裁断されるとき意識されます。ふつう、読者が読み物によって一喜一憂するのはそのためです。

○用具言語

「読んで」「書いて」「話して」「聞いて」ということを目的とする、そうしたことを扱う事に関する意識的な学習です。言葉の役割・機能・約束作法の学習で、用具としての言語学習、言語作業としての学習、言語作法としての学習を厳格に徹底して行いたいと考えます。私たちは、検定教科書で扱っている国語の内容もここに含めて考えています。

以上、私たちの考える国語教育はこれまで述べてきたように児童の成長の課題に接近し接触すること、これが基本姿勢です。思考・感情・構え・用具言語の四本の柱と、1年生から6年生までの縦と横の組み合わせからなる構造の中に成長の課題は設定されています。

そして、「一人一人に応じた指導」も「一人一人の限界に挑戦させる」ことも、成長の最前線を捉えることから初めて可能になるといえます。

(2) 英才児の成長に応じた教材

現在のところ、1年生から6年生まで220余りの成長課題を設定しています。私たちはこれを「要因」と呼び、一教材の一要因で全体を構成しています。

当然、英才児の成長に応じた教材を設定する場合、検定教科書だけでは対応できず、時には中学校の文章教材を使用することもあります。また、出版されている各社の検定教科書に限らず教科書以外の出版物からも要因にかなうものがあれば利用します。

一つの例として下記に示した教材は、思考領域の5年生の教材です。要因としては感情的要素を排除し論理のみで考える教材である「ナイル川のワニ」です。感情に流されず子どもを救出するための論理を考えるのです。

ナイル川のワニ

ナイル川に知恵自慢の人食いワニが住んでいた。ある日、そこを、子どもを連れて母親が通りかかると、ワニは母親から子どもをうばってしまった。

子どもをうばわれた母親は、ワニに子どもを返してくれと泣いたのだが、ワニは母親がいくら泣いても返してやらなかった。しかし、この知恵自慢のワニは腹がいつばいだだったので、ひとつ母親と知恵くらべをしてやろうと思いい、母親にこう言った。

「おれが子どもを返そうと思っているか、返すまいと思っているか、そのどちらであるかを当てたら、子どもを返してやる。」

母親はいっしょうけんめいに考えて答えた。

.....

すると、子どもは無事母親のところにもどった。

ワニは、

「人間もそうばかじゃないなあ。おまえはなかなか知恵のある母親だ。」

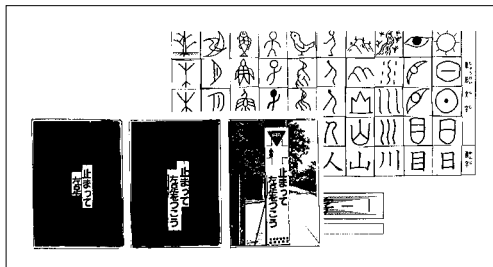
と言って笑った。

この話を読んで、母親が何と行ったのか、話し合ひましょう。

(ヒント) 仮説を立てる。()

(3) 発見法が興味関心を誘う教材

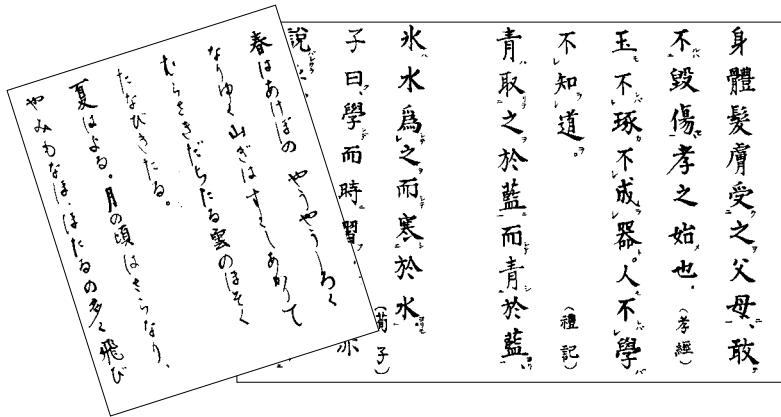
漢字学習のような基本的に反復練習の必要なものにも、可能であれば発見法を用います。



(5) 素読

多くの知能因子を刺激する立場やブルーナー（アメリカの教育心理学者）の直感的理解の立場から、素読を1年生の段階から6年生まで一貫して行っています。

この素読というのは、中国や日本の古典をその概念からではなく、図形（字形）、記号（音声）、リズムからアプローチしようとするやり方です。



3. その他

(1) 学外の取り組み

○読売新聞社主催「全国小中学生作文コンクール」をはじめ学外のコンクールに可能な限り応募しています。その選定はもちろん、本校の目標に合致するかどうかであり、また、児童の発表の場としての保障として捉えています。

上記のコンクールでは毎年多数の入賞者を輩出するのみでなく、全国での最優秀賞も受賞しています。

○漢字能力検定

年1回希望者による漢字検定を実施しています。最近では幼稚園からの応募もあり、興味関心の高さを伺わせます。

(2) 卒業論文

6年間の国語学習の集大成として「私とことば」というテーマで論文に取り組んでいます。この卒業論文は、資料を集め分析・整理し、論理的に記述することを目的とはしていません。子どもたちが、まだ明確に意識していない問題を書く、書きながら考える、書くことによって考えることを目的としています。それ故『論考』とも呼んでいます。

数学教育●

1. 本校の数学教育の特色

本校には数学が好きな子ども達がたくさんいます。英才児は物事を深く広く理解しようとし、ます。そういった子ども達の興味関心に応じたカリキュラムで学習しているので、本校では教科名を「算数」と言わずに、より専門的な「数学」という言葉で呼んでいます。例えば1年生で扱う図形の学習では、教科書では「かたち遊び」などの題名で身近なところから形を探す学習などが中心です。本校では1年生で曲線と直線の違いや角の意味と直角を学習します。そして曲線で囲まれているか、直線で囲まれているか、角の数や辺の数など、様々な視線で図形を分類し、そこから三角形や四角形の定義を学習します。また三角形についてもさらに詳しく、正三角形・二等辺三角形・直角三角形を学習します。このように児童の興味・関心を大切にしながら、より深く広く学習を進めています。

また本校のカリキュラムの中には「集合」「数列」「確率」など、教科書では扱われていたとしても簡単に触れられている程度のものも、一つの単元として深く学習しています。例えば「数列」では等比数列や等差数列も学習します。また「確率」では、アメリカ合衆国でのクイズ番組で話題となったモンティホールジレンマを授業で取り扱ったこともあり、児童の興味関心を引きだしながら、より深く学習を進めています。

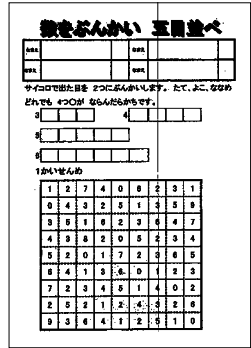
2. 教材や授業の様子

— ゲームで楽しく学ぶ (1年生の授業より) —

右のゲームは一年生が取り組む「分解五目並べ」と言うゲームです。

サイコロ (この場合は10までのサイコロを使います) を振り、6の目が出たらその数を2つの数に分解し、ゲーム盤上の数字を丸で囲んでいきます。縦、横、斜めでも5つ数字が並んだら勝ちです。相手の邪魔もしながら工夫して数を分解していきます。

特に低学年では、たくさんの手作りのゲームが用意されており、ゲームに楽しく取り組みながら、自然に数や計算に慣れていくよう指導を工夫しています。



— コンパスを使って絵を描く (1年生の授業より) —

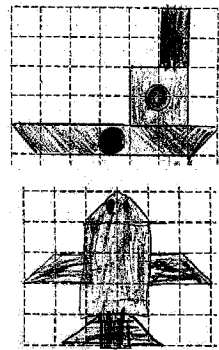
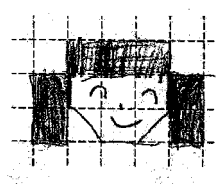
1年生から様々な作図に挑戦します。これはコンパスで円を描きながら、思い思いの絵を描いているところです。1年生ではさらにコンパスを使った三角形や四角形の作図にも取り組みます。低学年で育んだ作図の力はその後合同や対称図形の作図、立体の作図などにつながっていきます。



— 面積を工夫して学ぶ: 12cm²の世界 (2年生の授業より) —

長方形と正方形の求積については、2年生で学習します。まず広さ比べから始まるので、子どもたちも興味津々です。面積は、1cm² (縦・横1cm) のマスがいくつあるかで表すことができるということを知り、そこから正方形・長方形の面積はどのような方法で求めることができるのかをみんなで考え、公式についても学習していきます。

「12cm²の世界」という教材では12cm²がどのくらいの広さであるのか、量感覚を養うことをねらいとした活動を取り入れました。1cm²のマスを使って様々



な絵を作るのですが、正方形を半分にして2つ合わせれば 1cm^2 になるということを手を自ら考えるなど、子ども達は工夫を楽しみながら学習に取り組みました。

— インド数学に挑戦 (3年生の授業より) —

この教材は、トピック教材で、2年次に学習した二位数 \times 二位数の筆算を、他国(古代インド式筆算)の方法との比較を通じて、既習の筆算の“良さ”を見つめ直すことをねらいとしています。多角的な視野から「当たり前を疑う」ことで、見えなかったものが見えてきます。

この授業を終えて、「ほくは、日本のやり方が一番わかりやすいから好き!」と口々に言っていた子ども達がいたことが大変印象的でした。



〈子ども達の意見〉

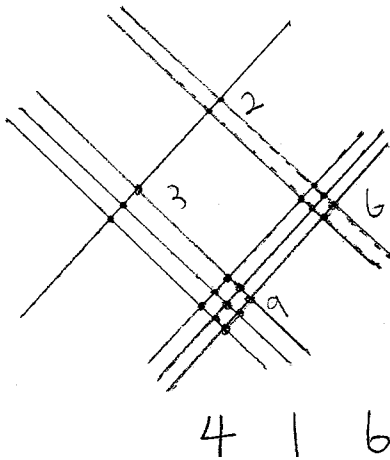
【インド式筆算】

- 良いと思った点 △不便な所
- ：こんなやり方で答えが出せるなんてすごい!
- ：九九を知らない子でも、たし算だけで答えを出すことができる。
- ：日本の筆算と同じように、位がそろっている。
- △：線を書く時に間違えそう。
- △：大きい数(例： 89×76)のかけ算だとすると、線がいっぱいになって、ぐちゃぐちゃになる。

【既習(日本式)の筆算】

- 九九を使って、やり方をマスターすれば速い。
- ムダが無い。
- 大きい数(例： 89×76)同士の計算でも、小さい数同士(例： 12×24)の時でも、やりづらさはそんなに変わらない。
- △：九九をしっかり覚えていないと、答えが出せない。

① $32 \times 13 = 416$
 <インド式筆算>



$32 \times 13 = 416$
 <日本式筆算>

$$\begin{array}{r} 32 \\ \times 13 \\ \hline 96 \\ 320 \\ \hline 416 \end{array}$$

— 作図の応用に取り組む (4年生の授業より) —

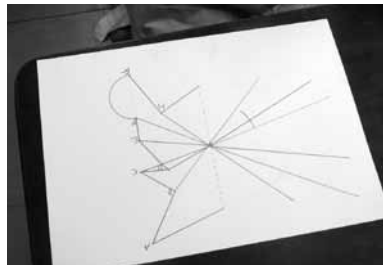
4年生では対称図形を扱います。線対称図形、点対称図形の意味を学ぶとともに、実際にコンパスを使って作図をします。左の絵は点対称図形をコンパスで描いているものです。直線と曲線に囲まれた複雑な図形の作図に挑戦しています。4年生の子ども達は、対称図形の学習の前に合同な図形を学習しており、このころになるとコンパスでの作図にも随分と慣れてきます。



— ハノイの塔に挑戦：規則性を発見する

(5年生の授業より) —

規則を見つけることが容易な数列については、1年生から触れますが、本格的に数列を単元として学習するのは、5年生です。等差数列・等比数列について一般項の求め方や数列の和について考察をしていきます。また、応用として階差数列にも挑戦します。



規則性の発展課題として、19世紀の数学者リュカの考案したパズル『ハノイの塔』は、実際に円盤を操作しながら、その規則性に気づくことをねらいとしています。試行錯誤を重ねながらも、その過程を楽しみ、「なぜ」を追求する心を持って、意欲的に学習しています。

— 6年生Aクラスは、卒業研究に挑戦 —

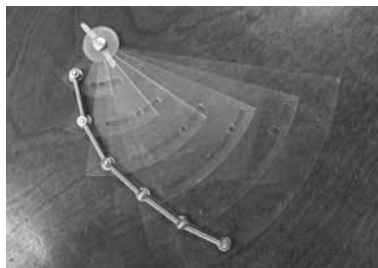
6年生のAクラスでは、3学期に卒業研究に取り組みます。一人一人がテーマを見つけ、それについて研究しレポートにまとめるものです。これまでの研究からいくつか紹介します。

①「円周率に迫る」

円に内接する正六角形の周の長さは、円の直径の3倍です。では正十二角形ではどうなるのか。30度・60度・90度の直角三角形では辺の長さの比が $2:1:\sqrt{3}$ になることを利用して、正十二角形の周の長さが直径の何倍になるのかを求めました。その結果、およそ3.105828…倍であることがわかりました。同様に正二十四角形では約3.1324404…倍、正四十八角形では約3.1387824…倍と、正確な円周率の値に次第に近づいていくことを明らかにしました。

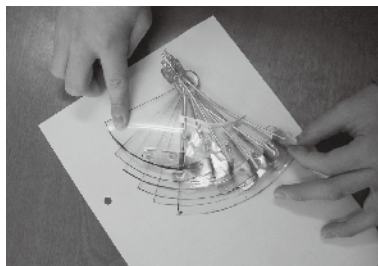
②「ポーカーの確率」

ワンペアやスリーカード、ストレートなど、すべての役についてそれができる確率を計算しました。役の強さ弱さはその役ができる確率と相関関係にあることがはっきりしました。



③「角の三等分線」

コンパスと定規だけで、任意の角の三等分の作図に挑戦しました。試行錯誤した結果、任意の角の三等分は不可能であることが証明されていることを知りました。方針を変更し、任意の角の三等分線や五等分線を作図する道具を作りました。



これらは研究テーマのごく一部です。毎年の6年生が独自の視点でユニークなテーマを見つけ、研究に取り組んでいます。

3. 教育方針

本校の数学教育では次の(1)～(4)を指導の基本方針にしています。

- (1) 基本的な知識や技能を、いろいろな角度から考えさせる。
- (2) 教えることより、考えさせることに重点を置く。
- (3) 問題解決や発見学習に重点を置く。
- (4) 一人ひとりの能力の限界へ挑戦させることと、一人ひとりの能力と個性を啓発し、それに応じた指導を行うために、個別学習に重点を置く。

4. 指導内容の重点

本校のカリキュラムは、数学の知識や概念を理解させたり、技能を養うことだけでなく、できるだけ多くの知能因子を刺激することも大きな狙いとして作られています。また数学の各領域を均等に深め、それらの領域の融合化、統合化がはかれるように考えられています。カリキュラム作成上の観点は以下の通りです。

- (1) 知能開発と数学的思考力を養成する。
- (2) 関数的な考え方及び、集合の考え方を養成する。

このために「数の合成分解」「方程式」「集合」「数列」「確率」「関数」「順列・組合せ」「数の体系」「図形の論証と作図」「規則性」に指導の重点を置く。

5. 学年別指導体制

学 年	指導体制
1・2年	ホームルームクラスで授業を行い、各クラスに2人の教師が入り、きめ細かく子ども達の学習を指導しています。
3・4・5年	学年を能力別にA・Bの2クラスに分け、それぞれのクラスに2人の教師が入り、きめ細かく子ども達の指導をしています。
6年	学年を能力別にA・B1・B2（もしくはC）3クラスに分け、1人の教師が指導をしています。

6. 教 材

1の本校の数学教育の特色で述べたように、本校の子ども達は、教科書の内容を学ぶだけでは満足しません。英才児の発達段階や特性に応じ、したがって授業で使用する教材は「教材シリーズ」のテキスト（本校で独自に編集したもの）や各学年の担当教師が作成したプリントが中心となります。

また特に低学年を中心に本校の教師の手作りのゲームも数多く取り入れており、子ども達はゲームをしながら楽しく学習に取り組んでいます。また高学年では「ハノイの塔」など、思考を深めていく教材も積極的に取り入れていきます。

英語教育 ●

1. 目 標

世界に、いろいろな人がいるということを理解し、その人々を尊重し、その人々と協力する芽を育てる。

各学年においての目標は次に示すように子どもたちの発達段階にあわせて設定し、教材、授業形態を通して上記の目標に近付けるよう考慮しています。その中で、教材や授業内容が子どもの琴線に触れたとき、子どもは単語、フレーズ、文法の規則を自然な形で拾い上げていきます。

これからの世界は今まで以上に国際化が進んでいくでしょう。そんな中で英語の必要性は増々広がっています。未来を生きる子どもたちのために、低い年齢のうちから、英語を通して世界を知ることが大切です。それは結果的に日本を知ることにもつながるのです。

言葉は意思を伝え、お互いを理解し合うためにあるわけですから、意思のない言葉は意味をなさないわけです。子どもたちがこの21世紀を日本人としてだけでなく、地球人として意思を持ち、それを伝え合い、理解し合いながら生きられるよう、その力を英語教育を通して育てていきます。また、そのことが国際理解教育、国際平和教育の出発点となり、地球規模で差別と偏見のない物の見方、考え方が育めたらとも考えています。

なお、本校では3年生から行われていた英語の授業を、平成28年度から1年生から始めました。

2. 各学年の指導テーマ

[1・2年生] 楽しく英語の音に慣れていこう

1・2年生では、たくさんの歌やリズム遊びを通して、子どもたちが英語の音やリズムに慣れるようにします。また「教室にあるもの」「動物」「食べ物」「職業」「部屋にあるもの」などの英語に触れ、子どもたちの身の回りにあるものを英語で言えるようすることで、英語を身近に感じさせることができます。

英語の基本の音となり、将来英語を読んだり、書いたりするための基本になるアルファベットにも慣れさせていきます。この時に大切なことは、常にゲームや活動を通して、子どもたちが楽しく英語に触れることだと思います。

[3・4年生] 自分を表現し、相手を知ろう

3年生では、まず自分自身のことを相手に知ってもらうための表現を取り扱います。このことは、同時に相手のことを知るために、しっかりと相手の話しを聞くことにもつながります。つまり表現を習得することだけではなく、コミュニケーションのためには自分が話すだけではなく、相手を尊重し、相手の言うことを受け止めることの必要性を伝えていきたいです。

そして4年生では2泊3日の「イングリッシュキャンプ」を行っています。ネイティブの先生との3日間の英語漬けを通して、英語を話す楽しさと必要性を実感することになります。

[5・6年生] 世界に目を向けよう

5・6年生では、英語を通して様々な「世界」を学習します。その範囲は自然、地理、理科、歴史、社会問題などの多岐にわたります。外国の文化や生活様式の一部に触れることは、同時に日本を見つめることにもつながります。取り扱う国や地域もいわゆる“先進国”ばかりではありません。いろいろな角度から「世界」を学ぶことで国際理解の基礎的な力を養うことが目標です。

3. 主な指導内容

	4・5月	6・7月	9・10月	11・12月	1・2・3月
1年	No English Lessons		<ul style="list-style-type: none"> ● At the Zoo 動物の名前、体の部位、アルファベットの大きい文字		<ul style="list-style-type: none"> ● In the classroom 教室の話し、簡単な英語のあいさつ、簡単な指示英語
2年	<ul style="list-style-type: none"> ● In My house 家の中にあるもの、数字（時間）、フォニックス		<ul style="list-style-type: none"> ● At the Shops 果物、野菜などの食べ物、好きなもの・嫌いなもの		<ul style="list-style-type: none"> ● In My Town 職業、乗り物、町にある建物の名、アルファベット小文字
3年	<ul style="list-style-type: none"> ● About Myself 自分の年齢、住んでいるところ、好きな果物、スポーツなど	<ul style="list-style-type: none"> ● What Am I? 動物の特徴（色、鳴き声、体など）	<ul style="list-style-type: none"> ● Halloween ハロウィーン語い、自分の誕生日、世界の行事の日付	<ul style="list-style-type: none"> ● Seasons & Weather 各季節の話し、天候、クリスマスなこと	<ul style="list-style-type: none"> ● My Family 家族について、子どもの一日の生活、学校の教科
4年	<ul style="list-style-type: none"> ● Let's Enjoy English Camp ! イングリッシュキャンプに向けて、英語の基本的な語彙・表現、自己紹介などの練習		<ul style="list-style-type: none"> ● The World where We Live 世界の7大陸、8か国について	<ul style="list-style-type: none"> ● Wild Animals 動物と地域、その特徴を表す言葉	<ul style="list-style-type: none"> ● Let's Act Out! 英語劇を通して自己表現力を身につける
5年	<ul style="list-style-type: none"> ● Everyone is Special 絵本を通して表現を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ● My Favorite Season 各季節にする好き	<ul style="list-style-type: none"> ● Children around the world アジアの子供たち、進行形の英語	<ul style="list-style-type: none"> ● Water Cycle 水に関する話し、表現、過去を表す表現I	<ul style="list-style-type: none"> ● School Trip 学校行事（修学旅行）での話し・表現英語の暗唱
6年	<ul style="list-style-type: none"> ● Solar System 太陽系の惑星の特徴（比較・最上級）	<ul style="list-style-type: none"> ● Which would you rather be ? 世界遺産について	<ul style="list-style-type: none"> ● Welcome to Japan 日本紹介のための英語表現	<ul style="list-style-type: none"> ● Once upon a time 過去の偉人を英語で学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ● Speech Contest 4年間のまとめ、スピーチコンテスト

4. 指導方法

(1) 少人数での授業展開

授業は、各ホームルームクラスを2つのグループに分けて、1グループ約15人で行います。これは教科の特性上、子ども全員が参加でき、一人ひとりが練習できる授業を目指すためです。

(2) 子どもが理解できる英語を使つての授業実践

Teaching English in English（英語を英語で教える）を原則として、子どもにわかりうる英語で語りかけていきます。このときに留意すべきことは、わかりやすい表現を何回も繰り返し使うこと、教室英語を徹底することなどです。

(3) 子どもの活動を中心にした授業

授業を運営する上で、教師がイニシアチブをとることは言うまでもありませんが、子どもが受身的にならず、教室では授業の中心となって参加することが大切です。子どもが自ら参加し楽しみながら習得した英語は子どもから離れることはありません。

(4) 英語のリズム、イントネーションの重視

テーマに沿った口頭リズム遊び（ジャズチャンツ）や英語の歌（ナーサリーライムなど）を通して、英語のリズム、イントネーションを自然な形で伝えていきます。

(5) 様々な活動を通して子どもを多角的に評価して、子どもの意欲を促進させる授業の展開

子どもを多角的に評価し、その評価、またはその後の授業が子どもの意欲を促進させるものでなければならないことは当然のことです。そのために授業においては、ひとつのテーマの中でも様々な活動を取り入れ、すべての子どもが活躍できる場を設定するように努めます。

(6) 各学年のテーマにそつて、英語の世界を広げる

本校では前述のように、各学年のテーマにそつて授業内容、教材を拡張し、作っています。したがつて、教材を子どもたちに与えていくだけではなく、子どもの興味に合わせて発展させていき、結果として英語の世界を広げていきます。

(7) 外国人教師による授業

現在5・6年生の英語の授業では、週一回外国人教師（ネイティブスピーカー）による授業を行っています。

授業で覚えた英語の単語や表現を使って実際にネイティブの先生とコミュニケーションすることができ、子どもたちは英語の必要性和楽しさを実感することができます。

5. 国際交流

英語の授業の延長として、各学年に年に一度、日本に住む外国の方を学校に招いて、その国の人々の生活や子どもたちの様子などを話して頂いています。国籍も今までにラオス、インド、ブラジル、中国、タイなど様々です。海外の話しを直接聞くことで、子どもたちは世界を肌で感じることができます。また英語の特別研究では、海外の子どもたちと交流をしています。海外の子どもたちの生活や関心事などを直接知ることができ、また日本の自分たちの生活を紹介することができるようになります。

このようにできるだけ世界の人と接し、子どもたちが世界を身近に感じる機会を与えていきたいと思っています。



理科教育●

1. 理科における知能開発

本校の教科指導の方針としては、「教えるのではなく考えさせる」という点があげられます。つまり、「教えることを少なくして、考えさせる場面を多くしていく」と、あるいは「一を知って、十を知る。」と言い換えることもできます。

教科の学習では、考えるにあたって何を提示するのか、『教材』が大切になります。子ども達は、提示された資料などを手掛かりに問題を解決していきます。このような活動が、子ども達の思考力を養っていくことにつながると考えています。

どのような思考を求めていくのか。学年ごとに以下の思考過程に重点を置いています。

2年生：「比較」、「類推」

3年生：「比較」、「類推」、「時間の流れ」

4年生：「関連付け」、「一般化」

5年生：「関連付け」、「一般化」、「時間の流れ」、「視点の転換」

6年生：「関連付け」、「一般化」、「視点の転換」

このような思考過程を意識しながら授業を構成しています。

2. 本校の理科教育の特徴

① 理科の学習は2年生から

生活科の導入によって、子ども達の生活に重きを置いた教育が進められるようになりました。子ども達の身の回り、身近なものを題材に自己を見つめていくことが初期の自然教育の中で大切にされるようになりました。これに対し、本校では、身近な自然にはたらきかけるというねらいを踏まえつつ、さらに発展していく余地を含め、教科の学習を進めていこうと考えています。

英才児を対象とした教育という点から考えるならば、知への好奇心はどこまでも深めていける状況にしたいと考えます。それは、学習の範囲は、誰かが定めるものではなく、こども達の興味関心に応じ発展していくものであると考えるからです。そういう点から考えると、生活科の教育には限界が生じてしまいます。子ども達と探究していく過程に重点を置き、より科学的な内容を含めていくことが初期の科学教育においても大切なものであると考えているのです。この点において、2年次の理科のスタートは、本校にとって必然的なものと考えられます。

② 子ども達の体験を重視

子ども達の思考はどのように進められていくのでしょうか。

思考のもとになるものは教員から示される教材です。一枚の写真であったり、映像であったりします。さらに理科においては、実験や観察と言った体験を持つ意味は大きくなっていきます。

理科教育において、取り扱われるものは、生きものや自然に起こることになります。こうしたものを通して、自然の中に潜んでいる共通点や相違点を引き出していきます。また法則性を見出していきます。

情報化が進んだ社会にあっては、こうしたことを書物やホームページなどから学び取ることもできます。このような情報源から学んでいくためには、体験が必要になってきます。実体験こそが知識を身につけていく土台となると考えるからです。本校では、可能な限り、体験できる状況を作り、調べていくように教育の過程を組み立てていきます。その体験は、見る、聞く、触る、嗅ぐといった五感を通した体験である必要があります。特に低学年であればあるほど、この五感のはたらきは、鋭くなります。本校では、可能な限り、体験できる状況を作り、調べていくように教育の過程を組み立てていきます。一見科学的に意味が見出しにくい気付きであっても、見直していくと科学の一面を捉えることも多いものです。本校では、可能な限り実際に自らの手で調べ、学び取る活動を取り入れるようにしています。こうすることで学習内容が、身につくやすなものとなると感じます。効率的かと問われれば、非効率的となることかもしれません。

しかし、一つの現象について考えていく手掛かりを自らの手で得ることができます。書物では書いてある情報から物事を考えていくことになります。体験による学習であれば、自ら気付いたことがそのまま現象を考察していく

情報となります。与えられた情報から学ぶのではなく、自ら見出した情報から考えが進められるのです。これは、学習に向かう意欲という点からも大きな意義のあることと考えます。自ら学び取る意欲的な学習が期待できるのです。

③ 実物に触れる機会をより多く

体験を取り入れるという点を発展させると、実物に触れる機会を増やしていくことに行きつきます。

例えば、恐竜の学習における教材を考えてみます。恐竜の骨格図からもたくさんの情報が得られます。スケールがついていれば、およその大きさを思い描くことができます。直観的に物事を考えていく低学年の子どもたちの場合、より具体的なものを示すことによって思考がさらに深められます。

例えば、実寸の四分の一のティラノサウルスの頭骨の標本があります。これを子どもたちに見せると実に様々な事に気がつきます。頭にたくさんの穴があいていること、歯が鋭いこと、頭骨が正面から見ると幅が狭いこと…。



恐竜の化石標本

このように、実物の持つ意義には大きなものがあります。

3. 各学年で重点を置いていること

(1) 2・3年生

① 理科的な遊びを通した学びの機会を多く取り入れる

理科教育のスタートに当たり、きっかけは、遊びからという学習内容も多くあります。「おもりで動くおもちゃ」(2年次)はその一つの例です。



俵ころがし

ここでは、俵ころがしのおもちゃを子ども達と作ることから始めます。紙で作った入れ物の中にビー玉を入れます。そして、実際に遊ぶ時間を取ります。最初は、筆箱の上になんか敷きを置き坂道を作って転がします。子ども達は次々に工夫をしていきます。もっと長い時間転がすにはどうすればよいか。俵ころがしを行ったり来たりさせるにはどうすればよいか。友達より早く転がすためにはどうすればよいか。坂道から落ちないように下まで行けるか。…等々。次々に活動が広がっていきます。こうした子ども達の発想を大切にしていきます。

この活動の後、俵ころがしの面白い動きの原因を皆と考えていきます。先の体験が、この問題の糸口となります。

このほかにも各単元の学習の初めに、興味を引きそうな現象を見せるということもあります。

② 用語を早い段階から正しく使う態度を養う

正しい用語は、正しい科学認識の上に身に付きます。大切なことは、どのような科学への認識を持たせることができるかということになります。例えば、「とける」という言葉があります。2年次に水に溶けるものの学習をします。水に溶けるのはどのようなものか考えていきます。さらに速く溶かすにはどうすればよいかを考えます。この「とける」という言葉には様々な意味があります。子ども達にとってはどれも同じ「とける」と捉えがちです。ですから、学習を通し、どの「とける」なのかを整理して学習を進めて行くこととなります。

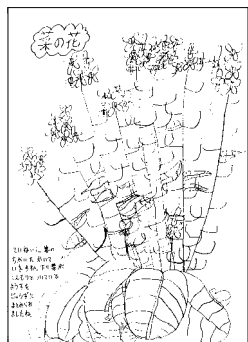
日常生活の中に入り込んでいる科学に関わる言葉も慎重にその意味することを吟味して授業で取り扱うようにしています。こうすることで物事のつながりを整理し、科学的なものへと深めていくことができます。

③ 観察力を養うために、自然観察ノートを活用する

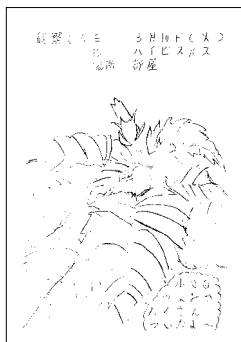
2年生で自然観察ノート「自然のたより」を利用しています。これは、自らが見つけた生き物や面白いと思った現象についてノートに記録していくものです。週に一度提出し、学年で冊子を作り、その内容を皆のものとしします。

身近な自然に目を向けるということと観察力を養うということを重ねて進めています。みんなに発表することが観察力を刺激します。友達の描いたものを見ることで形の捉え方、大きさの違いの捉え方、つながり方の捉

え方が変わっていきます。また描き続けることによって、スケッチ自体も大きく変わっていきます。次の図は、4月当初のスケッチと学年末の3月に描いたスケッチです。



4月に2年生が描いた
スケッチ



3月に2年生が描いた
スケッチ

こうして養った観察力は3年次以降の植物の成長記録や顕微鏡観察で発揮されます。

(2) 4年生

① 物質の基礎概念をしっかりと身につける

物質を、分子からできていると捉え学習を進めていく基礎をこの時期に養います。

その柱としている学習が、「三態変化」と「膨張」です。熱力学の基本となるところです。物質が分子からできていること、及び分子同士を結び付ける力があることによって、三態変化を分子の状態変化から捉えさせたり、膨張という現象がどのようなことなのか分子レベルで考えさせたりします。

② 実験場面を多く取り入れる

4年生以降、実験を積極的に取り入れ、学習していきます。これは、前項の理解を深めるためのものです。例えば、実際に水を温め、どのようなことが起こるのか、実験したからこそ気づけることがあります。日常生活の中でお湯を沸かしたことが一度や二度はあるでしょう。日常の一場面であっても、目的意識を持って、じっくりと観察すると、新たな発見もあります。こ

うして得た事実が、思考を進める大切な事実となっていきます。

思考を進める上でも実験することは大きな助けとなっています。

(3) 5・6年生

① これまでに養った知能を活用し、問題解決

それまでに学習してきたことを手掛かりとして問題場面を考えます。

たとえば、6年生に、表面張力を考察させる実験方法を考えさせたことがあります。様々な太さの針金でアメンボを作りました。そして、どのような水（水溶液）にすると表面張力が強くなるのかを主題としました。

班ごとで考えました。様々な実験を考え出し、検証していくことができました。これは、知識を問うている課題ではありません。すでに班の中の人達が持っている知識をどう活用し、答えを見いだしていけるのかという点に主題を置き行いました。

自分で考えた実験ができることは子ども達にとって大きな喜びであったと授業後の子ども達の感想にありました。

② 直接手に触れることが難しいものに関しても考えていく

高学年になると、学習の題材の幅が広がっていきます。手が届かないもの、大昔のもの、巨大なものへと広がっていくのです。しかし、たとえそのようなものであっても、身近なモデルを用いて考えさせていきます。

「星の動き」「太陽と月」（いずれも6年次）は、高学年ならではの学習となります。

4. 校外学習と理科教育

(1) 恐竜の学習

2年生が国立科学博物館に赴き、恐竜の化石を観察します。学校にある四分の一の大きさの標本ではわからないその大きさに驚きます。そして、生活の様子を思い浮かべてみます。生身の生きている姿が頭の中に



国立科学博物館

浮かんでくるようです。学校で学んだ時にはそこまでの想像が難しいのですが、実物を前に子ども達の発想は広がっていきます。

(2) 星空の学習

私たちは、地球から星空を眺めています。地球に視点を置くと、星が動いていると捉えることもできます。しかし、視点を宇宙に転じてみると、地球の動きに原因があると捉え直すことができます。このように学習を進め、視点を転換してみて星の見え方の原因を考察した上で、プラネタリウムに出かけていきます。

日本からの見え方に捕らわれず、赤道や北極点での星の見え方、動き方をイメージしてみます。そして、実際にプラネタリウムで動かしていただき検証していきます。

このことから、改めて地球の自転を肌で感じるようになります。

5. 自然観察会

一歩学校の外に踏み出せば、自然がそこに広がっています。教室の中の学習では、限界があります。子ども達の探究心に見合った教育を考えると、自然に触れることが必要になります。理科の授業で学んだことを実際に自然に触れながら、さらに深化させていくべく、学年に応じ希望者を対象に、自然観察会を年1～2回実施しています。それぞれの活動の内容は以下の通りです。



川原の観察会

(1) 川原での学習（3年次と4年次）

川原に出かけて行けば、石があります。植物も生えています。虫もいます。川原の石がなぜそこにあるのか考える時、教室で写真等を手掛かりに考えることもできます。しかし、一歩外に足を運べば、実際に川原の石を手にすることができます。手にすることで大きさや形に自然と目が向きます。石

の美しさに心奪われる人も出てきます。こうなれば、石の起源についての学習の素材が整ったといえます。

(2) 星空の観察 (5・6年次)

東京の夜空にどのくらいの星が輝いているのでしょうか。本校の屋上に出て星空の観望会を行います。普段星に関心がない人も多く、実際に観望して初めて、予想以上にたくさんの星が見えることに驚きます。明るい星の多い冬の夜空を楽しみます。また惑星に望遠鏡を向けてみると土星の輪や木星のガリレオ衛星が見えてきます。月のクレーターも間近に見えその美しさに心奪われます。



星空観望会

(3) 水鳥の生活 (5・6年次)

生き物を愛おしむ心を育むためには、何よりも生き物との触れ合いの時間を欠かすことができません。図鑑が好きで眺めている人も名前を知ることだけが学びの目的ではないはずです。鳥たちとの触れ合いを求め、図鑑を見ているはずです。



水鳥の観察会

本校のある武蔵野市には井の頭公園があり、その池にはたくさんの野鳥が生息しています。その鳥たちの生活の様子を知ることは、鳥への愛情を育むことにもつながります。この会に参加した子ども達のほとんどが口を揃えて「かわいい。」と言います。

地理教育

1. 地理教育について

地理学習のねらいを一言で表わすと、「空間的な広がり」をつかませるといふこととなります。これは、場所と場所、国と国の関係などについて、さまざまな角度から眺め、思考する態度の養成ということであり、「視野の拡大」という言葉で言い換えることもできるものです。

2年生（ただし2年生は学期末のみ）から5年生で地理を学習するわけですが、それぞれの発達段階に応じた「視野の拡大」をねらって、まず主題を設定し、それに沿った教材を作成し、指導法を工夫しながら授業を進めています。

2. 各学年における目標と具体的な指導内容

(1) 2年生

〔目標〕

- ア. 視点の違いによって物の見方が違ってくことを理解させ、物を見る時に視点を変えて見ていく態度を養う。
- イ. 鳥かん図的視点を刺激しイメージ力及び地図を見る基礎となる力を育てる。
- ウ. 空間が連続してあることに気づかせ、空間的な広がりを持って鳥かん図的視点を身につけられるようにさせる。

上記の目標を達成するために、具体的には次のような指導を行っています。

- ① コーヒーカップを見て、こちら側からどう見えるかだけでなく、向こう側や上から見たらどう見えるかを考えさせます。
- ② 自分の教室や校庭などの空間を、上からの視点で見ることができるようイメージさせます。
- ③ 鳥かん図的視点を意識させながら、駅から学校までの地図を描かせます。
- ④ 上流から下流までの川の風景を、川の連続性と変化、また周囲の風景の

変化をイメージしながら描かせていきます。(写真)



川の絵巻物づくり

(2) 3年生

〔目標〕

- ア. 地図の読図や作成を通じて、地図上での空間の表し方を理解させる。
- イ. 資料の見方に慣れさせ、資料を作成したり、読み取っていく基本的な知識や技能を習熟させる。

上記の目標を達成するために、具体的には次のような指導を行っています。

- ① 地図記号の表す意味やその起こりについて理解させ、地図の読み取りの中で活用させます。
- ② 等高線の意味を理解させ、平面図と断面図の読み取りができるようにさせます。(写真)
- ③ 地図の縮尺について理解し、地図上の距離を求めさせます。
- ④ 山の高さや川の長さ、各都道府県のデータなどを地図帳を使って調べさせ、地図帳を自在に扱うことができるようにさせます。



等高線の立体模型づくり

(3) 4年生

〔目標〕

- ア. 地図・地球儀の基本的な見方や違いを理解するとともに、地図や地球儀を通して、世界の中の日本というものに目をむけることができるようにさせる。
- イ. 地形図の学習から、土地の景観や起伏を読み取り、その地域の特徴を把握できるようにさせる。
- ウ. 日本の地形、気候、人口の学習により、日本の概略を知り、人々の生活とそれらの結び付きを考えるようにさせる。

上記の目標を達成するために、具体的には次のような指導を行っています。

- ① 地図と地球儀の違いをおさえながら、それぞれを十分に活用できるようにさせます。
- ② 日本の地形・気候・人口について、土地利用や人口分布と関連させながらとらえさせていきます。

(4) 5年生

〔目標〕

- ア. 我が国の農業・水産業・工業の現状と特徴を理解し、その問題点について考えさせる。
- イ. 国際社会の中で占めている日本の役割を理解させることにより、国際的な視野を育てる。

上記の目標を達成するために、具体的には次のような指導を行っています。

- ① 農業・工業・水産業について詳しく学びながら、現状や今後の課題について考えさせていきます。
- ② 産業の学習の中で、諸外国との関わりについて考えさせていきます。
- ③ 世界のいろいろの国について調べさせ、日本との違いを明らかにさせながら他国の文化を尊重する姿勢を養っていきます。

3. 年間指導計画表

学年 月	2年生	3年生	4年生	5年生
4		○方位と地図	○地図と地球儀	○日本の農業
5				
6 7	○視点の転換 (3時間)	○地図記号と地図	○二万五千分の 一地形図	○日本の水産業
9		○地図帳	○日本の地形	○日本の工業
10		○統計資料	○日本の気候	
11 12	○鳥瞰図の視点 (3時間)			
1		○縮図	○日本の人口	○世界の中の日本
2 3	○空間の連続性 (4時間)	○等高線		

4. 巡 検

子どもたちの地理に対する興味の拡大と発展学習をねらいとして、地理科主催で年1回巡検を実施しています。5・6年生の希望者が対象ですが、毎回30名ほどの参加者があり、成果をあげています。



巡検の様子

教師が知識を与えるのではなく、児童が主体的に活動しながら地理的な観察の方法を身につけていける内容になっています。

最近の数年間、小金井周辺や三鷹周辺のウォークラリーを実施しています。コマ地図を読み取りながらコースを進み、途中で地形の特徴や歴史的な事柄について考え発見させる内容です。

歴史教育

1. 歴史科の教育目標

○英才教育としての体系的歴史教育

一般の義務教育のなかでの歴史教育といえば、社会科教育の柱となる「地理」「歴史」「公民」の一分野として小学校6年生から取り扱われます。歴史的な視野ができるのが11歳から12歳という調査に基づいて昔から6年生からというカリキュラムとなっているのです。知能指数 = 知能年齢 / 生活年齢 (実際の年齢) という考え方にに基づき、生活年齢ではなく、知能年齢を基に歴史教育を始めたのが本校の独自のカリキュラムの始まりです。

学習目標は、本校歴史科がねらうものと一般の社会科は大筋においては同じです。しかし、単に学習内容から「地理」「歴史」に分け、早期教育を行っているわけではありません。それは、本来高校・大学レベルで行う学問としての「歴史」の中に潜在する知的好奇心・想像性・追究心・観察力・分析力・実証性といった学問の魅力を見いだせるように組み立てられている日本で唯一の小学校歴史教育カリキュラムです。

知能訓練としては、教師の話を聴き、具体的な場面を想像する聴力を通した空間認知力を刺激します。

したがって、歴史科では、先取り学習として難解な知識を詰め込むのではなく、歴史的思考を4つの思考に絞り、各発達段階における歴史を素材としたものの考え方・思考力を養成していくことを目標としています。

○歴史科で育成する思考力

- | |
|--|
| <p>① 創造的思考力
学習内容を、単に与えられたものとして受け取るのではなく、その時代の学習のねらいをおさえて理解し、考えていく力。</p> <p>② 資料活用能力
知りたいことにあった資料をさがし、調べていく力。</p> <p>③ 客観的思考力
立場を変えて、違う視点から発送できる思考の転換力。その時代なりの見方でものを考える力。</p> <p>④ 論理的思考力
物事の原因・結果・影響の流れをつかんで分析する力。</p> |
|--|

2. 学習指導の実際

〈昔話の段階〉 — 3年(10時間)～4年1学期 —

- ① 児童が楽しく取り組める学習である事が何よりも大切にされています。
- ② 身につけるべきものは、「歴史イメージ」であり、のばす能力は「想像的思考力」です。

「今昔物語」などを題材に、説話・伝説を語り、歴史学習における「物語性」や「人間の生き方に焦点を当てた学習」に意識を向けさせていきます。写真や絵を最初に提示するのではなく、読み聞かせによってお話の世界に惹きこまれる中で、想像力を刺激し映像的に思考し、「歴史イメージ」を積み重ねていくことが目的です。その方法として、「想像絵」「続き話」といったことを中心に行い、まとめとして「絵巻物づくり」に取り組みます。



歴史絵巻物 屋島扇の的

〈人物伝Ⅰの段階〉 —4年生2学期・3学期—

- ① 昔話で児童に身に着けた「物語性」を崩さないように授業を展開していきます。
- ② 「歴史科学学習ノート」の使用法の指導を通して学習能力の育成を図ります。
- ③ 授業展開における教師の「語り」が中心です。

〈人物伝Ⅱの段階〉 —5年生1学期—

- ① 人物の考え方に注目させ、それが当時の社会情勢とどのように関わっているかを考えさせることが中心です。この「社会情勢」というのは、あくまでもその人物の考え方を知ることから、それが当時の社会情勢とどう関わっているかを考えさせます。
- ② 「資料操作」は、授業が楽しく、しかも高度な思考を要求されるように展開するので、その人物の考え方や行動を探ることが中心となります。
- ③ 「歴史科学学習ノート」の記入においては「個人的」「論理的」になるように指導し、定期的に内容をチェックして励ましています。

人物伝学習では、常にその当時の異なった立場の人間になったつもりで、社会問題について意見をぶつけあうこととなります。ある社会事象を、当時の人間の立場から多角的・多層的に考えてさせていきます。

〈日本通史の段階〉 — 5年生2学期～6年生2学期—

- ① 時代の特徴をつかむことを中心にして、日本歴史の全体像をつかむことをまずねらいとしています。
- ② 「歴史科学習ノート」の指導を通して知識の定着を目指します。
- ③ 3年生より培った「歴史イメージ」を発展させ、まず時代イメージをはっきりさせます。最終的に日本の歴史を自分の言葉で語るができるということを目標にしています。国際化の時代の中で、自国の歴史を自分の言葉で語ることはとてもたいせつなことであると考えます。
- ④ 人物伝学習と通史学習のつなぎとして「聖徳学園のあゆみ」を学びます。時代背景と共に建学の精神について学びます。
- ⑤ 「現代社会」では、最低限教科書の内容をおさえさせ、知識としての社会の仕組みを学びますが、社会への関心を持たせるために時事問題は日常的に扱います。

〈特別研究〉

日常の限られた時間数の中では取り扱うことができない作業・調査中心の学習を行います。

- 1 学期 … テーマ学習⇒ ①歴史学習の方法論→発掘・文化比較・文献調べ
②もののルーツ調べ→家系・家紋など
③インターネットを活用しての学習法
- 2 学期 … 縄文土器作り⇒ 5年生→土偶・ミニチュア土器の制作
6年生→使用に堪える得る土器の制作
- 3 学期 … 検証実験⇒ ①制作した土器を用いての料理
②火起こしの実験
③時代別人生ゲームづくり 等

美術教育

1. 美術教育について

美術教育の大きなねらいは表現や鑑賞の活動を通して美術に親しみ、美術を生活に生かし、豊かな情操を育むことにあります。そのためには子ども達が学校での美術の授業で「つくりだす喜び」を味わい、創作意欲を向上させるような体験をさせることが必要です。

それには美術の幅広い領域を通して、それぞれの子どもが美術の楽しさを実感できるような「場」を与えることが大切になってきます。

授業では基礎的技術の習得、考える力を伸ばしていきながら、表現することの楽しさと奥行きを感じさせ、感性を高めていくことを目標にしています。

絵や工作、デザイン、彫刻などをバランスよく子ども達に学ばせ、学年、学期ごとによる偏りがないようなカリキュラムにしていくよう、留意しています。

2. 年間指導計画表

月	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
4月	自分の顔	絵手紙	想像の世界	自然を描く	窓からの風景	夢のマイホーム
5月	自分の顔	未知の世界	墨で描く	ビー玉コースター	窓からの風景	夢のマイホーム
6・7月	不思議な木	1枚の紙から	わたしの街	記号で描く	窓からの風景	切手のデザイン
9月	夏休みの思い出	絵のパズル	理想を描く	クワイエットバルサ	木のパズル	銅製表札
10月	紙版画	紙粘土のお弁当	自分のマーク	運動会の切り絵	木のパズル	銅製表札
11・12月	先生の顔	迷路を描く	コロ画	未来の町	将来の自分	写真を見て描く
1月	好きな食べ物	かるたづくり	鉛筆画	友達の肖像	伝えたいこと	ステンドピラミッド
2・3月	楽しかったこと	不思議な乗り物	タックステンド	未来のロボット	伝えたいこと	自画像

3. 各学年の特色と主な課題

[第1～2学年の特色]

この時期の子ども達は見ることと触ることが一体化しています。見るだけでなく触ってみる、曲げてみる、叩いてみるなど様々な働きかけを試みる時期です。

○主な課題

① 不思議な木

絵の具や布、色紙など、様々な素材を使うことで、造形への興味を引出し、作ることの面白さを発見させます。

② お弁当づくり

紙粘土を使い自分でデザインしたお弁当を作り、着色をほどこしながら、かたちを作ること、配色を工夫すること、全体のバランスを考えることを学びます。

[第3～4学年の特色]

中学年の子どもは身の回りの対象との間に、ある程度の距離をおいて接することができるようになります。絵の表しかたを工夫することや、形や色、主題から思いついた物語を創作することや、教師の助言をきっかけにして、自分の考え方を確認したりするようになります。

○主な課題

① 友達の間

友達と向き合い、その顔の表情や肌合いから感じ取った自分のイメージを基に、自分なりの表しかたを工夫して表現していきます。

② サイコロ画

自分が考えたデザインでサイコロの目を表現していきます。数字をデザインで表現することで柔軟な発想力を養います。



[第5～6学年の特色]

高学年の子ども達は自分を見つめ、他者や社会に関わろうとする意欲を持ちはじめます。美術の活動を通して、自分の内なる世界と他者とのコミュニケーションができることの可能性を感じ取り、作品制作をしていきます。

○主な課題

① ポスター制作

自分が普段生活している中で感じていることをポスターにすることで表わして、他者とのコミュニケーションの手段としての作品という気持ちを持たせませす。

② 風景画

対象をしっかり観察することで普段気が付かなかったかたちや色合いなどを発見させ、表現に生かしていきます。

③ 鑑賞

校内展示などで自分達の作品や名画を鑑賞する機会を設け、子ども自身の感じ方やものの見方、直観的な判断や考え方を身に付けるようにしていきます。

美術室内でも画集などの参考資料を自由に観覧できるので、古今東西の様々な作品にふれることで鑑賞体験を豊かにしていきます。



音楽教育

1. 目標

「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、音楽を愛好する心情と、音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。加えて、鑑賞や創作で個性を引き出し尊重しながらも、器楽や歌唱を通して全体で合わせる喜びや楽しさを味わう。

2. 内容の構成

「表現」と「鑑賞」の2領域からなるものとし、それらの2領域の能力を育成する上で必要となる「共通事項」を置く。さらに「表現」の領域は「歌唱」「器楽」「創作」の3分野から構成する。指導に関しては、様々な音楽活動を通して刺激を与え、感性を育て、基礎的な能力がバランスよく身につくよう工夫する。また、歌唱、器楽、創作、鑑賞の4つが持つ多面性を授業の中で効果的に生かせるようにし、それが6年間を通じて体系的に作用するよう考慮する。

3. 本校における指導方針

- ① 年ごとに「今月の歌」「学期の歌」「年間の歌」を設定し、全学年で行事や朝礼等で一緒に歌い、日常的に音楽に親しむ。
- ② 聖徳祭だけでなく、入学式・卒業式・運動会など行事においても児童自身が責任を持って音楽を創りあげていく。
- ③ 毎年11月に行われる聖徳祭では、クラス主体の発表の場であると同時に、音楽科としてはその学年での音楽の技能、表現の発表の場と位置付け、音楽を通して子どもたちが成長できるように留意する。
- ④ 「個性」と「個の力量」を重視し尊重している本校だからこそ、集団で音楽を聴くことや表現することの楽しさを学べるように工夫する。

- ⑤ 高学年としての技量向上と本物のコンサートホールを体験するという観点から、4年生で東初協音楽祭（私立小学校の合同音楽会）に参加する。

4. 特別授業・特別活動

- ① 9月にリコーダー奏者を招き、4年生に向けた特別授業を実施する。
- ② 2月に邦楽（尺八・箏）奏者を招き、5年生に向けた特別授業を実施する。
- ③ 外部会場で行われるコンサートやミュージカル等に、有志を募り鑑賞する。
- ④ 聖徳学園中学・高等学校の吹奏楽部・合唱部・和太鼓部の演奏を鑑賞する。

（※③④に関しては不定期開催）

5. 音楽特別研究と器楽クラブ

本校では授業の他に、5・6年の希望者を対象とした音楽特別研究（特研）、4年以上の希望者を対象とした器楽クラブがあり、それぞれの特徴に合わせた活動を行っている。

音楽特研では年ごとにテーマを決め、西洋のクラシック音楽や世界の民族楽器、日本の伝統的な芸能などを知る。また書籍等を使って各々で調べ、レポートやポスターにまとめながら深く学んでいく。音楽の授業では取り扱うことのない、より高度で専門的な内容に触れることが一番の目的である。作曲にも取り組む。ここ数年は、毎年3学期に歌舞伎の観劇も行っている。

器楽クラブは行事（入学式・卒業式・運動会等）での演奏や、校内での発表会に向けた演奏を行い、器楽アンサンブルを通して音楽に親しむ。

6. 全学年共通「今月のうた」「学期のうた」「年間のうた」（2017年度版）

○今月のうた（季節に合う・歌集に載っている曲という観点で選択）

4月	はじめの一步
5月	エーデルワイス
6・7月	にじ
9月	ゴーゴーゴー

10月	世界中の子どもたちが
11月	まっかな秋
12月	ジングルベル
1月	北風小僧の寒太郎
2・3月	ありがとう6年生・はじめましてのともだち

○学期のうた（行事に向けた取り組みという観点で選択）

1学期	COSMOS（林間学校のキャンプファイアーに向けて）
2学期	世界中の子どもたちが（聖徳祭の全体合唱に向けて）
3学期	Believe（スキー学校のスノーセレモニーに向けて）

○年間のうた（総合的な力が発揮できるという観点で選択）

2017年度	「いまだよ」 （NHK 全国学校音楽コンクール小学校の部 課題曲）
--------	--------------------------------------

7. 行事に関わる学年と曲目（2017年度版）

入学式	6年	入場「生命のいぶき」退場「威風堂々」 合唱「ともだち」
1年生を迎える会	全学年	斉唱「はじめましてのともだち」
林間学校	3～6年	合唱「COSMOS」
運動会	全学年	斉唱「ゴーゴーゴー」
	器楽クラブ	アンサンブル「学園歌」「得賞歌」「君が代」 「ゴーゴーゴー」他
聖徳祭	全学年	合唱「世界中の子どもたちが」
スキー学校	3～5年	合唱「Believe」
6年生を送る会	1～5年	斉唱「ありがとう6年生」
卒業式	6年	合唱「旅立ちの日に」
	5年	入場「威風堂々」退場「生命のいぶき」
	4・5年	合唱「明日へつなぐもの」
卒業生を祝う会	6年生	合唱「(NHK 合唱コンクールの課題曲)」 合奏「(未定)」

8. 音楽科通信

年8回、音楽科で通信「ハーモニー」を発行している。各学年の授業の様子、児童が仕上げた鑑賞や創作のプリントの内容、持ち物や実技テストのお知らせ、教員のコラム等を載せ、保護者に日頃の取り組みを伝える。

9. 写真で見る音楽科の取り組み（2016～2017年の様子から）



教科書以外の曲集も使い、
鍵盤ハーモニカを演奏します。



鑑賞では、自分なりの気付きや
解釈をワークシートにまとめます。



もうすぐ聖徳祭。本番の並び順で、
通し練習を繰り返し行います。



聖徳祭本番。どのクラスも個性が
よく表れた発表になりました。



有志で金管楽器のコンサートへ。
生で聴く演奏の迫力に感動！



プロの演奏家からレクチャーを受け、
珍しい尺八に挑戦です。

体育教育

1. 体育教育について

子ども達は遊びを通じて、身体を動かす喜びを知っており、体力を養うには遊びの中で身につけていくことが望ましいと言われていました。それが、今日では生涯体育と言われる時代になってきました。それは子ども時代だけでなく、生涯に渡って運動する喜びを感じながら体力を身につけていくもので、どの児童もそれぞれの能力・体力に応じて無理なく身につけていくことを目指しています。本校では生涯体育という観点に立って、ただ身体を鍛えていくだけでなく自主的・主体的な活動をさせていく中で、多くの内容や難しい技に挑戦させていくことを目標としています。また児童があらゆる場面で発表する機会を多く与えることにより、一人ひとりが自分の得意とする種目を伸ばし、自信をつけさせてあげたいと考えています。

将来的にはリーダーシップのとれる逞しい児童を育てていくことを目標とし、そのために必要な運動技能や体力・能力などを無理なく、スムーズに伸ばせるように運動の適時性に注目し、学習内容が子ども達の発達段階に合うようなカリキュラムの内容を構成しています。

2. 目 標

調整力を中心に、運動する時に必要な将来に役立つ基礎能力をバランスよく養う。

3. 本校における指導方針

- (1) 調整力の4領域である平衡性・巧緻性・敏捷性・柔軟性を各学年においてバランスよく養うことで、運動能力を蓄積させる。
- (2) 基礎体力について重点を置き、基本の運動として位置づけ、特に弱いからだの筋肉を補っていく。

- (3) 主体的な取り組みをさせることで、生涯に渡って運動を楽しむ態度を身につけさせる。
- (4) 児童ができるだけ多くの運動に接する機会や場を与え、運動能力を伸ばしていく。
- (5) 一人ひとりが自分の得意とする種目を伸ばし、自信をつけさせる。
- (6) リーダーシップのとれる逞しい児童を育てていく。
- (7) 集団を意識しながら、運動技能の追及や創意工夫した取り組みができるようにさせる。
- (8) 能力の限界に挑戦させる。

4. 各学年における指導の重点項目

1・2年（遊び・ゲームを中心とした学習内容）

- ・ 遊びの中から運動の楽しさを感じ、反復して技能を身につけさせるようにする。
- ・ 集団行動を身につけさせながら、ルールについてしっかりと守らせる。

3年（ゲームを中心とした学習内容）

- ・ 遊びの中で身につけてきた技能を競わせることで、活発にさせながらお互いの技能をより伸ばしていく。
- ・ ゲームでのルールをしっかりと学ばせることで、公正な態度をしっかりと養うようにさせる。

4・5年（基本・基礎を中心とした学習内容）

- ・ 活発に取り組んできた技能をより伸ばすために、しっかりとした基本・基礎を学ばせることで、幅広い能力を身につけさせる。
- ・ 苦手種目をこの段階で目標まで到達できるように、しっかりと反復させながら身につけさせることで、粘り強い学習をさせていく。

6年（発展と応用を中心としたまとめの学習）

- ・ 今まで学習してきた基礎を活かし、自ら工夫したり、応用させることで技能を伸ばしていく。
- ・ 自分から進んで得意種目を更に伸ばすことにより、積極的な姿勢や自信をつけさせ、最上級生としての自覚を養わせる。

5. 年間指導計画表

1 学期	4 月	5 月	6 月
1 年	基本の運動（鬼ごっこ・模倣・跳び箱・マット運動（前転） ボール遊びⅠ（ドッジボール）		鉄棒（前回り）
2 年	基本の運動（宝陣取り・マット運動後転・跳び箱閉脚跳び） ボール遊びⅢ（ドッジボール）		もぐらたたき
3 年	力試し運動（Sケン）	ドッジボール	マット運動（とび込み前転）
4 年	バスケットボール（シュート・ピボット） 障害走（ハードル走）		鉄棒運動（足かけ上がり）
5 年	短距離走（クラウチング・スタート・50m 走） バレーボール（スパイク・ローテーション）		走り幅跳び又は走り高跳び マット運動（倒立・側転）
6 年	障害走（ハードル走）	バスケットボール（守り）	マット運動（まとめ）

2 学期	9 月	10 月	11・12 月
1 年	回旋リレー（短距離走 50 m）	持久走（粘り強く）	ボール遊びⅡ（サッカー）
2 年	鉄棒運動（こうもり降り）	持久走（粘り強く）	短距離走とリレー
3 年	鉄棒運動（逆上がり）	持久走（呼吸法） バスケットボール（ドリブルの基本）	
4 年	バレーボール（パスの基本）	持久走（呼吸法）	跳び箱（閉脚跳び）
5 年	リレー（バトンパス） 持久走（ペース配分）	バスケットボール（攻撃・速攻）	跳び箱（台上前転）
6 年	リレー（バトンの受け渡しの工夫）	持久走（ペース配分）	リズム縄跳び（創作発表会）

3 学期	1 月	2 月	3 月
1 年	縄跳び（検定）		
2 年	縄跳び（検定）		
3 年	リズム縄跳び（基本技）	縄跳び（検定）	サッカー（パス）
4 年	リズム縄跳び（連続技）	縄跳び（検定）	サッカー（ポジションと役割）
5 年	リズム縄跳び（規定演技）	縄跳び（検定）	
6 年	バレーボール（サーブとゲーム）		

6. 小学生の時期に大切な調整力について

体力には大きく分けて「行動体力」と「抵抗力」の2つに分かれています。その行動力の中にも3つ程に分かれ「調整力」、「筋力」、「持久力」と言われています。子ども達が運動していく上で、ただ教えるだけでなく、運動生理学から見て、どのような能力を養えば伸びていくのかを知っておく必要があります。

(1) 大切な調整力

運動生理学から見た行動力の3つには、それぞれ伸びる時期があります。例えば筋力は男性ホルモンなどの影響が大きく、思春期以降の時期が顕著に伸びていきます。また最大酸素摂取量についても肺の酸素摂取能力・循環器系の摂取運搬能力が小学校の時期では、発達しにくいところから、この能力を早く養っていくことは、弊害を及ぼす結果となります。

(2) 神経系の発達

小学校の時期に何の能力を養えば良いのかについてですが、調整力（瞬発力・筋持久力・調整力）については、逆に早い時期の方が良いと考えられています。すなわち、神経系の発達が今までの能力とは別に早い時期にもっとも著しく伸びていくからです。伸びる能力だからこそ発揮させていく必要があります。

(3) 運動体験の必要性

調整力を要する動作は、やさしい動作から習熟し、難しい動作へと発展

します。難しい動作は、これまで獲得した動作を基礎として成立します。

最も効果的に学習できる幼・少年期に豊富な運動経験を持ち、多種多様な基本的動作を身につけておくことは、思春期以降の運動能力の発達にも大きく影響します。

よく小さい頃、「身につけた運動は忘れない」と言われ、水泳や自転車乗りなどでよく例に出されます。逆に大人になってから覚えようとするとも時間がかかるということです。これは小さい頃、覚えなくてはならないような内容や感覚をその時に十分養えなかったことが原因としてあります。このように、小学校の段階では調整力の役割が非常に大きく、神経系の発達が成人の値に達している小学校の時期に調整力の要素をバランスよく養わせる必要があります。また、その他の要素などは身体的な成長とも密接に関係していることから思春期以降に養う方が効果が得られる場合もあります。

以上のことを児童の発達を見極めながら調整力を確実に養っていきけるように日々精進していきたいと思っています。

7. 聖徳の特色ある体育科の取り組み

①ボール運動

聖徳のボール運動では、「ドッジボール」「サッカー」「バスケットボール」「バレーボール」へと神経系の発達を考えた一貫性を持った単元の内容を設定しており、手の平から徐々に指先の末端へ力を送りながらボールをコントロールできる能力を身につけることをねらいとしています。

単元	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
ドッジボール	○ボールⅠ	○	○			
サッカー	○ボールⅡ	○	○	○		
バスケットボール			○	○	○	○
バレーボール				○	○	○

※1年のドッジボール・サッカーについては、ボールに慣れることを到達目標に設定しているため、単元名はボール遊びⅠ・Ⅱとして表示しています。

②もぐらたたき

単元としては、どこの学校もやっていない内容です。聖徳では2年生で導入していますが、基本的にはどの学年でも行える内容です。5・6年生で本格的なバトンを使ってリレーの授業を行います。それまでの準備段階として考えています。

もぐらたたきでは、「どうしたら上手に渡せるのか」を工夫させています。そして、自分達でa) 順番を考えさせる。b) お互いに意見を出し合う。c) チームごとに作戦を決めてから行う。など様々な工夫をしながら行うようにしています。

子ども達の反応として、追う・追われるというスリルのある内容なので大変興味を示します。

また、雨が降って校庭が使えない朝などは、講堂で学年関係なく、みんなで楽しく遊ぶ姿が見られます。動きが単調なので、参加者全員で盛り上がるのも特徴です。

盛り上がる要因として名前を「もぐらたたきゲーム」としてゲーム化したことが興味・関心を引き出しているようです。

単元	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
回旋リレー	○					
もぐらたたき		○				
リレー					○	○

※1・2年生はリング（輪）バトンを使い、5・6年生では本格的なバトンを使用します。

③持久走（マラソン大会）

聖徳では昭和53年から現在までマラソン大会を実施しています。目的として児童の体力向上と精神面、粘り強い気持ち、最後までやり遂げる気持ちを養っていくことを目標としています。毎年、二学期の運動会が終わった頃から、マラソン大会に向けての練習が本格的にスタートします。

現在では低学年（1～2年生）・中学年男女別（3～4年生）、高学年男女別（5～6年生）のブロック別に分かれて、全学年が2kmを実施しており、東京都の小学校においては私立学校並びに公立学校においてマラソン大会を実施している学校は少なく、その中においても聖徳は強い心を育て、逞しい児

童を目指すという意味で、全学年で毎年実施しています。その点からもマラソン大会は特色ある取り組みのひとつと言えます。

○マラソン大会に向けての取り組み I

体育の授業では

- 全学年 200m × 5 周走の 1000m (1km) を走ります。
ベース走、または全力走などのタイムトライアルの練習を行います。
- 駅伝方式のチーム対抗戦 (1 人 2 周 × 5 ~ 6 名)
- インターバルトレーニング など。

※各学年の発達段階に合わせて、無理のない範囲で取り組める内容を設定しています。

○マラソン大会に向けての取り組み II

朝練習では

運動会が終わった後、朝の 8 : 25 ~ 8 : 35 の時間を使って、マラソン大会に向けて練習を行っています。

④縄跳び (検定と規定演技、創作リズム縄跳び発表会)

三学期は、全学年が縄跳び (検定) を中心に行っています。個人の成長に応じた色々なレベルの技に挑戦ができるため、どの子どもも興味を持って取り組んでいます。一年生も興味・関心の高い子は、何度も何度もそのレベルを超えようと集中して取り組み、毎日校庭で挑戦している姿が見られます。

レベルの高い技 (級) を超えることは容易なことではありませんが、そのレベルを超えたいと思い、興味・関心を持つ子どもは、限界に挑戦する姿が見られます。熱心に取り組んでいる子どもに刺激を受けて、切磋琢磨しながら上達していく姿は、とても素晴らしいものです。

毎日、練習に明け暮れて、そのレベルを乗り越えた時の満足感は計り知れないようです。更に上へ上へと挑戦する姿は目を見張るものがあります。

縄跳び一つ取っても、子どもたち同士が刺激を受けながら、頑張っている姿は、聖徳の良い部分の一つとも言えます。

また 5 年生では、リズム縄跳びの規定演技 (ジングスカン) の練習・発表会を行っており、一回も引っ掛けることなく上手に跳べるように頑張ります。

最高学年の 6 年生になると総まとめということで、今まで習ってきた技能を

全て出し切れるように、創作リズム縄跳びとして自分達で考えて音楽や演技などを決めて作り上げ、最後には発表会を行います。

また、有志を集めて運動会ではリズム縄跳びの演技も行っています。



家庭科教育

1. 家庭科教育について

5・6年生の家庭科の授業では、衣食住に関する体験を通して日常生活に必要な知識や技能を身につけていきます。様々な活動の中にも、子ども達の個性を生かし、創意工夫する力が養われるよう指導していきます。子ども達は楽しみながら学び、家庭生活を大切にする心情を育てていきます。

本校の家庭科教育において、

- ① 生活を工夫する楽しさや物を作る喜びを知る。
- ② 家族の一員としての自覚を持った生活を実感する。
- ③ 自分の成長を理解し、家庭生活を大切にする心情を育む。

以上、3点を目標として、日々の学習活動を行っています。



フェルトでペンケース作り (5年生)

2. 年間指導計画

学年 月	5年生	6年生
4	家庭科を学ぼう 見つめてみよう、私と家族の生活	きれいにしよう、クリーン大作戦
5	はじめてみよう、ソーイング	考えよう、これからの生活
6	はじめてみよう、クッキング	暑い季節を快適に
7	元気な毎日と食べ物	工夫しよう、朝の生活
9	わくわくミシン	工夫しよう、楽しい食事
10		生活を楽しくしよう、ソーイング
11		
12	かたづけよう身の回り	成長した私たち
1	寒い季節を快適に 上手に使おう、物やお金	
2	できるようになったかな、家族の仕事	
3	家庭科の学習をふり返ろう	

3. 各学年の特色

① 5年生

家庭科の授業が始まる学年です。まず、初めにこれまでの生活の中で、どのようなことが自分一人で行えるようになってきたのか、家族の一員としての自分自身の役割がどのようなものがあるかを確認していきます。そして、実際に裁縫や調理等に取り組んでいきます。



バランスの良いメニュー作り (5年生)

裁縫では、自分の生活に役立つペンケース、東袋を製作していきます。実際に針や糸、ミシンを使う事が初めての子ども達も多いのですが、新しい体験を楽しみながら活動しています。

食物では三大栄養素を学び、バランスの良いメニュー作りをします。調理では『茹でる』ことを中心に『ゆで野菜のサラダ』を作り、一年のまとめとしては、各クラスで柔軟にメニューを決め、実習を行っています。

② 6年生

5年生で学習した学習内容を更に発展させていきます。

年度当初には自分の生活時間の見直しをし、家族の一員としてできる内容を再確認していきます。

裁縫では5年次で基本的な裁縫道具の使い方と基本縫いを学習したので、それを生かし、ミシンと手縫いを用いてトートバッグ(29年度はナップザック)を製作します。

まち針を打ったり、チャコペンで印をつけたりするのに初めは苦労しますが、作業工程が進むにつれてどんどん形になっていくことが励みになり、楽しんで作品を完成させることができます。

調理では、一学期に栄養バランスを考えたメニュー作りを活かして(29年度は餃子・煮込みハンバーグ)二学期にはじゃがいもを使った料理(例年はジャーマンポテト)三学期は人をもてなすための簡単調理(例年フルーツサン

ドや白玉などのおやつ作り)を実施します。



2学年を通じ、体験を通して日常生活に役立つ様々な知識や技能を身につけることができます。

5年生 年間カリキュラム

月	年間 テーマ	単元(題材)	時 数	指導の重点	児童の活動
4		家庭科を学ぼう (ガイダンス) (1時間)	1	◎ 入学からの生活や学習をふり返り、これまで家族や周囲の人々に支えられてきた事に気づかせる。	● これまでの自分の成長を見つめ、2年間の学習の見直しを持つ。
		①見つめてみよう 私と家族の生活 (1時間)	1	◎ 家族の状況に配慮しながら、家族との関わりあいや支えられていることを理解させる。	● 1日の生活をふり返り、家族との関わりや生活の仕方を見つめ、できるようになったことを確認する。
5		②はじめてみよう ソーイング (4時間)	2	◎ 裁縫道具の安全な扱い方に十分配慮し、基本的な技能を身につけさせる。	● 針と糸を使って、玉結び・玉止め、ボタン付けなどを練習し、慣れる。
			2	◎ ペンケース作りに取り組みさせる	● なみ縫い・返し縫い・かがり縫いを練習する。
6	生活を見つめ できることを増やしていこう	③はじめてみよう クッキング (2時間)	2	◎ 器具の安全な使い方に気をつけ、扱い方を身につけさせる。 ◎ 調理方法の『茹でる』を指導し、茹で方や時間によって出来上がりに違いがあることを理解させる。	● コンロを使って湯を沸かしたり、危険な道具の扱い方を身につける。 ● 卵や青菜を茹で、『茹でる』方法を習得する。
			7	④元気な毎日と 食べ物 (3時間) 可能であれば +2時間で実習	1
1	◎ 食事では主食・汁物・おかずが組み合わせられていることに気づかせ、バランスの良いメニューを考えさせる。	● 前時に学習した栄養を考えながら、バランスの良いメニューを考える。			
1	◎ 米や味噌の特徴を調べ、理解させる。また、ご飯をうまく炊くために水の分量や加熱時間を考えたり、実の組み合わせや切り方、加熱の仕方を考えさせる。	● 米や味噌の特徴を知る。 ● ご飯とみそ汁の調理に向けた計画を立てる。			
			2	◎ ご飯を炊き、みそ汁の調理をさせる。	● ご飯とみそ汁を調理する。
		林間学校で	4	◎ 林間学校でカレー作りに取り組みさせる	● 班の友達と協力し、下級生の面倒を見ながら自分の役割に取り組む
			17		

月	年間 テーマ	単元 (題材)	時 数	指導の重点	児童の活動
9	生活を見つめ できることを増やしていこう	⑤ わくわくミシン (11 時間)	3	◎ ミシンの安全な使い方を確認しながら準備・から縫い・直線縫いができるようにさせる。	● ミシンを安全に操作し、直線縫いができるようになる。
10				◎ 紙と比べながら布の特徴を分からせる。	● 布の特性を調べる。
11			7	◎ 計画を立て、直線縫いを生かした作品を作らせる。	● 自分の生活に役立つことのできる作品を作る。(体操着入れ?)
12			1	◎ アイロンの安全な取り扱いができるようにさせる。	● アイロンを安全に使用することができる。
1		⑥ かたづけよう 身の回り (1 時間)	1	◎ 生活している空間に目を向け、整理整頓の必要性を知らせる。	● 学校・家庭での身の回りを整理整頓する計画を立て、工夫しながら整理・整頓する。
		⑦ 寒い季節を 快適に (2 時間)	1	◎ 衣服の働きを知らせ、衣服の着方を考えさせる。	● それぞれの季節に合った着方の特徴や衣服の働きについて考える。
			1	◎ 暖房器具の安全な使い方・換気の方法などを確認させる。	● 日光の役割を考えたり、温かく過ごす方法を考える。
		⑧ 上手に使おう、 物やお金 (1 時間)	1	◎ 物やお金の大切さに気づき、計画を立て、適切な買い物や使い方ができるようにさせる。	● 物やお金の使い方をふり返り、上手な買い方について話し合う。
				◎ 適切な買い物の仕方をまとめ、生活に生かすように声を掛ける。	● 買物をする時の気をつける点を調べ、上手な買い物についてまとめる。
2		⑨ できるように なったかな 家庭の仕事 (5 時間) (家族とほっとタイムと統合)	1	◎ 家庭には衣・食・住に関する様々な仕事があり、自分や家族の生活を支えていることを分からせる。	● 家庭にはどんな仕事があるかを考え、自分が担える仕事はどんなものがあるかを考える。
			◎ 家族とのふれあいや団らん大切さを理解させ、その方法には様々あることに気づかせる。	● 一緒に生活する家族との触れ合いや団らんとした経験について話し合う。	
		2	◎ 簡単なお菓子作りの計画を立て、家族と過ごす時間についての計画を立てさせる。	● 団らんを持つ計画を立てる。	
		2	◎ お菓子作りの実習を行わせる。	● 実習を行い、家族に作ってあげられるようにする。	
3	家庭科の学習を ふり返ろう (1 時間)	1	◎ 家族の一員として自分がどのように成長したかを確認させる。	● 一年間の学習をふり返り、できるようになったことを確認しあう。	
			21		

6年生 年間カリキュラム

月	年間 テーマ	単元（題材）	時 数	指導の重点	児童の活動	
4		① きれいにしよう クリーン大作戦 (2時間)	1	◎ 生活の仕方や場所により、 汚れの種類や汚れ方が違 うことに気づかせる。	● どんなどころにどんな汚 れがあるか調べる。	
			1	◎ 掃除の方法や手順につい て、効率の良い掃除方法 を考えさせる。 (ゴミの分別については普 段の掃除の中で指導。牛乳 パック等を利用するなどのリ サイクルは工作科に依頼)	● 身近な場所の汚れに合っ た掃除の仕方を考え、発 表する。	
		5	② 考えよう、 これからの生活 (4時間)	1	◎ 自分たちの生活環境につ いて考えさせる。	● 身近な環境について、気 が付いたことを話し合う。
				3	◎ 学習を生かして家族への 感謝の気持ちをまとめさ せる。	● 身近な人へ感謝の気持ち を伝える方法を考え、計 画的に作業を進める。
6		③ 暑い季節を 快適に (2時間)	1	◎ 涼しくする住まい方の工 夫や冷房器具の上手な利 用法を調べ、生活に生か すようにさせる。	● 涼しい住まい方を調べ、 自分の家でできることを 確認する。	
			1	◎ 寒い季節の着方と比較し たり、衣服の中の風通し を良くする方法について 考えさせる。	● 暑い季節を気持ちよく、 健康に過ごすための衣服 の着方を考える。	
7		④ くふうしよう、 朝の生活 (4時間) 可能であれば +2時間で実習	1	◎ 時間の使い方について見 直し、確認させる。	● 一日の生活時間を調べ、 見直す。	
			1	◎ ごはんとみそ汁、または パンと飲み物に合ったお かずを考え、栄養のバラ ンスが取れているかを確 認させる。	● 栄養のバランスがとれた 朝食のおかずを考える。	
			2	◎ 材料の買い方、選び方、 保存方法を調べ、実習に 向けた準備をさせる。	● 朝食のおかず作りの計画 を立て、必要な材料を準 備する。	
			2	◎ 油で炒める調理の良さや 注意点がわかり、フライ パンの後始末ができるよ うにさせる。	● フライパンを安全に使っ て朝食のおかずを調理する。	
			林間学校で	4	◎ 林間学校でカレー作り に取り組ませる	● 班の友達と協力し、下級 生の面倒を見ながら自分 の役割に取り組む
			18			

工夫して生活に活かそう

月	年間 テーマ	単元 (題材)	時 数	指導の重点	児童の活動	
9	工夫して生活に活かそう	⑥ 工夫しよう 楽しい食事 (5時間)	1	◎ 栄養のバランスや色どり、味付けを考えながら献立を考えさせる。	● ごはんとみそ汁を中心とした一食分の献立を考える。	
10			4	◎ ジャガイモを用いて、同じ食品でも調理の方法によって色々な料理ができることに気づかせる。	● 身近な食品を組み合わせて計画を立て、おかずを作る。	
11			⑤ 生活を楽しく しよう、 ソーイング (7時間)	2	◎ 身近にある布で作られたものから、生活に役立つ物を考えさせる。	● 布を用いた生活が楽しくなるものを考え、計画を立てる。
12				4	◎ 個々の計画に沿った作品作りをさせる。	● 立てた計画に沿って、作品作りに励む。
		1		◎ 実際に作った作品についてのまとめを行なわせる。	● 完成した作品について、工夫した点や使ってみての感想などを発表しあう。	
1		⑦ 成長した私たち (5時間)	1	◎ この2年間の成長を実感し、更によりよい生活を目指していくよう助言する。	● 2年間の学習をふり返り、生活の中でできるようになったこと、工夫してきたこと、また、これらを生かして今後どのようにしていきたいかなどを発表する。	
2						● 2年間の集大成になるような作品作りに取り組む。
3						
				17		

道徳教育

■道徳教育の意義

「なぜ勉強するのか？」と問われたら、多くの子どもたちが「将来の自分のため。」「豊かな人生を送るため。」などと答えるでしょう。しかしながら、勉強していれば人生が上手くいくかといえば、そういうわけではありません。学力は、大人になったときに社会で必要になる多くの力のうちの一つにしか過ぎません。社会では、コミュニケーション能力、主体性、忍耐力、適応性、向上心、責任感、課題解決力、リーダーシップ力なども必要になるのです。これらの力は社会に出た後に育つというよりは、幼少期から少しずつ育まれるものです。家庭の価値観が多様化して、地域の教育力が下がっている現代こそ、道徳教育の必要性が高まっています。聖徳の英才教育の上に、さらに道徳教育を行うことで私たちの卒業生の理想像である『志のある英才児』に育ていくことができる、そう考えています。道徳教育が加わることにより『卒業生が日本を変えていく教育』すなわち卒業生がそれぞれの得意分野で日本を変えていくことを実現していくのです。

■7つの習慣に基づくリーダーシップ教育『リーダー・イン・ミー』



スティーブン・R・コヴィー博士が提唱する『7つの習慣』に基づく、『リーダー・イン・ミー』を取り入れ、リーダーシップ教育を行っています。リーダーシップ教育とは、全員が「人の上に立つ」という意味ではなく、一人ひとりが自分自身のリーダーとなり、

主体的に行動できるように成長を促すことです。

『7つの習慣』

第 1 の習慣：主体的である

第 2 の習慣：終わりを思い描くことから始める

第 3 の習慣：最優先事項を優先する

第 4 の習慣：Win-Win を考える

第 5 の習慣：まず理解に徹し、そして理解される

第 6 の習慣：シナジーを創り出す

第 7 の習慣：刃を砥ぐ

キングベア出版『完訳 7つの習慣 人格主義の回復』より

■道徳教育の目標

新しい時代を拓く英才児にふさわしい、豊かな人間性とたくましい心を育てる。

■教育課程の特色

1. 子どもたちの主体性、創造性、自主性を養うために、7つの習慣に基づくリーダーシップ教育を行う。
2. 世界平和に貢献をする子どもたちを育てていくために、修学旅行において平和学習を行う。
3. 自分の身の周りの人と共存共栄をしていくために、お互いを尊重し合う社会性を養う。
4. 社会正義を重んじ、堅固な規範意識を持てるようにする。
5. 主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高めるために、キャリア教育を行う。
6. 互いの良さを認め合う人権教育を行う。

■各学年の指導方針

低学年

- 挨拶などの基本的な生活習慣を身に付ける。
- 様々なことに対して、自ら関わりを持つとする気持ちを育てる。
- 善悪を判断し、社会生活上のきまりを守る気持ちを育てる。
- 他者を思いやる、いたわる気持ちを育てる。



中学年

- 身近なものに対して主体的に取り組む姿勢を育てる。
- 善悪を判断し、正しいと判断したことを行う心を育てる
- 身近な人々を尊重し、助け合う心を育てる。
- 集団や社会のきまりの理由を考え、そのきまりを守る姿勢を育てる。

高学年

- 物事に主体的に取り組み、自分の行動に責任を持つ姿勢を育てる。
- 相手の考え方や立場を理解して共に支え合う精神を育てる。
- 法やきまりの意義を理解して進んで守る姿勢を育てる。
- 自分の将来を見通し、努力を続ける力、物事をやり抜く力を育てる。

特別研究●●

1. 特別研究とは

5・6年の児童を対象にして特別研究の時間を設置しています。

本校の児童は、

- (1) 興味や関心が多方面にわたっており、その内容も多種多様である。多くの児童は、知的興味や好奇心を満たす世界をもっている。
- (2) 未知の領域に対して好奇心や意欲が旺盛で、好きな教科や得意な教科に対しては幅広い取り組みや粘り強い追究の姿勢がみられる。

などの特性が多く認められます。そこで、そうした子どもの特性や長所を更に伸ばしてゆくため特別の研究時間を設けて、大いに取り組ませています。

2. 特別研究のねらい

本校の教育方針は、各教科の学習課程で、

- 12歳までにできるだけ知能を伸ばす
- 基本的な知識を知能のいろいろな角度から考えさせる

の2つが大きな柱になっていますが、知能活用期（5年次以上）の段階を考慮して、これまで育てられた知能や学力を総合して自己の力を十分に発揮させることが大切になってきます。そこで、

- 教科内容の固有のねらいをおさえながら教科の枠にとらわれない
- 5・6年の児童が参加するが、学年の枠にとらわれない

といった2点を踏まえ、適切な指導や助言を与えながら、できるだけ児童の創意工夫を生かし自由にかつ大胆に取り組ませています。そして、児童がもっている好奇心や興味を大切にしながら、一つのことにじっくり取り組み、広く深く追究させながら、一人ひとりの個性や能力を伸ばしています。特別研究の主な目標は、次の通りです。

- ① 教科や領域のねらいをおさえたり対比させたりしながら、特別研究の特性を生かした取り組みをさせ、興味や関心を深めさせる。
- ② 具体的な目標を持って、各自に応じた計画や実践をさせ、理解を深めさせたり発展させたりする。
- ③ 一人ひとりの興味や関心を大切にしながら、自由な研究のもとで自主的に創意工夫したり探究する態度を伸ばす。
- ④ 事物や事象に対して、柔軟性をもって多面的にとらえる力を養い、創造したり発展したりする思考を育てる。
- ⑤ 取り組み過程で成功や失敗、試行錯誤など豊かな体験や経験をさせ、根気強さを養う。
- ⑥ 個別の作業や学習、成果とともに協力したり助け合う態度を育てる。

3. 目標と学習項目

教科	目 標	学 習 項 目
国 語	<p>(1) 英才児特有の思考・感情及び意識の発達といった実態に即し、一人ひとりが持つ問題意識を掘り起こし、そうした過程の中で自ら課題を設定し追及できるようにさせていく。</p> <p>(2) 雑誌、新聞などの創作的な活動や問題意識に沿った論文、更には、故事成語や、論語などを使用するレポートなど、そうした取り組みを通して人間理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随筆や詩などの創作活動 ・ 故事成語、慣用句、ことわざ、論語などの研究 ・ 落語の世界の追究 など
数 学	<p>(1) 数学の集大成として、興味を持ったものを発展・研究する能力を養う。</p> <p>(2) 数学学習の発展として、数学的な関心・態度を育てていく。</p> <p>(3) パソコンを利用し、論理的・効率的に考える能力を育てる。</p> <p>(4) 研究・作品で自らの表現能力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究にパソコンを活用する。 ・ パソコンの操作を習得する。
英 語	<p>(1) 英語の音やリズムに慣れる。</p> <p>(2) 自然な英語を聞き取ったり、言うことができるようにする。</p> <p>(3) 英語と日本語の違いから文化を比較させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語と日本語の違いを研究 ・ 英語の歌や映画のディクテーション ・ インターネットを使った海外の子どもたちとの交流

理 科	<p>(1) 自主的にテーマを設定し、実験の計画を立て、計画に基づいて研究を進め、結果について考察し、科学への理解を深めさせる。</p> <p>(2) 研究した結果明らかになったこと、疑問に思うことをわかりやすく報告できるように工夫させることを通し、発表する力を養う。</p> <p>(3) 安全に配慮して実験を進める態度を養う。</p> <p>(4) 大学の先生や研究者の方を招いて、研究している内容の話聞き、研究の最前線にふれる。</p>	<p>(1) 必須実験（物理・化学・生物・地学）</p> <p>(2) 自主研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察（校内の植物、気象観測、顕微鏡観察・魚類の解剖等） ・科学工作（分子模型、化石レプリカ、ホバークラフト、リニアモーターカー等） ・実験（例）テルミット反応、炎色反応、青銅鏡作り、結晶作り <p>(3) SSISS（NPO法人科学技術復興のための教育改革支援計画）の特別授業</p>
地 理	<p>(1) 世界の国の中から一ヶ国を選び、その国の子ども達の生活を中心に調べさせるなかで、さまざまな地域の人々の生活や習慣について興味を広げさせる。</p> <p>(2) 世界との様々な関係を通して、日本の国について再把握していく。</p> <p>(3) 世界的な視野の中で、世界の人々が抱えている課題を捉え、それについて自分なりの解決策を見出していく。</p>	<p>(1) 世界の国々 人々の生活 子どもたちの生活 生活習慣</p> <p>(2) 自然 文化 産業</p> <p>(3) 環境問題 南北問題 地域紛争</p>
歴 史	<p>(1) 自らの疑問を追及し、より深い歴史的概念を身につけさせる。</p> <p>(2) 土器・火起しなどの体験学習を通して、当時の人々の生活の工夫や考え方を学ばせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査と文化比較による分析 ・文書資料、絵画資料の見方と歴史事象の関連 ・もののルーツを探る ・人物伝記による年表作り ・古事記の研究 ・父母・祖父母の少年時代の社会（ビジュアル年表） ・縄文土器作り
家 庭	<p>(1) 教科に対する興味を深め、縫う喜び・調理する喜びを体を感じさせ創意工夫し内容を深めながら楽しく取り組ませる。</p> <p>(2) 家庭生活を支えている身近な物や家族、仕家庭生活についての基礎理解を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○裁縫（小物作り） ・針、糸、はさみ等の取り扱いを覚える。 ・基本的な縫い方を練習し、技術を習得する。 生活の中で利用できるものを創意工夫しながら作り上げる。 ○食物 ・食生活の栄養について関心を持つ。 ・健康に留意した献立を考え、調理への興味を持つ。 ○家庭生活 ・自分や家族が家庭でどのように生活しているか関心を持ち、家庭での自分の役割について考える。

II 教科の基本方針と内容

音楽	<p>(1) 各自の音楽への関心を高め、知識の幅を広げていく。</p> <p>(2) 西洋音楽や世界の民族音楽、日本の伝統芸能など、年毎にテーマを決めて学習を行う。また書籍や音源、映像資料等を活用して作曲家や時代の特徴などを理解する。</p> <p>(3) 創作の活動を通し、記譜や分析の基本的な力を伸ばす。</p>	<p>○音楽史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作曲家や時代の特徴を知る ・楽譜の分析と鑑賞を行なう ・調べ学習を行う <p>○創作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律づくりを行う ・自作曲の演奏をする
美術	<p>(1) 能動的・主体的な表現活動の中から創造力を獲得し、造形能力を伸ばし育てる。</p> <p>(2) 身近な生活を見つめ、とらえた現実・イメージを、色と形で描写表現することを通し個性を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心を持ったモチーフ・テーマで描写する。 ・身近な生活空間の中からモチーフを見つけ出し描写する。 ・身近な世界をテーマに絵で表現する。

聖徳学園小学校の図書室

知的好奇心を満たす。心に残る一冊と出会う。学年を超えて想う。

本校の図書室は、いつでも気軽に出入りできる場所です。

バラエティーに富んだ蔵書や雑誌・新聞。迷宮に踏み込んだような書架の通路。木のぬくもりを大切にされた書架や机。そしてカウンターで皆を迎える司書教諭。

聖徳の学校図書館では、聖徳の特色ある授業のカリキュラムに沿って教育活動が展開できるよう、また児童個人の興味を伸ばしていけるよう、幼児向けから大人向けの本、専門書まで幅広いレベルと分野の図書を集めています。たとえば数学の書架では、小学生向きの算数本と数学の専門書が隣接していてよく驚かれますが、これは数学好きの子のためであり6年生のまとめで数学の卒業研究をするクラスのためにも必要なのです。

教科学習だけでなく、自由研究、児童の委員会やクラブ活動、修学旅行、国際交流などでも利用されます。インターネット接続のPCも図書室に6台あり、印刷資料と並行して学習活動で使用しています。

また、児童は物語が大好きです。校内でもちょっとした時間に読み、借り、友だちや先生と共感しあう。そんな光景が校内のあちこちで見られます。

2015年の蔵書電算化により、校内の図書分散配置が始まりました。特別教室(理科室や音楽室等)にはその教科関連書を、また各クラスには蔵書をローテーションする学級文庫で、読書習慣を形成できるよう環境作りを進めています。

聖徳学園小学校図書室概要 (平成30年1月現在)

施設 : 6号館3階、139.08平方メートル

座席数 : 36

コンピュータ : インターネット検索用6台
うち小学校蔵書検索 OPAC 常時2台

校内蔵書数 : 16,856冊 (児童一人あたり約44冊)

逐次刊行物 : 新聞4紙、雑誌15タイトル、年鑑・統計17タイトル

利用方法 : 利用できる時間 8:00～最終下校時間まで

校外貸し出し期間 二週間 長期休み前の特別貸出あり

II 教科の基本方針と内容



1年生の放課後。
高い棚も踏み台に乗れば届きます



昼休み、ちょっと
気になる雑誌を発見！



本と雑誌のリサイクル、
年に一度の『知恵の市』



週一回のお楽しみ、自由参加のお話会



お話会の後、
民族衣装体験♪



5・6年生 特別研究 真剣な表情



図書分類サインが新しくなりました！



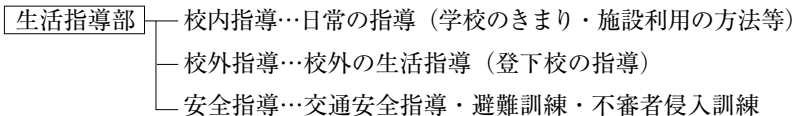
5年生 理科での一コマ

Ⅲ 生活指導

1. 方針

- 低学年は、集団生活の習慣づけとして守らなければならない基本的なきまりを指導し、自主性を育てる。
- 中学年では、学校生活等から集団生活を意識させて、一般的な生活習慣を指導し、社会性を育てる。
- 高学年では、上級生としての役割と責任を自覚させ、多様な場面での指導力を育てる。

2. 組織図と指導内容



3. 生活指導の実際

本校では、3つの発達段階に合わせて、生活指導を行っています。

1つ目は入学から2年生までの段階で、この時期は基本的な生活習慣を身につけさせ、個々の「自主性」を育成することを目標としています。様々な取り組みでは、頑張った点をできるだけほめて自信を持たせるように心がけています。これは、子どもたち一人ひとりが育んできた自主性を、正しく伸ばすことを目指しているからです。

2つ目は3年生から4年生の段階で、この時期は一般的な生活習慣を身につけさせ、個々の「社会性」を育成することを目標としています。入学後、子ども達は学校という社会の場で、色々な体験や経験を通して集団の規則を大切にすることや、友だちと協力する中で社会性を学び取っていきます。これまで育んできた自主性を大切にしながら、さらに子ども達一人ひとりの豊かな社会性

を伸ばしていきます。

3つ目は5年生から6年生の段階で、この時期は上級生であることを意識させながら、自主的な判断や自立的な実践力を身につけさせ、指導力を育成することを目標にしています。

【学校のきまり】

- 一、登校の時間を守り決められた通学路に登校する。
- 一、登校・下校は制服を着用する。
- 一、電車やバスなどの交通機関を利用する者は、車内・駅などでのルールを守り他の人の迷惑とならないようにする。
- 一、登校後はすぐ学習着に着替え始業の準備をする。
- 一、授業の準備は休み時間中に行い、チャイムの合図と共に学習に入れるようにする。
- 一、昼休みは各施設のきまりを守り、学年ごとに定められた場所で活動する。
- 一、危険な品物、その他学校の指定した品物は持ってこない。
- 一、所持金は必要以上持ってこない。高額の手持金については担任に連絡をし、許可を得る。
- 一、定められた最終下校時刻までに下校する。理由があつてその時刻を過ぎて校内に残る場合は、担任に申し出る。

本校のきまりは、9項目に限定しています。それは、きまりが子どもの生活を管理したり、自由を束縛したりするものであってはならないと考えるからです。最小限のきまりを押さえ、子どもの健康や安全に留意しながら、自主性・自律性を伸ばし高めることを目指しています。

【ボランティア活動】



生活委員会が中心となっ
て行っているボランティア
活動の一つで、学校から武
蔵境駅までの通学路を清掃
しています。

毎回熱心に取り組んでい
るので、地域の方々からも
温かい言葉をかけていただ
いています。

Ⅳ 学校行事

入学式●

新しい一歩を踏み出す日

4月。青い空に桜の花びらが今を盛りと咲き誇るころ、本校の入学式が行われます。真新しい、少し大きめの制服に身を包み小学生としての第一歩を踏み出します。

会場となる講堂に担任とともに入場すると、そこには保護者の方々・全教員・そして

在校生の代表として式に参加している6年生の大きな拍手に迎えられます。新入生の子もたちにとっては緊張の一瞬ですが、とても誇らしく明るい笑顔での入場です。

式では、担任から新入生児童ひとりひとりの名前が呼ばれます。大きな声で返事をして壇上へ。学校長から入学の記念の品が手渡されます。なかには「ありがとうございました!」と元気よくお礼を言う新入生もおり、和やかな雰囲気になります。続いて、在校生代表児童より歓迎の言葉が贈られます。



歓迎の言葉

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

昨日はよく眠れましたか？ 小学生の制服は、自分一人で着られましたか？

皆さん、とても上手に着ることができています。

どこから見ても、立派な聖徳の1年生です。

はじめまして。僕は6年の柏手 太陽といます。

ここに居る僕達6年生、そして今日は参加していませんが2年生～5年生までの聖徳生全員が、今日こうして新しい仲間を迎えることを嬉しく思っています。

今から5年前、僕たちも皆さんのように、ちょっとぶかぶかの制服を着て、ここで6年生と新しい先生に迎えられました。

皆さんの中には聖徳幼稚園を卒園してきた人や、ほかの幼稚園や保育園から来た人がいると思います。

当然聖徳から来た人は、この中にも何人か知ってる先輩もいると思いますが、そうでない人も、何の心配もありません。全然だいじょうぶです。今この瞬間から、皆さんは僕達の大切な仲間で、可愛い後輩になったわけです。

この学校は行事として、運動会や校外授業の他に、他の学年と競う校内ゲーム大会、全校百人一首大会といった盛り上がる行事があります。

1年生でも3年生に勝つチャンスがあります。とても胸が張れます。

今はルールも知らないかもしれませんが、ゲームの授業で分かってくると楽しくて、きっと夢中になるでしょう。

そしてラッキーなことに、今日ここには6年生がいます。この中には大人より将棋が強い先輩や、百人一首の強い先輩も沢山います。

ぜひ顔を覚えていって、ルールがわからない時や勝利のコツが知りたい時、そして困ったことがあった時は、いつでも6年生の教室まで来てください。

さあこの後は、いよいよ担任の先生の発表があります。1年生には、1クラス2人担任の先生がつきます。

幼稚園の時は、女の先生が多かったと思いますが、小学校には男の先生も沢山います。女の先生は、もちろん優しい感じで嬉しいですが、男の先生には男の先生にしかできない、ワイルドな遊びも教えてくれたりもします。

僕が1年生の時は、2人とも男の先生でした。

お父さんのように大きくて逞しい憲夫先生とちょっとお母さんのような優しい泰介先生でした。

2人の先生に守られて、小学生生活が始まりました。毎日とにかく楽しくて、朝どんどん学校に行く時間が早くなりました。

皆さんの担任の先生はどんな先生でしょうか？

新入生のお父様、お母様方。

学校内のことは勿論のこと、明後日から慣れない通学を始めることにも、ご心配のことと思います。でもこの学校では、先生と一緒に僕達が面倒を見ます。そして、同じ敷地内にある中学校、高等学校の先輩方や、大人の人達が、これからは仲間として、どこにいても見守っていきます。

一人一人が運動会の時と同じく、スタートの合図とともにフルパワーで走りましょう。一緒に楽しい学校を作っていきます。本日はご入学、おめでとうございます。

平成 30 年 4 月 7 日 在校生代表 柏手 太陽

これに応え、新入生代表が元気よく「誓いの言葉」を述べ、新入生ひとりひとりの胸にある希望と期待を膨らませつつ、6年間の本校での小学校生活をスタートさせます。

誓いの言葉

今日は、ほくたち新入生のために、入学式を開いてくださりありがとうございます。朝、新しい制服に着替えると、いよいよ小学生になると、ドキドキした気持ちになりました。

ほくは野球がだいすきです。毎日野球をしたり、野球の試合を見たりしています。野球の面白いと思うところは、チームスポーツだということです。野球はチームスポーツですが、一人一人の役目が全く違います。投げるのが得意な人、打つのが得意な人、足の速い人、守備のうまい人。それぞれが得意なところで力をはっきして、助け合いながら、一つのチームとして成長していく。そこがほくは好きです。

聖徳学園小学校は色々なことが得意な人たちがいると聞きました。電車にくわしい人、将棋やオセロの得意な人、発明の好きな人、漢字が好きな人。聖徳学園小学校では、そういった色々なことにくわしい、たくさんのお友だちと、一つのチームとして、うれしい時は喜び合い、つらい時ははげま

し合いながら、大きく成長していけたらいいなど、ほくは思っています。

小学校では色々なことを、先生方や上級生のみなさん、お友だちから教えてもらいたいと思います。たくさん考えて、たくさんすることに挑戦したいと思います。そのことを考えると、今からワクワクします。ほくたち新入生をあたたかく見守ってください。

皆で力を合わせて、楽しい6年間を送れるように、がんばります。

平成30年4月7日 新入生代表 杉村 英亮

卒業式

新たな歩み

やわらかな春風にさそわれて、桜の新芽が少しずつふくらみ始めた三月。六年間の小学校生活を終えようとしている卒業生は、友との別れの寂しさと新たな道への希望を胸に、開式を待ちます。

前日に行われた『卒業生を送る会』で一層交流を深めた在校生の温かい拍手に迎えられ、厳粛な式場に入場し、拝礼、献花・献茶を経て、最後の『お誓い三か条』を唱和します。心身共に大きく成長した姿を聖徳太子像の前に示します。

一人ひとりが呼ばれ、学校長から聖徳学園小学校で学んだ確かな証である卒業証書を受け取りに進みます。卒業証書授与の後は、母校を巣立ちゆく卒業生に学校長が励ましの言葉を述べます。

そして、在校生が感謝をこめ、新しい人生の一步を踏み出した卒業生に合唱のプレゼントをします。その後、児童代表者が『送る言葉』を卒業生へ。

送る言葉

卒業生のみなさん。みなさんを意識したのは、聖徳幼稚園年長の時でした。

運動会で、僕は初めてリレーメンバーに選ばれました。みなさんも知っ得のとおり、聖徳では幼稚園と小学校の運動会が合同で行われます。更に小学校低学年リレーでは、幼稚園の年長と小学1、2年と一緒に走ります。

初めての運動会合同練習。

幼稚園生にとって、名前のゼッケンのついていない体操着を着た小学生は、別世界の大人に見えました。そんな中でも一番身近な先輩は、当時小学1年生の、ここにいるみなさんでした。慣れない校庭でウロウロしてしまう僕たちを優しく誘導してくれました。

何度も練習を重ねていくうちに、この先輩と一緒に勝ちたいという気持ちが生まれてきました。

運動会当日、初めて小学生と協力して、大舞台上で競技に参加する時が来

ました。しかも第一走者は幼稚園生です。僕はとてつもなく緊張しました。「僕のせいで遅くなったら、どうしよう。」そんな考えが頭から離れず、スタンバイ中も、ただ黙って待っていました。

そんな時、「大丈夫、心配ない。頑張ろう。」と声をかけてくれたのは僕の後ろを走る先輩たちでした。「ああ、そうか。僕の後ろには先輩がいる。きっと大丈夫。」そう思えました。結果は一番ではありませんでしたが、誰もお互いを責めることなく、僕は大役を果たした達成感を味わうことができました。

僕の聖徳生の理想の小学生は、間違いなくあの時から始まりました。

あの日から毎年リレーを走る度に思い出します。優しい先輩の言葉。

そして、その理想の先輩に、僕はなれているのか。

あれから6年が経ちました。

あの時も今も、僕達と先輩との差は、たったの1年です。なのに百人一首も将棋大会も、そして部活でも、上にはいつも優しく、でも絶対に手を抜かない強い先輩がいて、大好きでした。

いつでも全力でぶつかっていきました。また、一人では乗り越えられなくても、友達と協力することで、越えられることも教えてくれました。

そんな先輩方が、今日卒業します。先輩方みたいになりたいと思って、今日までやってきましたが、4月からはそばにいないというのは、正直ちょっと淋しいです。でも先輩方は、聖徳で培った精神や思いを大切に、自分の将来の夢に向かって、真っ直ぐに進んでください。

みなさんが僕らに示してくれたように、これからは僕たち在校生が、聖徳学園小学校をしっかりとつくっていきます。

本日はご卒業おめでとうございます。そして、ありがとうございました。

平成30年3月17日 在校生代表 柏手 太陽

これに応え、卒業生代表が『お礼の言葉』を述べ、6年間の小学校生活に別れを告げ、新しく始まる中学校生活への希望と期待に胸を膨らませます。

お礼の言葉

日を追うごとに暖かくなり、春の訪れを感じられるようになりました。

6年前の4月。新しい生活への期待を胸一杯に私達は入学しました。そして今日、私達あずさ組・やくも組62名はこの聖徳学園小学校を卒業します。

小学校の6年間には数えきれない程たくさんの思い出が詰まっています。修学旅行では、前年同様広島・山口を4泊5日で巡りました。平和記念資料館では実際に被爆された方からお話をうかがいました。また、秋吉台では自然の神秘にふれ、非常に実りのある時を過ごすことができました。

運動会。勝利をめざしクラスで団結してたくさんの練習を積みました。結果は一点差で負けてしまいましたが、逆に良い思い出となりました。

私達のそばには常に先生がいらっしゃいました。まだまだ未熟な私達に腹が立ったことやあまりの生意気さにあきれてしまったことは何度もあったはずですが。それでも見放す事なく優しく、時には厳しく何回でも指導して下さいました。先生方が教えて下さったことは卒業しても消えることなく私達の胸に留まり続けることでしょう。

私達を一番近くで支え続けてくれた家族。嬉しい時は共に喜び、悲しい時は共に涙しました。辛い時、励ましてもらいました。がんばっている時、応援し続けてもらいました。その愛情があるからこそ、私達はこれからも歩み続けることができます。

在校生の皆さん、今日は卒業式に参列していただきありがとうございます。これからはあなた達がこの学校をひっぱってゆく番です。今よりも更に楽しく快適な生活を送れる学校にして下さい。

今日、今まで共に同じ道を歩み続けてきた私達62名はそれぞれの未来

へと歩み出します。4月になったら多くの新たな出会いが私達を待っていることでしょう。これから先、つらい事にくじけそうになっても、聖徳の卒業生だという誇りをもって立ち向かってゆきます。

最後になりましたが、私達の学校生活を支えてくれた全ての方々に感謝の気持ちをあらわしお礼の言葉といたします。

6年間本当にありがとうございました。

平成 30 年 3 月 17 日 卒業生代表 町谷 心優

林間学校●●

本校では、夏休みに入るとすぐに3泊4日の林間学校を実施しています。昭和46年度から行われている伝統的なこの行事は当初4年生から6年生までを対象にしていたのですが、本校における児童の体力やその意義を考え、現在では3年生から6年生までを対象に実施するようになりました。（※平成29年度まで。平成30年度から、4年生は同時期にイングリッシュキャンプに参加することになり、林間学校に参加するのは3、5、6年の3学年となります。）

その中心的なプログラムは、各学年に応じた登山やハイキング、縦割り集団による野外炊事、また、5、6年生を対象としたテント泊、更には、林間学校のフィナーレを飾るキャンプファイヤーなどで構成されています。また、雨天時にはハンドクラフトや体育館等で学年での屋内ゲーム、室内スポーツなどをその状況に応じ実施しています。

こうした内容からも分かるように、私たちは、この行事を通し、普段なかなか接することの出来ない自然と親しみ、自然と向き合いその感動を肌で感じると共に、寝食を共にして様々な活動に参加する中で集団生活のルールや規律といったものなどを自ら身につけて欲しいといった願いも持っています。

活動場所としては、3年生以上の異学年集団が共に行動する事が可能である場所として、標高2037mの本格的な登山コースがある志賀山や広い湖沼地帯を周辺に持つ四十八池めぐり、焼額山から竜王山への縦走コースなど、多彩な登山、散策コースが散在している長野県の志賀高原を中心に、平成23年度から行っています。

3泊4日の行程の主な内容を次に紹介します。（平成29年度までの内容）

1日目

子どもたちのホテルはスキー学校でも利用している北志賀高原竜王にあります。長野県北部という遠距離にある関係上、初日はほとんどバスの移動で終わりますが、5年生はすぐにこの日のテント泊のための準備に入ります。その他の学年もキャンプ場やその周辺の散策を行います。

全学年、宿舎に到着するとすぐに荷物整理やお世話になる宿舎の方のお話を聞き明日への活動の準備を行います。全学年が一堂に会しての夕食や学年ごとの入浴など、日常の生活から解放されてのこうした活動に、子ども達は新鮮な喜びを感じ初日から笑顔が絶えません。



寝袋で一晩寝ます。(テント泊)

2日目

前日の夜からキャンプ場にテント泊をしていた5年生が早朝に戻り少し休憩した後、3年生との野外炊事の準備が始まります。慣れない手つきで包丁を握り、薪に火をつける3年生に優しく指導する5年生の姿はほほえましいものがあります。メニューは初めて参加する3年生やある程度経験している5年生でも作りごたえのあるカレーライスです。自



みんなで協力してカレーライスを作ります。
(野外炊事)

分たちの手でつくった食事は特別な味がする様子、毎年「今まで食べたカレーライスの中で一番おいしい」「カレーが苦手だったけど食べられるようになった」といった声が必要聞こえてきます。昼食後、3、5年生はバスで20分ほど移動したところにある木島平「やまびこの丘公園」に移動します。3年生は広い公園の中でアスレチック遊びをしたり、クイズオリエンテーリングをしたりして集団での交流を深めます。5年生は草木染め体験に挑戦し、世界に1枚しかない「オリジナル手ぬぐい」をお土産に持ち帰ります。一方、この日4年生と6年生は別々に一日かけて登山やハイキングを行います。

4年生は、志賀高原の硯川までバスで出かけ、そこから四十八池めぐりをします。森林の中を歩き進める中、目の前に現れた湿原には湿原ならではの植物が広がり、その絶景に心が解放されます。さらに足を進めると澄んだ青色が美しい大



四十八池をめぐる。(4年生)

に食べるおにぎりはまた格別です。昼食の後は、尾根を登ったり下りたりしながら竜王山に向かいます。山頂まで来るとそこに待っているのはロープウェイ。朝はバスで1時間かけて焼額山登り口まで来ましたが、このロープウェイに乗って下るとそこは宿泊しているホテルのある北志賀高原竜王スキー場のゲレンデまで戻ることになります。子どもたちは何とも不思議な気持ちでホテルに戻ります。ホテルに戻ると、この日の夜はテント泊が待っています。



焼額山を登る。(6年生)

3日目



炭火を使ってバームクーヘン作り。(4・6年)

沼池にたどり着き、そこで昼食です。向いには志賀山が見えます。

6年生は、焼額山から竜王山への縦走に挑戦します。バスで約1時間、焼額山ゲレンデまで移動し、はじめはスキー場を登っていきます。途中、山間部を通りぬけ山頂の稚児池までたどり着くとそこで昼食。穏やかな水面を眺めながら澄んだ空気と一緒に

この日は、前日とは逆に4、6年生が共同して野外炊事を午前中に行い、午後には4年、6年のたて割りで「7種の活動」(平成29年度は「おやきとりんごジャム作り」「木工クラフト」「籐クラフト」「ピザ作り」「バームクーヘン作り」「魚のつかみ取り」「竜王溪谷散策」の7種)から予め選んだ活動に参加

します。3、5年生とはまた違った交流です。野外炊事では日頃、クラブ活動や委員会活動で一緒のこともあり、お互いに協力し合いながら、いっそう楽しい共同作業といった様子です。

一方、この日5年生は志賀山登山（2037m）に挑みます。昨年（4年次）と同じ硯川よりスタートしますが、途中から急登の登山コースに入ります。裏志賀山頂（2040m）まで行くと、昨年歩いた四十八池とそのハイキングコースが遙か右手に、左手には青々とした大沼池が望めます。左右のパノラマを存分に楽しみ、四十八池へと下りていきます。

3年生はというと、初めての山歩き。志賀高原丸池近くで潤満滝を遠く望み、歩きはじめます。30分歩いては休憩、30分歩いては休憩を繰り返し、旭山山頂にたどり着きます。登頂感を味わった小さな登山家は琵琶池をぐるりとめぐり、サンバレーでお弁当、草原で遊びホテルへと帰ります。

その日の夜は、フィナーレのキャンプファイヤーが行われます。人工的な照明のない世界で燃え上がる炎は子ども達に心を自然の中にいざないます。そして、歌やダンス、寸劇など子ども達のスタンプがキャンプファイヤーを盛り上げます。



旭山山頂へ。初めての林間学校での登山。
(3年生)

4日目

最終日、荷物整理を朝早くから行い、一路家路に向かいます。

お世話になったホテルの方が全員外に出て子ども達を送り出してくれます。子ども達も感謝の気持ちを込めてホテルの方の姿が見えなくなるまで手を振り、別れを告げます。

その日の夜、多くの子どもたちが眠い目をこすりながら家族に楽しかった3泊4日の思い出を語るのも毎年の姿のようです。

スキー学校●

昭和51年度から始まったスキー学校は、その長い年月が示す通り聖徳学園の伝統的な行事の一つといえます。

場所を志賀高原にある竜王スキー場とし、3年生から5年生の児童を対象に毎年2月中旬に3泊4日の日程で実施しているスキー学校では、単に技術的なものだけを追求するのではなく、親元を離れて集団で生活する宿泊行事ならではの位置づけをもって取り組んでいます。

その目的を児童に配布される「しおり」の最初にこのように記しています。

- 1) スキー技術の上達はもちろんですが、そのためにもきまりを守り、安全で楽しく滑れるようにしましょう。
- 2) また、集団生活は互いを尊重し協力する場であることを忘れずに行動しましょう。特に以下の点にこころがけましょう。
 - ① 自分のことは自分で行うと共に、みんなで協力しあい進んで行動しましょう。
 - ② 時間のけじめをはじめ、常に、先を見通して行動しましょう。
 - ③ 人に対する思いやりをもって行動しましょう。
 - ④ あいさつをはじめ普段の学校生活を送るうえで大切にしてきたことを普段通りに行えるようにしましょう
- 3) 上級生と下級生の交流を通し、それぞれに対する態度に気を付けるとともに協力しあえる関係を作りましょう。
- 4) 雪国での自然の厳しさや美しさを心と体で感じましょう。

宿泊場所は一般のホテルですが、家族旅行のように食事が用意され、部屋に戻ればすでに布団が敷かれているといったわけにはいきません。食事の時間になれば互いに協力し合いご飯やお味噌汁をよそい用意しなくてはなりません。終われば、同じように食器を協力して揃え、食事を用意し片づけてくださる人のことを考え行動しなくてはなりません。また、敷布団を敷きシーツをかけるといったことも当然のこととして行わなくてはなりません。初日、ほんやりと眺めていた子も、その様子に気づきいつの間にか協力して準備する姿を毎年のように目にし、そうしたこと一つとってみても貴重な経験といえます。

スキー実習に関しては、1班から18班まで学年を越え技能別のクラスを編成します。そして、各班には専門の指導員の方がつき指導に当たります。もちろん初めてスキー靴を履くといった児童もいます。そうした班には、学校の教員が2名ずつつき指導員の方と一緒に指導に当たることになります。

これも学校ならではの成果といえますが、参加したほとんどの児童が驚くほどにスキー技術を向上させ実習を終えることになります。家庭とは異なり友達がいるというだけで自分自身を奮い立たせ、自分に甘えることなくスキー技術を身につけようとするからでしょう。

こうしたねらいと活動があるからこそ、学校行事として定着してきたのであり、今後も学校の重要な行事として取り組まれていくことでしょう。



聖徳祭

本校では、日々の音楽活動およびクラス活動の発表の場としての聖徳祭を、毎年11月下旬に行っています。平成26年度からは、場所を講堂から武蔵野市民文化会館大ホールに移し、保護者のみならず卒業生や外部からの来賓にも鑑賞していただけるようになりました。1000人を超える観客と、大きな舞台に負けることなく、回を重ねるたびに子どもたちの発表は質的に向上しています。さらに、聖徳祭では鑑賞マナーも同時に指導しています。自分たちの発表だけでなく、他のクラスの発表をしっかりと聴くことも大切な活動だと考えています。

主な発表内容は以下の通りです。

- 1 年生：斉唱2曲
- 2 年生：斉唱・鍵盤ハーモニカ
- 3 年生：斉唱・リコーダー
- 4 年生：合唱・リコーダー
- 5 年生：合唱・合奏
- 6 年生：クラス合奏・合同合唱



元気でかわいらしい1年生から始まり、本格的な合奏に挑戦する高学年まで、クラスごとに担任の先生のカラーを出しながらの構成はバラエティーに富み、最後の6年生の全員合唱は、毎年心に残る素晴らしいものとなっています。また、演目の中には教職員による合唱もあり、子どもたちがとても楽しみにしてくれています。

運動会

運動会は、幼稚園と小学校の一貫教育として、毎年合同で行われています。主な目標として、

- ① 学校（園）行事に積極的に参加する態度を育て、日頃の学習成果の総合的な発展を図るとともに、学校（園）生活を充実させ、より豊かなものとする。
- ② 体育（運動）的活動をより充実させ、園児・児童の体力の向上を図るとともに、心身の健全な発達を促進する。
- ③ 高学年（4年生以上）は係活動に積極的に参加する態度を育て、責任感や指導力を養う。

以上の三点を園児・児童の発達段階に応じて工夫しています。

種目については、学年別や低・中・高学年のブロック別が中心となります。幼・小合同の良さを生かした、幼稚園児と低学年（1～2年）の選抜リレー、そして、合同種目の大玉送りなどが行われます。

応援リーダーは、4年生から代表が選抜し、運動会に向けて放課後や昼休みに練習を行ない、本番では「応援合戦」で力を発揮されます。

また、3年生以上の有志を集めて、「リズム縄跳び」の発表を行っており、二学期が始まると毎朝、講堂で練習に取り組む姿が見られます。

運動会の運営には、4年生以上の児童が積極的に参加し、色々な係と仕事をを行います。このような活動を通して、自主性や責任感、そして指導力を育てていけたらと思います。



マラソン大会

10月に入ると、朝早くから子ども達の走る姿が見られるようになります。また「今日は20周走ったよ。」「今日はマラソンの練習のために朝早く来たよ。」「家のそばの公園で練習してきたよ。」そんな言葉が子ども達から聞かれるようになります。10月の下旬にマラソン大会があるからです。

マラソン大会は28年度までは低学年（1年生～3年生）が2km、高学年（4年生～6年生）が4kmを走っていましたが、29年度は1・2年生、3・4年生、



5・6年生の3つのブロックに分け、すべての学年が2kmを走りました。マラソン大会の本番はここ数年、昭和記念公園で行われています。この公園は毎年箱根駅伝の予選会が行われる場所で緑豊かなコースです。このコースを子ども達は元気一杯に走りぬけていきます。走ることが得意な子は

大人もついていけない程の速さで走ります。また走ることの苦手な子も、自分のペースで精一杯走ります。コースには毎年大勢の保護者の方も来園し、精一杯走っている子ども達に暖かい声援を送ってくれています。

走り切った子ども達には毎年記録賞が渡され、次の年子ども達は、自分の記録をさらに更新しようと頑張ってくれています。

マラソン大会の目的

- ① 持久力（体力）、耐久力（精神力）を養う。
- ② 自分のペースを知り、それを守って最後まで粘り強く走り抜く態度を育てる。

「最近の子ども達は、体格は大きくても、体力や精神力が弱くなった。」ということがよく聞かれます。日ごろの体育の授業や休み時間に元気一杯体を動かして体力をつけていくことは勿論のことですが、マラソン大会を通して、最後まで諦めずに頑張る気持ちや、日ごろから自分の健康を意識していく姿勢も身に着けていって欲しいと願っています。

修学旅行

本校の修学旅行は6年生を対象にして「広島、山口」方面へ4泊5日の日程で実施しています。

1 見学の目的

小学校を卒業していく6年生にとって修学旅行はまさに大きなまとめ学習のひとつと言えます。これまで各教科で学んできた単元の中から実際に訪ね、見たり、触れたり、あるいは現地の方のお話を直接聞くことで学習を深めます。教科学習に関しては主に「歴史」「地理」「理科」を中心に、その中から訪問地を考えています。

見学地の目的は下記のように大きく4か所を設定しています。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 原爆投下地、戦争の傷跡 | 広島 |
| 2. 地球誕生から現代にまでに及ぶ自然の雄大さ | 秋吉台・秋芳洞 |
| 3. 近代日本の発祥・維新を支えた人々 | 萩 |
| 4. その他 | 広島城 宮島
錦帯橋 |

2 主な見学先（各年度によって変動することがあります）

- 1日目—東京から広島まで新幹線による移動 原爆ドーム
平和記念資料館 被爆体験講話
- 2日目—広島 広島城 宮島
- 3日目—山口へ移動 錦帯橋 秋芳洞 秋吉台（化石発掘体験）
- 4日目—萩 松陰神社 至誠館 松下村塾
吉田松陰生誕地 吉田松陰の墓
伊藤博文生家 武家屋敷
野山獄 岩倉獄 萩焼き手びねり体験

- 5日目—新山口から東京まで新幹線による移動

3 写真で見る修学旅行



新幹線の移動中の風景



爆心地へ千羽鶴を供える



被爆体験講話を聴いて



そそり立つ広島城の前で



お好み焼き村にて昼食



宮島・厳島神社内を観光



秋吉台で化石を発掘？



松下村塾を目の前に



萩焼の手びねり体験



世界遺産の萩反射炉にて

自由研究展

本校では、毎年2学期の初めに「自由研究展」を開催しています。これは、日々学んでいる教科の学習や自分の趣味、家庭での生活などの中から出てきた疑問や興味のあることを調べて、発展させて深めた内容について夏休みを利用してまとめたもので、毎年素晴らしい作品が、多数出品されています。内容は、次の3つの部門に大きく分けられています。

① 『アイデア』部門 ② 『調査・研究』部門 ③ 『創作』部門

- ① 『アイデア』部門は、創意工夫を凝らした作品を作り上げるもので、独創性や社会に役立つ度合いなどがポイントになります。
- ② 『調査・研究』部門は、各自の課題に沿って調査・研究をし、記録し発表するものです。
- ③ 『創作』部門は、広い意味での創作ではなく、物語や詩を書いたり絵を描いたり、作詞・作曲をしたりするものです。

出品された作品の審査は「努力」と「創造力」を基準として、全教員で1か月間かけてじっくりと審査し、表彰を行っています。

全作品は、校外コンクールへの出品作品を除いて、9月末日頃まで校内に展示・公開されます。

さらに、校外の各種コンクールにも積極的に出品しており、今までに恩賜記念賞（全国最高賞）内閣総理大臣賞、文部大臣賞を初め、東京都知事賞、朝日小学生新聞社賞など、数多くの賞を受賞し、本校児童が活躍していることは、すでにご存じのことと思います。主なコンクールにおける、最近の入賞実績は、次の通りです。また、平成元年度には、本校のこれまでの成果が認められ、「第31回創意工夫育成功労学校表彰事業」に東京都代表として推薦され、科学技術庁長官賞を受賞しました。それ以来、平成6年、9年、13年、17年、21年、25年、29年と計8回受賞しました。

◇最近数年の主な入賞実績

【東京都児童生徒発明くふう展（主催：発明協会）】

年度	出品数	入賞数	授賞の内容
H29	20	15	発明協会奨励賞・蟻川発明記念・優秀賞(5)・入選(10)
H28	20	14	優秀賞(7)・入選(7)
H27	20	10	東京都知事賞(1)、毎日新聞社賞(1)、優秀賞(2)・入選(6)

※昭和 49 年度から参加を始め、東京都知事賞の受賞や東京都代表として、全国学生児童発明くふう展においても入賞しています。毎年、他校に比べて多くの優れた発明アイデアの作品が入賞し、これまでに学校賞を合計 30 回受賞しています。

【全国児童生徒発明くふう展（主催：発明協会）】

年度	入賞数	授賞の内容
H27	2	恩賜記念賞(1)、豊田佐吉賞(学校賞)(1)、入選(1)
H24	1	入選(1)
H23	1	入選(1)

【全国小・中学校作文コンクール（主催：読売新聞社）】

年度	入賞数	授賞の内容
H29	5	東京都教育委員会賞(1)、読売新聞社賞(3)、佳作(1)
H28	6	東京都教育委員会賞(1)、読売新聞社賞(3)、佳作(2)
H27	5	東京都教育委員会賞(1)、読売新聞社賞(2)、佳作(2)

読売新聞社主催の『全国小・中学校作文コンクール』に、昭和 51 年度から参加を始めて、毎年東京都で入賞者を出しています。作文の部では平成 23 年度に全国コンクールにて文部科学大臣賞を受賞（これまで計 4 度目の受賞）し、平成 28 年度にも東京都教育委員会賞を受賞しました。作文コンクールにおいても、本校の自由研究展で培われた着眼点の良さが評価されています。

ゲーム大会●

本校では、低学年（1・2年生）の教科指導の中にゲームの時間を設けています。その授業では、それぞれのゲームのルールを学び、ゲームを通して知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てることを目標にしています。

そこで、さらにゲームに積極的に取り組めるよう、一年を通してゲーム大会を実施しています。実施する種目と時期は次の通りです。

	1・2年生 (低学年ブロック)	3・4年生 (中学年ブロック)	5・6年生 (高学年ブロック)
1学期	オセロ大会	オセロ大会	オセロ・五目並べ・将棋 の中から1種目選択する
2学期	五目並べ大会	五目並べ大会	
	将棋大会	将棋大会	
3学期	百人一首大会（1～3年生の部）		百人一首大会（4～6年生の部）

低・中学年オセロ・五目並べ・将棋の大会は、各クラスで大会を開き、代表2名を選出した後、ブロック毎での勝ち抜き戦を実施します。高学年は一人ひとりの興味が分かれてくるので、3種目の中から1種目を選択し、試合を行っています。

百人一首大会は他のゲーム大会とブロック編成が異なり、低学年の部（1～3年生）と高学年の部（4～6年生）の2ブロックに分かれます。また個人戦ではなく、3人一組の源平戦で試合をします。

どのゲームにおいても、熱い戦いが繰り広げられます。その戦いの中で、子ども達は活躍の場を見つけ、認められたことに自信を持ち、また自然と知能因子を刺激し、楽しみながら能力の限界に挑戦していくことをねらいとしています。



校外授業

本校では、1学期と2学期に1回ずつ、計2回校外授業を実施しています。学年ごとに行い、1学期は自然に親しむこと、クラス替えのあった学年は新しいクラスに慣れ、互いに協力することを目的としており、さまざまな公園を訪れます。2学期は、各学年の地理・理科・歴史・英語の学習内容がより深まるように、工場見学をしたり、科学博物館やプラネタリウムを訪れたりします。

普段の学校生活では味わえない体験をすることで、知的好奇心を刺激していきます。

【主な場所】

	春	秋
1・2年生	野川公園 小金井公園	葛西臨海水族館 国立科学博物館 鉄道博物館
3・4年生	高尾山 昭和記念公園	多摩六都科学館 立川防災館 虹の下水道館 TGG 東京都英語村
5・6年生	平和の森アスレチック	自動車工場 江戸東京博物館 国会議事堂



オーストラリア国際交流の旅●

毎年8月に、9日間の日程で4・5・6年生の希望者を対象に『国際交流の旅』を実施しています。

このプログラムは2004年に日本フルブライトMTPに参加したことをきっかけに、本校児童によるアメリカ・ミズーリ州の学校への短期留学とホームステイが始まりました。その後、交流校をオーストラリア・ブリスベン近郊の学校へと変更し現在行われています。

このプログラムでは、本校児童が交流校に毎日通い、「スクールバディー」という交流校の子どもたちと、普段の授業を受けたり休み時間や昼食時間などを一緒に過ごしたりします。また、日本を代表する「親善大使」としてオーストラリアの子どもたちに「折り紙」などの日本文化を伝える活動や聖徳の特色ある教育内容の紹介も行います。

同時に、近隣のご家庭にホームステイさせていただき、オーストラリアの生活を体験します。ホームステイの初日は不安が大きいです。二日目には不安が半分になり、最終日には「もっとここにいたい。日本に帰りたくない。」と多くの子どもたちが言います。丸ごとホストファミリーに解け込めるのが、小学生というこの年頃でホームステイをする大きな良さです。また英語についても、最初は「何を言っているのか分からない」と言っていた子どもたちも、最後の方には「英語はよく分からないけど、相手が何を言いたいのかは分かる」になります。毎年、子どもたちの適応力には驚かされます。

大まかなプログラムは、以下の通りです。

- 1 日目：出発
- 2 日目：ブリスベン見学（ローンパイン・コアラ保護区でのコアラの抱っこ、カンガルーの餌付け体験など）
ホームステイ初日
- 3～7 日目：
 - ・現地校へ登校（学校体験、スクールバディーとの交流、オーストラリアの文化・先住民アボリジニーの文化体験、日本文化や聖徳の教育の紹介など）
 - ・校外学習（1泊2日のモートン島旅行、野生のイルカの餌付け体験、砂丘での砂滑り体験、ダウンタウンで英語でのショッピングなど）
- 8 日目：お別れ会
- 9 日目：帰国

イングリッシュキャンプ

7月に、4年生の学年行事として2泊3日の「イングリッシュキャンプ」が行われます。4年生の子どもたちが成田空港近くのホテル滞在し、ネイティブの先生たちと3日間英語だけの生活です。初日に学校に集合する時にはとても緊張している子どもたちですが、移動のバスの中でネイティブの先生と楽しくゲームをするうちにすっかり打ち解けてしまいます。

キャンプではネイティブの先生と様々な活動を通して英語に親しみ、英語の力を伸ばしていきます。「自己紹介発表会」では簡単な英語を使って皆の前で一人ひとりがスピーチができるように取り組みます。

キャンプではその他、国旗を使って世界の国々の英語の名前をカルタゲームや神経衰弱で学ぶ活動や、ホテルの敷地内に隠された「トレジャー」を英語で探す「宝探しゲーム」、ホテルのスポーツバーで玩具のドル札を使って、外国人のスタッフに飲み物を注文する「ドリンクオーダー」にもチャレンジします。自分の英語で手に入れた飲み物の味は最高です。屋外の芝生の上で、朝の英語体操や英語を使ったスポーツ活動にも取り組みます。ベッドメイキングやナイフ・フォークだけの食事も、海外での生活の良い予行練習となります。

そうした様々なキャンプの活動の中で最も印象的なのが、「クルーとの夕食会」と「成田空港でのインタビュー」です。成田空港に近いホテルですので、たくさんの外国の方が宿泊しています。その中でも航空会社に務めるパイロットやキャビン・アテンダントの方が多いですので、チェックインしてくる方に子どもたちは勇気を出して声をかけ夕食に招待します。飛行機のことや外国のことについて、普段は知ることができない貴重な話が聞けて、子どもたちも大喜びです。また成田空港で出国前の外国の方へのインタビューも実施します。「日本ではどこに行きましたか?」、「日本食で一番好きなものは?」などの子どもたちの英語の質問に皆さん優しく答えてくれます。「日本の何が好きですか?」の質問に「人々」、「文化」、「街がきれい」、「食べ物」と答える人が多く、日本の良さを再認識するインタビューにもなります。

この3日間のキャンプを通して子どもたちは、英語の力を伸ばすだけでなく、外国の人と接する抵抗感はほとんどなくなるのではないかと思います。このキャンプでの勇気と経験を自信にキャンプ後も英語の学習に取り組み、いつか世界で活躍する人になってくれればと願っています。

新入生を迎える会

「僕の名前は〇〇です。得意なことは、将棋とサッカーです。……」

入学してまもなく児童会行事として行われるのが、「新入生を迎える会」です。今まで一番下の学年で甘えていた2年生も入学してきた子ども達を見て、



ちょっぴりお兄さん、お姉さんになった気持ちにさせてくれます。そして、もっとも大きな気持ちの変化を感じさせてくれるのが新1年生でしょう。

迎える会では、入場後すぐに2年生から手作りのペンダントが一人一人に手渡され、その後、自己紹介してもらいます。そんな時の子ども達は、講堂中に響き渡るような声で先に書いたように自分を思い思いにアピールします。もちろん恥ずかしそうにしているマイクで声を拾うのがやっとなという子もありますが、2年生を含めどの子もその子達の紹介をじっとして聞いてくれています。だからでしょう。話し終

えたときのほっとした顔は、ほほえましく自然に大きな拍手が起こるのです。

会は進み、今回のメインでもあるゲームが始まりました。ゲームの名は「名刺交換ゲーム」といいます。すべての子ども達が小さな色紙に思い思いに名前などを書きその子ならではの名刺を数枚作っておきます。もちろん新入生の子ども達もです。見てみるとどの名刺も個性にあふれ、ある子は似顔絵を描いたり、またクイズや迷路、中には数学の問題を書いている子もいます。その名刺を持ってお友達とじゃんけんをし、負けると相手に自分の名刺をあげるのです。

「みなさん、必ず1年生の人とじゃんけんをしてください!」と司会者である児童会役員の声で、多くの子が1年生のところにやってきます。それを嬉しそ

うに迎えじゃんけんをする姿は、やはりほほえましくもあります。

こうして会の終わりの頃には、ほとんどの1年生が、とてもリラックスした様子を見せ、「僕も小学生になったんだ」「明日もお兄ちゃん達と遊べるかな」「どんな勉強をするのかな、楽しみだなあ」などといった気持ちにさせてくれます。

同時に、2年生以上の子ども達も、こうした行事を通し、進級した自分を再確認しているようにも感じます。

なお、プログラムは以下の通りです。

1. 新入生入場

(1年生のクラスまで呼びに行った6年生と手をつないでの入場です)

2. 校長先生のお話

3. 新入生の自己紹介

(名前と共に好きな事、小学校でしてみたいことなどを自由に語ります)

4. お祝いの言葉

5. 学園歌の紹介

6. 名刺交換ゲーム

7. 2年生からのプレゼント

(手作りのペンダント)

8. 1年生からのお礼の言葉

9. 全員合唱「地球に乗ってどこまでも」

10. 新入生退場



卒業生を送る会

毎年、卒業式に先立ち全校児童出席のもと行われるのが「卒業生を送る会」です。

スポットライトを浴びながら入場してくる6年生の姿は、少し緊張しながら入場してくる児童もいれば、仲良くしていた下級生の姿を見つけうれしそうに手を振りながら入場してくる児童もいます。それぞれその子ならではの表情を浮かべ、この日を楽しみにしていたことが手に取るようにわかります。そして、会も進み終わりの時を迎えようとするときの姿は、うって変わり、考え深げに天井を見上げる児童の姿や、涙をこらえようとしても次々にあふれ出る涙をぬぐうこともできずにいる児童の姿がそこにあります。

それは、次のようなプログラムの中で、一人一人が自らと向き合い、この学園で過ごした日々を振り返ることができたあかしであり、友との別れを実感として感じたあかしだともいえます。

第一部

1. 卒業生の入場とペンダント贈呈
2. 校長先生のお話
3. 児童会代表の言葉
4. 6年間の歩み
(スライド上映と当時のエピソードの語り)

第二部

5. 下級生からの呼びかけと歌
6. 卒業生からの呼びかけ歌

第三部

7. 全員合唱
8. 終わりの言葉
9. 卒業生退場



ここに書かれている卒業生の退場の時には、個人あるいはグループが壇上に順々に上がり、思い思いのパフォーマンスをしながら退場していきます。手品を披露したり即席のダンスを披露する児童もいれば、下級生に最後のメッセージを大きな声で伝えたり感謝の言葉を大型の紙に書きそれを見せる児童もいます。それもまた聖徳ならではの姿といえるでしょう。



テスト関係

1. 基本的な考え方

テストの目的としては3つあります。1つめは子どもたちの学力を調べるとともに、授業内容を理解できているかどうかを確認する役割があります。理解に勘違いがあれば、それを正す必要がありますし、授業内容に興味を持てなくなっているのであれば、何らかのフォローが必要になります。授業での取り組みや理解に問題があるのであれば、早めに発見し、適切な対応をしていくことが重要になります。

2つめはテストを通して子どもたちに答えを導き出す力を養うことを目的にします。保護者から「授業に習っていない内容が、どうして出題されるのですか。」という質問をよく受けます。聖徳のテストは、児童が授業内容を理解できているかどうかを確認する基本的な内容も出題しますが、授業内容を理解した上で、テスト時間中に悩み、思考を重ね、解答を導き出すような応用問題、発展問題も重視しています。つまり、テストの答えは1つではなく、その子なりの解決法を見つけ出させます。テストにおいて初めて見る問題に対して取り組むことで、練習なしに力を発揮する本当の学力を磨いていきます。

3つめは、教師の授業改善の資料とすることです。クラス全体として授業の理解は十分だったか等を分析し、より効果的な授業を目指していきます。また、一人ひとりの子どもの実態や考え方を押さえ、それぞれの子にふさわしい方法を検討します。

2. 知能検査

知能の発達を知るためと知能訓練の効果を測定するために、1年間に1回、聖徳式知能検査を実施しています。その結果については、実施した学期末の面接の時、『知能評価書』でお知らせしています。

3. 定期テスト

年5回実施しています。1学期と2学期は中間テストと期末テスト、3学期は期末テストのみです。中間テストでは国語、数学、英語（3年生以上）、期末テストでは国語、数学、英語（3年生以上）、理科、地理、歴史を実施しています。

4. 学力テスト

本校の教育課程は文部科学省の『学習指導要領』に準拠していますが、児童の学力を客観的に見るために、年1回標準学力検査を実施しています。

5. 実力テスト

学年としての実態、中学校内部推薦の資料、長期休暇中の学習の目当てとして、年1回実施しています。

6. その他

通知書には、全学年、個人の得点とクラスの平均点、評定などが記入されています。



公開研究発表会 ●●

1. 趣 旨

(1) 英才教育の啓蒙

昭和44年に“英才教育”をスローガンに、教育内容と方法において新しい教育システムを導入しました。言うまでもなく知能教育を基本にした英才教育はわが国ではまったく未開拓の分野であり、まずその主旨と実態を一般公開して理解してもらう必要がありました。そのために第1回目の公開研究発表会を昭和44年11月20日に実施し、以来これまで毎年継続して実施しています。

(2) 学校紹介

わが子の学校を選択する場合に、実際に自分の目で確かめ、本当に自分の子どもに適した学校かどうか判断し、選ぶことになります。ですから学校としては、教師も含めた教育内容、すなわち聖徳学園ではどんな教育方針でどういう教師がどんな教育をしているのかを紹介し、私どもの教育をできるだけ正しく理解してもらう必要があります。

(3) 教育活動及び研究活動の充実と向上を図る

「常に進みつつある者のみが、人を教える権利を持つ」という有名なことばがありますが、教師の研鑽の必要なことをこれほど的確に厳しく表現していることばは少ないと思います。しかしながら、分かっているもややもすると惰性に流れて、日々の実践がマンネリ化してしまう面が少なくありません。これは目標がないからです。目標がないところには、研修意欲もわかないし、進歩も向上もないのです。ですから、この研究発表会のもうひとつの目標に、研究活動の推進と研修意欲の高揚を図ることがあります。

2. 主題英才教育の追究

私どもの教育の特色は、知能教育を基本にした英才教育です。これは、

第一に英才児を育てる教育

第二に英才児に応じた教育

の二本の大きな柱から成っています。

したがって、「英才教育の追究」が私どもの主題となります。この主題は昭和49年10月に掲げられ、現在も引き続きこの主題のもと年度毎の研究テーマが設定されています。

3. 主な内容

内容は年毎に若干異なりますが、次のようなものによって構成されています。

- 公開保育・公開授業
- 授業についての懇談会
- 研究発表
- 講演
- 展示による公開（園児・児童作品、教材・教具など）

4. 平成30年度発表会要項は、次のとおりです。

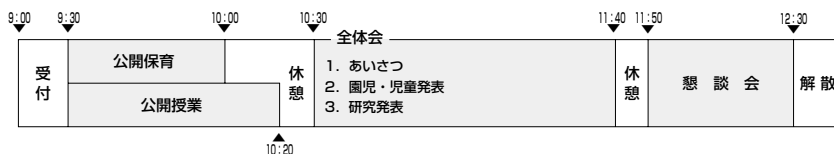
◇期 日：平成30年6月16日（土）

◇主 題：英才教室の追究

知能教育を目指した学習指導

考える力を育てる保育

◇時 程：



◇内 容：

(1) 公開保育及び公開授業

◇公開保育（幼稚園 9:15～10:00）

※ 4・5歳児は、興味・関心に応じた選択制になっています。

◇授業公開（小学校 9:20～10:20）

(2) 全体会（会場：講堂 10:30～11:40）

- * あいさつ 校長・園長：和田 知之
- * 園児発表 年 長 児 歌 唱
4 年 生 合 唱
- * 研究発表 「学校生活で知能を伸ばす」
歴史科主任：内 藤 茂

(3) 懇談会（会場：講堂・3階教室 11:50～12:40）

* 懇談会は、下記の四つの分科会に分かれて行います。

分科会名	主 題		主な出席教員
幼稚園教育	本日の保育・ 授業をもとに	創造的知能の開発と育成を目指した学習指導 考える力を育てる保育 (保育内容についてお知りになりたい方は、こちらの 懇談会にご出席ください。)	幼稚園担当者
小学校教育		創造的知能の開発と育成を目指した学習指導 知能開発を目指した学習指導 (教科教育についてお知りになりたい方は、こちらの 懇談会にご出席ください。)	大河内教頭 知能訓練担当者 小学校担当者
幼稚園の入園・ 入試に関する こと	幼稚園の概要および入園についてお知りになりたい方は こちらにご出席ください。		松浦教頭 幼稚園担当者
小学校の入学・ 入試に関する こと	聖徳学園小学校入学についてお知りになりたい方はこち らにご出席ください。		校長 幼稚園担当者 小学校担当者

過去5年間の歩み

□第45回(2013年)

主題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (XVIII)

個性と能力差に応じた複数指導 (XII)

○全体会

① 講演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長・園長 加賀光悦

② 未来をひらく戦士を育てるために

～一年生の学級経営を中心に～ 低学年主任 由里敏夫

□第46回(2014年)

主題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (XIX)

個性と能力差に応じた複数指導 (XIII)

○全体会

① 講演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長・園長 加賀光悦

② ～創造性をはぐくむロボット教育～

教頭 和田知之

□第47回(2015年)

主題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成 (IX)

個性と能力差に応じた複数指導 (XIV)

○全体会

① 講演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長・園長 和田知之

② 自分をするために ～聖徳の国語から～

国語科 川口涼子

□第48回(2016年)

主題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成(ⅡⅩⅠ)

個性と能力差に応じた複数指導(ⅩⅤ)

○全体会

① 講演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長・園長 和田 知之

② 聖徳学園における児童会活動

児童会担当・学年主任 板橋 裕之

□第49回(2017年)

主題：英才教育の追究

英才教育を目指した学習指導

考える力を育てる保育

○全体会

① 講演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長・園長 和田 知之

② 未来をひらく戦士を育てるために

—本校の自由研究にみられる児童の個性・創造性—

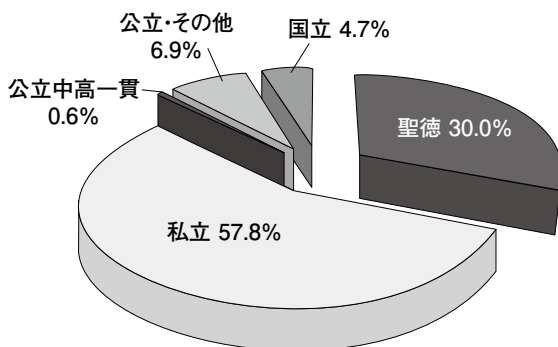
自由研究担当・数学科主任 米 持 勇

V 卒業生の進路状況

中学校への進路状況

中学校への進学指導・進路指導は原則保護者に任せています。自分の進路を決めていく上で将来を見通した考えを持つことで、主体的な学習を習得させています。聖徳を卒業するに当たり、六年間学んできたことで自分が行きたい学校に行くことができる学力をしっかりとつけさせるための授業を目指しています。

1. 進学先の分布



昭和49年から平成29年3月末現在の卒業生（総数2,142名）

上図の「私立」は聖徳学園中学校以外の私立中学校

2. 偏差値から見た卒業生の進学先

卒業生が中学校を選んで進学していく理由にはいろいろあります。校風や校舎などの施設、大学進学などの進学状況、クラブ活動やその他の活動などさまざまな理由から学校を選んでいきます。

平成 17 年度から平成 28 年度までの 12 年間の卒業生、偏差値別進学状況については次の通りです。

偏差値	主な進学先	人数	主な進学先	人数	主な進学先	人数
	共学校	343	男子校	296	女子校	140
48	聖徳学園中学校 (内部生)	147				
70 以上	慶応系列校 渋谷教育学園幕張 (千葉) 国立:筑波大学附属 栄東 (埼玉) 市川 (千葉) 渋谷教育学園渋谷 東邦大学付属東邦	47	国立筑波大附属駒場 開成 灘 麻布 駒場東邦 早稲田系列校 武蔵 栄光学園 聖光学院 立教新座 海城	190	桜蔭 女子学院 豊島岡女子 雙葉 浦和明の星 (埼玉) 白百合学園 鷗友学園	52
69 ～ 65	国立:学芸大学附属小金井 穎明館 法政大学中 江戸川学園取手 (茨城) 広尾学園 海陽学園海陽中等教育 (愛知) 関西創価 (大坂) 中央大学附属 明治大学附属明治 東京農業大学第一中等部	34	巣鴨 城北 学習院 桐朋 本郷 明治大学付属中野 東京都市大付 世田谷学園 攻玉社 城北埼玉 (埼玉) 高輪	77	吉祥女子 昇華学園 フェリス女学院 立教女子学院 光塩女子学院 学習院女子 大妻 頌栄女子学院 開智 東京女学館 カリタス女子 普連土学園	37
64 ～ 60	国学院久我山 桐光学園 開成学園大宮開成 (埼玉) 西武文理 (埼玉) 国立:学芸大学附属国際 日本大学第二	44	法政大学第二 (神奈川) 暁星 独協 東京大学教育学部 附属中等教育 ラサール中学 (鹿児島)	21	大妻中野 共立女子 山脇学園 実践女子学園 跡見学園 恵泉女学園	25

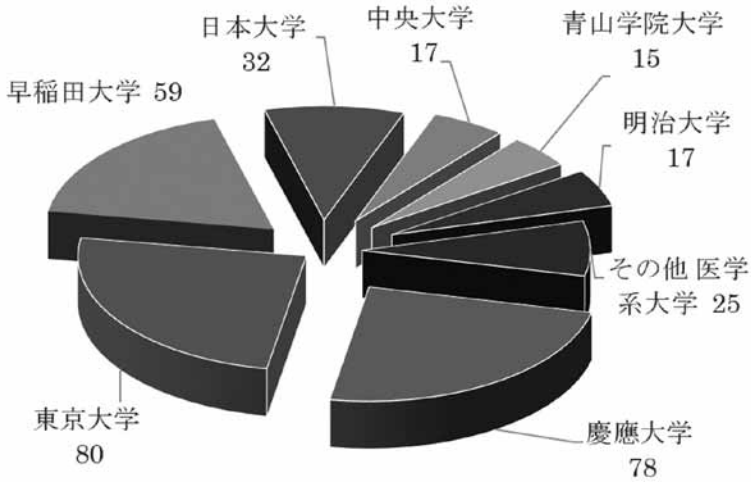
59 ～ 55	成蹊 東京電気大付属 宝仙理数インター 成城 多摩大学附属聖ヶ丘 沖縄尚学高等学校附属 八王子学園八王子 日本大学第一	44	郁文館	5	星野学園（埼玉） 不二聖心女子学院（静岡） 日本大学豊山女子 東京純心女子学園	5
54 ～ 50	明法 工学院大学附属 明治学院 淑徳 東海大学付属浦安（千葉） 佼成学園	12	城西川越 聖学院	2	女子美術大学付属 十文字学園 十文字 桐蔭学園中等教育 桐朋学園女子 文化学園大学杉並 和洋九段女子 麴町学園女子 淑徳 SC 中等部	21
49 以下	秀明（埼玉） 日本工業大学駒場 立正大学附属立正中学 目白研心 東邦音楽大学付属東邦 順天中学 開智日本橋学園	15	淑徳巣鴨	1		

中学偏差値ランキング 2018 『中学偏差値情報』 より

大学への進路状況 ●

聖徳では卒業生が進学や就職などが決まった節目によく遊びに来ます。

大学の進学については追跡調査をしておらず、全員を把握しているわけではありませんが、平成29年3月末現在で、卒業生が数多く進学している大学名を、わかっている範囲で載せています。



主な就職先

- ① 医学
医師（歯科医・獣医含む）多数、看護師、臨床検査技師、日本赤十字社、管理栄養士、薬剤師、カウンセリングマネージャー
- ② 法曹
検察官、裁判官、弁護士
- ③ 公務員
財務省、自治省、外務省、防衛省、兵庫労働局、日本学術振興会特別研究員、市役所、町役場、警視庁、特別公務員、東京都公務員
- ④ 教育
東北大学教授、日本大学芸術学部講師、東大法学部助手、東大医学部解剖学教室助手、高校教員、小学校教員、保育士、学校事務員、幼稚園経営
- ⑤ 金融
東京三菱 UFJ 銀行、三井住友銀行、大和銀行、安田信託銀行、住友海上火災保険、住友生命保険、太陽生命、日本生命、ソニー生命、AIU 保険 2 名、国際証券、大和証券 SMBC
- ⑥ マスコミ
日本経済新聞社、毎日新聞、NHK 教育、電通、博報堂、フリージャーナリスト
- ⑦ 出版
日之出出版、ぱど、美術関係出版社
- ⑧ 総合商社
三井物産、住友商事
- ⑨ その他の企業
NTT 系列、ソニー、京王帝都電鉄、日産自動車、日本電気、富士通、コクド、サッポロビール、朝日ビール、JR 東海、JR 東日本、リコー、ヤマハ発動機、清水建設、竹中工務店、東京電力、石川島播磨重工業、日本 IBM、トヨタ自動車、ディー・エヌ・エー、東京ガス、エンプラス、三菱重工業、興和、日本総研、東急リバブル、サントリー、資生堂 ……

⑩ 芸術

女優（文学座、すごろく）、オペラ歌手（二期会、所属不明）、ダンサー（在米）、宝塚歌劇団、バレエ団所属（在英）、インディペンデント・バレエ・ウェールズ

⑪ 自営業

不動産業、印刷所経営、ネジ会社経営、工業所経営、建築業、公認会計士、貸衣装業、宗教法人（日本寺）

⑫ 研究機関

宇宙航空研究開発機構（JAXA）、東京大学生産技術研究所

⑬ その他

大学院修士・博士課程在籍多数、司法修習生、司法試験等、資格試験挑戦中多数

VI 聖徳の思い出

矢部あずさ（1999年 聖徳学園小学校卒業）

2010年知能教育夏期セミナーにて講演

皆さま、おはようございます。今ご紹介にあずかりました、早稲田大学政治学研究科の矢部あずさです。どうぞよろしく願いいたします。

私は1986年（昭和61年）に日野市で生まれました。聖徳学園小学校に入学して、中学・高校もそのまま聖徳に進学しました。その後は早稲田大学国際教養学部に進学して、現在は早稲田大学大学院政治学研究科に在籍しています。



6年生当時の矢部さん

〈小学校時代〉

まずは小学校の話をさせていただきます。私は「はつかり・ゆうづる組」でした。部活は粕加屋先生が指導するバスケットボール部でした。4年生の時は6年生の素敵な先輩が多く賑やかな部活でした。5年生の時は人数が少なく、男女混合で試合に出ることもありました。その分仲は良かったです。6年生になると、4年生が多く入ってきてまた賑やかになりました。

◇授業の内容と教科担任制

聖徳の大きな特徴のひとつに、教科によって担任の先生が違うということがあります。たとえば数学。プリントを解き終えたら先生に採点してもらって、100点になったら次のプリントに進めるというシステムでした。1回で100点を取ると赤ペンで書いてもらえるのですが、2回目からだ青ペンでつけられるのが悔しかった。1回で100点をとってやろうと、またクラスメイトに負けないように早く解こうとしていて、今思うと鍛えられたなと思います。国語で

すと、素読読本という1冊の本がありまして、『論語』とか『太平記』とかそれを暗唱して、言えるようにするのも、国語の専門の先生がいるからこそできることだと思います。私の通っていた時は小4から英語の授業が始まりました。9人の小さなクラスで、ハエたたきを使って英語のカードを取るゲームをしたり、歌や絵本を使って楽しく学ぶことが出来ました。理科も実験器具がたくさんあって、それぞれの児童が実際に手を動かして実験ができるというのは、今思うとすごく恵まれていた環境だったのだと思います。歴史も、教科書に載っていないような深い話が色々と聞けて良かったと思っています。

また、1・2年生にはゲーム・工作という他の学校にはなかなかない科目があります。最近『科学技術立国』とか『ものづくり』といったことが言われますが、この時間で『ものづくり』の楽しさを覚えました。色々な道具を使ってコリントゲームを作ったのが印象的でした。なかなかこういうことも家ではできないし、ノコギリやカナヅチを使わせてくれない。人数が少ないクラスならではのかなと思います。オセロ、五目並べ、将棋、百人一首大会がありました。「ゲーム」の時間にクラスの予選があり、そこで勝ち抜いたクラスの代表が、お昼休みにトーナメント形式で大会を行います。そこで勝ち抜くと盾と賞状がもらえました。将棋の道を志した同級生もいますが、これもゲーム大会というきっかけがあったからこそだと思います。私も五目並べと将棋に熱中して、特に将棋は高校のときまでプロ棋士の先生の元で学びました。ゲームについての知識は、その後もさまざまな人と打ち解けられる話題や遊びとして役立っています。

◇図書館の充実

授業以外で聖徳の誇れることの1つに図書室の充実があります。専門の司書の先生がいらっしゃるので、「こういうことが知りたい」「何か面白い本はない?」といったアバウトな質問でも、いい本をたくさん勧められました。私も含めて卒業後に小学校に顔を出しては司書の先生とお薦めの本の情報交換をする人は少なくないと思います。また、子ども向けの本だけじゃなくて、大人向けの本、専門書もたくさん揃っています。最近映画化されたような「指輪物語」や「ゲド戦記」のような面白い物語もたくさん小学生のうちに読ませてもらって感謝しています。

◇遊びながら覚えたパソコンの操作

今はウィンドウズのパソコンが導入されていると思うのですが、私が低学年の頃にマッキントッシュ（Mac）が早速導入されました。昼休みや放課後に自分たちで「Hypercard」という本来はプレゼンテーションを作るソフトウェアを使い、ゲームを作って遊んでいました。こうして自然にパソコンの操作を学んでいくことができました。

◇予習して臨んだ修学旅行

小学校における最大の思い出は「修学旅行」です。私たちは長崎の出島へ行ったり、熊本の阿蘇山に行って馬に乗ったり、山口県の萩で鍾乳洞に行ったり、萩焼を作ったり、松下村塾の見学をしました。みんなで旅行に行くことも勿論楽しかった理由ですが、一ヶ月くらいでしょうか、授業の中でも修学旅行に向けて事前に予習をしていったことが印象に残っています。例えば、理科の授業では阿蘇山のような「カルデラ」のできる仕組みや鍾乳洞に関連する知識を学び、歴史の授業では出島や吉田松陰について勉強をしてから行きます。

◇資格の修得

小学生のうちには時間があったので、漢検や英検といった資格の勉強に取り組むことができました。私の場合は漢検2級、英検3級を小学校在籍時に修得しました。漢検はその後受けていないのですが、現在履歴書に書く際に他の資格に比べて修得年度が浮いてしまって、ちょっと変な感じがするのが悩みの種でもあります。同級生の中には数学を得意として、算数オリンピックに出場するような人もいました。それぞれが得意分野を活かした活躍をしていたと思います。

<中学・高校時代>

小学校時代の話はここまでで、ここから中学・高校時代の話をしていただきます。私は中学・高校でも引き続き女子バスケットボール部に入っていました。聖徳の女子バスケット部はそこまで厳しくなかったので、書道部と将棋部にも入っていました。

中学校時代のことはあまり覚えていないのですが、小学校に比べて勉強がとにかく楽だったということが印象的でした。100点を取ることに執念を燃やしていました。小学校から内部進学をする生徒は割と皆成績が良かったので、一問落とすと席次がぐっと下がりましたね。勉強が楽だった分、習い事や部活動に時間を割くことができました。習い事としては、聖徳には音楽教室もあるのですが、そこで小学校から継続してピアノを習っていました。（音楽教室は現在閉室しています。）また、近所で習字も習っていました。

◇ニュージーランド国際研修旅行

中学校での最大のイベントは、何と言ってもニュージーランドでの国際研修旅行です。今はニュージーランドだけではなくオーストラリアという選択肢もあるようです。私のときは、最初の1週間はみんなでキャンプ場に泊まり、後半の2週間はホームステイをしました。私がホームステイしたのは、ニュープリマス（New Plymouth）という町です。そこでお父さん、お母さん、美人の三姉妹、犬や猫と一緒に過ごしました。毎日学校に通い、家では子供たちとトランプをしたり、折り紙を教えてあげたりして遊んでいました。ある日筆ペンで姉妹の名前を漢字で書いてあげたら、それを学校に持って行って自慢してきたと嬉しそうに話してくれました。小学校で英語を勉強していたおかげもあると思いますが、2週間のホームステイの間特に英語で困ることはなく、充実した時間を過ごすことができました。

◇大学受験

高校生になると、やはり大学受験を意識することになります。私は理系クラスにいましたが、国立大学を目指していたので、五教科七科目の勉強が必要でした。国語は小学校のときの「素読読本」で覚えた内容が非常に役に立ちました。「論語」などの問題を過去問で見て「素読読本に載っていたやつだ」と思うこともしばしばありました。おかげで、古文や漢文ではほとんど苦労しませんでした。

五教科七科目を勉強していると、いろんな組み合わせで受験をすることができたので、文系理系問わず様々な学部を受けました。理工学部、経営工学、法学部、情報コミュニケーション学部など……今思うと何がしたかったのかよく

わかりませんが、結局進学先には早稲田大学の「国際教養学部」を選びました。文系の学問も理系の学問も学べるということで、大学でも自分のやりたいことを迷いながら探せるかなと思ったからです。

〈大学時代〉

国際教養学部はほぼすべての授業を英語で行うことと、留学を行うことが特徴です。さすがにネイティブと比べると劣りますが、小学校のときからの英語教育のおかげもあって、授業についていけるくらいの英語力は身につけていました。大学のゼミは宇宙物理学の先生のゼミを選びました。理系への執念が捨てきれなかったもので……。両方学べるといっても、理系の科目は限られていたので、ゼミの他は文系の科目やプログラミングなどの科目を中心に勉強しました。デザインやバラバラの科目を履修していたのですが、ある意味それも聖徳生らしいのかなと思います。モンゴル語やアイヌ語、ロシア語などの語学も色々手を出しました。

ロシア語を学び始めた頃、まだ数を10まで数えるのがやっとの時期にウラジオストクへ1ヶ月留学しました。教科書には「もっと安くしてください」のような表現は載っていなかったので、必要な言葉はほとんど現地で覚えました。驚いたことに、寮で相部屋だったのはなんと聖徳中高出身の先輩でした。面識はなかったのですが、妙に話題が合う。同じ学校出身と知ったのは留学が始まってから1週間経った後でした。その先輩とは交流が続き、先輩がモスクワに留学している時に遊びに行ったりもしました。

国際教養学部では留学が義務付けられており、私はウズベキスタンに行きたかったのですが家族の猛反対に合い、フィンランドへの留学を決めました。しかし、授業を詰め込みすぎて体調を崩し、残念ながら留学を中止せざるを得ませんでした。留学が卒業要件になっているため、委員会にかけられ、留学の代替として論文の提出が要求されたりしました。フィンランドのヘルシンキ大学ではソフトウェアについての勉強をしたいと思っていたので、それに関連した論文を提出しました。ギリギリまで卒業判定が「不可」になっていたのですが、本当に卒業できるのか不安でした。

◇大学院への進学

大学院への進学は早々に決めていましたが、進学先としては政治学研究科の科学技術ジャーナリスト養成プログラム、国際情報通信科、環境エネルギー科の間で迷っていました。文系と理系、両方の知識が要求される分野に進みたいと考えていましたが、環境エネルギー科はキャンパスが遠く、国際情報通信科は研究室でお世話になりたいと思っていた先生を伺うと「来年度はいるかどうか分からない」とのことで、科学技術ジャーナリスト養成プログラムへの進学を決めました。このプログラムは北海道大学の「科学技術コミュニケーター養成ユニット」、東京大学の「科学技術インタープリター養成プログラム」と同様に、文部科学省の助成を受けて設置されました。5年間の期限付きのプログラムで、私たち4期生が最後の受講生となりました。今はジャーナリズムコースに統合されています。

◇「科学技術ジャーナリスト養成プログラム」

このコースで養成される学生は研究者と非専門家をつなぐことを期待されています。研究者の言葉をわかりやすく伝えるだけでなく、研究者に社会からの声を伝えることも求められます。

「科学技術ジャーナリスト養成プログラム」を通じて、ジャーナリストに必要な素養だと思ったことを2つお話します。まず、「人の言葉を鵜呑みにしないこと」。これは小学校の時にも「先生の話も鵜呑みにしないで、自分の力で考えること」を叩き込まれていたもので、あまり抵抗はなかったですね。もう1つは、「自分の足で情報を集めること」。インターネットで簡単に情報が集められるようになりましたが、そうして集められる情報にも偏りが生じている可能性があります。今こうして皆さんの前でお話をしていると、表情や声の抑揚も汲みとってもらえると思いますが、文字だけでは伝わらないこともたくさんあります。実際に人に会って、話を聞くということがいかに大切かということ学びました。こうしたことは、ジャーナリスト以外にも必要な事だと思います。

また、ジャーナリストには中立性や建設的批判精神が求められていると思います。科学技術ジャーナリストは「科学技術が大好き！」ということだけでは

ダメで、例えば原子力問題や遺伝子組み換え作物についてなど、賛否両論ある話題についても立場の違いを超えて話し合えることも必要だと思います。

◇「理科離れ」と聖徳学園小学校

このプログラムにおいて避けて通れない話題といえば「理科離れ」と「事業仕分け」でした。授業を離れての飲み会の場などでも、この2つについてはたくさん議論を重ねました。ちょうど聖徳でも「聖徳の理科教育について」をテーマとした公開研究発表会が行われていたので、参加させてもらいました。理科の専門の先生がいる聖徳の場合は、理科が好きな子はどんどんその知識を伸ばすことができる環境があります。とはいえ、私の同級生の中にも「理科が嫌い」という子はいます。でも、そういう子も動物が好きだったり、「はやぶさ」の話で一緒に盛り上がりたりもするので、「物理」などの科目が嫌いかもしれないけど、決して「科学が嫌い」という訳では必ずしも無いと思います。なので、個人的には「理科離れ」という言葉はあまり好きではないですね。

◇サイエンスライターとして

今後についてはまだ決まっていないのですが、現在駆け出しの「サイエンスライター」としても活動しています。さきほどご質問もいただいたのですが、「サイエンスライター」とは何かということについて説明させていただくと、主に研究者の方に話をうかがって記事を書くライターです。大学院の授業にも「科学コミュニケーション実習」という形でライティングの授業があり、研究者の方に取材を申し込んでお話を伺って記事を書き、先生の指導のもとで編集作業をして、大学院のブログで公開するというものがあります。この授業で学んだのちに、実際に早稲田大学高等研究所や東京大学地震研究所、日本化学会などの仕事をさせてもらいました。なかには「20世紀の西洋演劇について」などいわゆる“科学”とはぜんぜん違う内容のものもあるのですが、駆け出しのライターには仕事を選ぶことなどできませんから、苦勞して取材をしました。とはいえ、記事を読む人も専門家ではありませんから「先生、これはどういう意味ですか」と聞くことができる素人の視点も大切になります。このように幅広い分野の取材をすることが必要であり、またその分野について詳しい知

識が必要というわけではありません。どの先生も、こちらがその分野に興味を持っているということが伝われば、熱心にお話をしてくださります。ライターにとって大切な事は、何でも興味を持てるということだと思います。その意味では、私に非常に合っている仕事だと思っています。

◇宇宙分野との深い縁

ライター以外の仕事としては、学部の時に宇宙物理学のゼミで学んでいたことと、先輩がインターンをしていた縁があって、修士1年から三鷹にある国立天文台でアルバイトをしています。ここでは月2回天体観望会を行っており、学生スタッフとして天体の解説や、天文台内の案内をしています。聖徳からもバス一本で行くことができ、聖徳の児童・生徒にもちょくちょく遊びに来てもらっているようです。観望会の他にはインターネットからの質問への回答のお手伝いをしています。天体についても、文章を書くことについても大いに勉強をさせてもらっています。

国立天文台以外にもうひとつ縁の深い宇宙関連の機関として、宇宙航空研究開発機構（JAXA）にもインターンシップや取材でお世話になっています。また、今年（2010年）の2月には、5人の派遣学生の一人としてフランスのストラスブールにある国際宇宙大学で行われたシンポジウムへ行かせていただきました。さまざまな国から来た学生たちと知り合うことが出来、他の国でどんな取り組みが行われているのか、何が重視されているのかといったことを聞くことができるとても有意義な時間でした。

はじめは決して宇宙に詳しくはありませんが、こうした縁から「はやぶさ」についての取材記事を書かせていただけることになったり、何かと宇宙と関係した仕事をさせてもらえることは嬉しく思っています。

◇同級生の進路と近況について

最後に、私の同級生が今どういった道を進んでいるのかについてお話しします。私の学年の人数は卒業時で51名でした。途中で転校した人も含めて、多分8割くらいは今でも連絡をとることができるのではないかと思います。最近

は mixi や Facebook といった SNS や Twitter などが浸透しているので、お互いの近況を意識せずとも知ることができます。そのなかでも 5、6 人くらいとは今もよくご飯を一緒に食べたり、カラオケに行ったりします。

進路は本当にばらばらで、ボイストレーニングに励んでいる子もいるし、獣医学部に進んだ子、ゲーム会社に就職した子など……医学部に進んだ人も多いと思います。自分の好きなこと、夢を追っている子が目立ちます。

◇聖徳学園小学校出身者の特徴

最後に、私が思う聖徳生の特徴についてお話します。聖徳の出身者の特徴は「何でもできる人」が多いことだと思います。後から「やっぱり〇〇がやりたい」と思ったときに、そこからでも対応できる柔軟さが身につけていると思います。私も高校では生物を全く勉強していなかったのですが、小学校でも応用的な内容を扱っていたおかげもあって、そのおかげで大学に入って必要になったときに勉強が多少は楽になっていたと思っています。また、「好きなこと・やりたい事を貫くことができる人」が多いです。小学校でやりたい事を見つけられる環境もあるし、その後必要になる能力の基礎を身につけることができると思います。私は理系とか文系とかといった垣根を超えた分野を、もっと伝えていきたいし勉強したいと思っているので、好きなことをなんでもすることができた聖徳の環境は非常に合っていたと思っています。以上で私の話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

VII 学校生活

学校規定服装用品：

制服として男女とも下記のように決められています。常に制服を着用して登校してください。

制服は夏冬兼用ですが、夏期は上着を着用しなくてもよいことになっています。

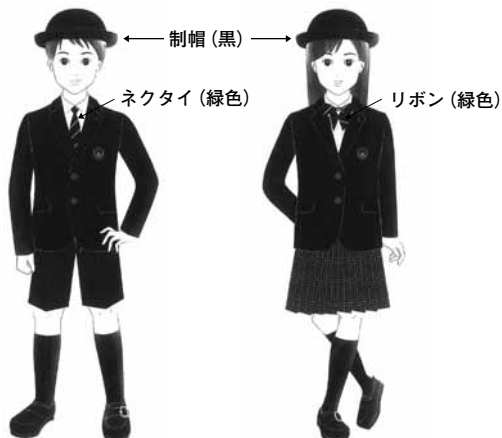
	冬 用	夏 用
制 服	上着・半ズボン（男） スカート（女）・白のYシャツ ネクタイ（男）・リボン（女） 制帽（黒）	半ズボン（男）・スカート（女） 半袖白ボタンダウンシャツ《ノー ネクタイ期間》 ネクタイ（男）・リボン（女） 制帽（白）
学 習 着	上着（長袖・水色） 半ズボン（紺）〈体操着と兼用〉 （寒いときは長ズボン（紺）も可）	上着（半袖・水色） 半ズボン（紺）〈体操着と兼用〉 （寒いときは長ズボン（紺）も可）
体 操 着	白色の半袖・半ズボン（紺）	白色の半袖 半ズボン（学習着と兼用）
カバ ン	入学時に指定のカバンを購入していただきます	
そ の 他	セーター・ベスト…長袖紺色で、指定のもの。 コート類・上履き…指定のもの。 靴（運動靴が好ましい） 靴下…白紺黒の無地	

☆上記規定服装の取扱店

三越…………… 制服・カバン・制帽（黒・白）・カバン

校内売店（ハシモト）…… Yシャツ・上履き・制帽（白）・学習着・体操着

〔服装（冬用）〕



※夏用は上着をぬいだスタイルです。帽子は白になります。夏用期間の一部に、ノーネクタイの時期を設定します。ノーネクタイ期間は、上着がボタンダウンシャツのみ（ネクタイ・リボンなし）となります。

日課時限表

登校時間	8：00～8：25
ホームルーム	8：30～8：40
1・2時限	8：45～10：25
3・4時限	10：35～12：15
昼食及び休憩	12：15～13：00
掃除	13：00～13：25
5・6時限	13：30～15：10
ホームルーム	15：15～15：30
最終下校時間	1～2年生 15：30 3年生以上 16：00

注1. 上記は標準時程で、曜日によって若干異なります。4月に配布される時間割でご確認ください。

2. 1年生は二学期から週一日6時限、2年生は週二日6時限・他は5時限で終了します。

3. 毎日、弁当持参になります。（給食センターの弁当が注文できます。）

年間行事予定表 ●●

(年度により若干異なりますので、年度始めに予定表を発行します。)

学期	月 日	行 事	学期	月 日	行 事
1 学 期	4月上旬	始業式	2 学 期	9月1日	始業式・防災訓練
	〃	入学式		上旬	自由研究展
	〃	新入生を迎える会		9月中旬	校外授業
	下旬	健康診断		下旬	授業参観
		授業参観及び懇談会		10月1日	都民の日(休校)
	5月上旬	避難訓練		上旬	運動会
	5月22日	創立記念日(休校)		下旬	中間テスト
	下旬	中間テスト		〃	避難訓練
	〃	校外授業		10月下旬	マラソン大会
	〃	修学旅行(6年生)		11月上旬	入学考査
	6月中旬	公開研究発表会		中旬	新入生一日入学
	7月上旬	期末テスト		下旬	聖徳祭
	中旬	クラス懇談会		12月上旬	期末テスト
	〃	評価、面接(保護者面接)		下旬	評価、面接(保護者面談)
下旬	終業式	〃	終業式		
〃 〃 〃	〃	林間学校(3・5・6年生)	3 学 期	1月7日	始業式
	〃	イングリッシュキャンプ(4年生)		上旬	百人一首大会
				2月上旬	授業参観及び懇談会
				中旬	スキー学校 (3年生～5年生)
				〃	新入生一日入学
				下旬	学力テスト
				3月上旬	期末テスト
		中旬	卒業生を送る会		
		〃	年度末懇談会		
		下旬	終業式・卒業式		

VIII 児童会活動

児童会

1. 児童会の主な活動とその目的

主な活動内容

- ① 学級活動（学級を単位とした日常活動）
- ② 委員会活動（奉仕的位置づけの活動）
- ③ クラブ（同好の児童による活動）
- ④ 児童会行事（児童会主催の行事）
 - 新入生を迎える会
 - スポーツ大会
 - 君も何でもチャンピオン
 - 卒業生を送る会
 - （林間学校・スキー学校におけるリクレーション活動）
- ⑤ ボランティア活動
 - ユニセフ募金
 - 清掃活動（生活委員会）
- ⑥ あいさつ運動
 - 生活重点目標の設定（代表委員会）と実行
- ⑦ 児童会役員選挙

学園としての目的

上記のような活動を通し、学校生活の充実と向上を目指すとともに豊かな人間関係を築いていく性格をもつ組織が児童会といえます。その究極の目的は、集団としても個人としても豊かな人格を形成することにあるといえます。その為には、その組織は確かな教師の指導の下、自治的・自発的活動が最大限に保障されなくてはなりません。とりわけ、個性豊かな児童がそろう本学園においては、個々人の豊かな発想を大切にしながら集団との利益を融合さ

せた活動を大切にしています。

2. 創意と活力ある児童会活動 [活動紹介]

(1) スポーツ大会

スポーツを通して上級生と下級生の交流を図る目的で毎年行われているのが「スポーツ大会」であり、大まかな内容は以下の通りです。

対象学年：4年生～6年生

競技種目：・バスケットボール ・サッカー ・野球
 ・王様ドッジボール

ルール：サッカー、野球は学年1チームによる総当たり戦
 バスケットボール、王様ドッジボールはクラス対抗による
 トーナメント戦

運営：児童会役員、体育委員会、放送委員会（審判は教員）

以上ですが、以前は「Sケン」という遊びも一つの競技として取り入れていました。そうした種目に関しては、基本的には役員会を中心とした話し合いを最大限に尊重し決定されていることもあり、ユニークな競技も取り入れられることになるといえます。

また、運営は上記の通り委員会、役員会が中心となり行います。体育委員会は各種目ごとに分かれ試合結果や得点などを記録し、それをもとに閉会式においては役員会手作りの賞状が手渡されるというわけです。

結果は、どうしても6年生が優勝する種目が多くなるのですが、それも下級生にとっては憧れの上級生になりたいといった貴重な経験となるものだと思っています。

(2) 君も何でもチャンピオン

児童会役員は、本校では立候補制による直接選挙によって選出されます。立候補した児童は思い思いの公約を掲げ、当選後、その実現のために活動することになります。その公約の一つが「君も何でもチャンピオン」でした。上級生と下級生の交流を図りたい、それぞれの個性を発揮する場を設けたい、そんな思いがこの行事に結実したのです。

昼の時間を使い講堂においてその場で発表できるものであれば自由に発表することができます。

「こまやけん玉を自由に操る児童」「ピアノやチェロなどの楽器を使い演奏する児童」、更には、漫才や物まねなどを披露する児童もいます。また、器楽部が発表の場として演奏したり、六年生が一年間のまとめとしてリズム縄跳びとダンスを結びつけた踊りを発表したこともあります。

その内容は年々活発になっており聖徳ならではの催しといえるでしょう。

(3) 児童主体のあいさつ運動

人と交わすあいさつは、社会生活を送る上での礼儀であり、人と人の心をつなげる大切や役割をもつものでもあります。当たり前のことに思えますが、子ども自身の内面に働きかけその変革に期待する意味があります。児童会役員が、学園における「あいさつ」の現状を話し合い、それを学級委員で構成された代表委員会で提起し、全校一斉にこの問題に関して話し合いました。そして、実際の行動として児童が考え出したのが「4年生以上のクラスが、月初めの三日間交代制で朝のあいさつを昇降口で行うこと」「あいさつ運動に替わる名称を全校で考え、ポスターも募集し応募作品の中から正式ポスターを決定すること」などでした。

この取り組みは自然に広がりを見せ、スキー学校では朝食・夕食時に



児童会役員と共に自主的に何人も児童が食堂入り口に立ち元気にあいさつしていました。六年生の卒業論文でも、このあいさつの問題をテーマに、自分が変わり学校も変わってきたと述べていました。この取り組みがどう発展していくのかそれは児童

のこれからの成長にもよることでしょう。

(4) ボランティア活動

主に年末のユニセフ募金に取り組んでいますが、数年前に起こった未曾有の大震災などその時々の国内外の災害に対し、児童からの積極的な提起に応え募金活動に取り組んでいます。

(5) 児童会役員選挙

毎年1月に4年生以上の児童による児童会役員選挙を実施し各役員を決定しています。

現在のところ（2015年度）以下の役員を選出しています。

会 長	：5年生	副 会 長	：4・5年生より各1名
議 長	：5年生	副 議 長	：4年生
書 記	：4・5年生より各1名		
執行委員	：4・5年生から各2名		

以上11名で構成

聖徳学年では、児童会の基本的な性格を以下のようにおさえています。

- ① 児童の自発的・主体的活動である
- ② 児童集団による実践活動である
- ③ 学校における児童の生活に関する問題解決の活動である
- ④ 学校生活をより楽しく豊かにする活動である
- ⑤ 主として高学年児童によって運営される活動である



その中心的な役割を担うのが児童会役員です。だからこそ、「全校的視野に立って活動する児童」「理想と目標を追い求める児童」「見通しと組織力、行動力のある児童（その可能性のある児童）」といった資質が求められるのです。

大人のシミュレーションとして選挙を本格的に行えば、当選できなかった子ども達は少なからずショックを受けます。しかし、それが社会の仕組みであることを学び、それからの自分の学校生活を考えていくことも大切な学習であると考えています。

毎年、20名以上の児童が立候補し、思い思いのチラシやポスターを作り朝早くから校門前に立ち選挙活動をする姿はとても生き生きとしており、こうした児童に支えられて児童会活動が成り立っていることを感じさせます。一方、投票する側の児童は、演説会での内容なども加味しながら選挙管理委員会指導の下投票するのですが、そうした一つ一つの活動が、子ども達を成長させているようにも感じます。

3. クラブ・委員会活動（4年生以上が参加）

クラブ

- ・バスケットボール部
- ・野球部
- ・サッカー部
- ・バドミントン部
- ・工作部
- ・鉄道研究部
- ・パソコン部
- ・器楽部

委員会

- ・役員会
- ・飼育委員会
- ・図書委員会
- ・保健委員会
- ・園芸委員会
- ・生活委員会
- ・体育委員会
- ・気象観測委員会

4. 組織

児童会活動に関する内規

児童会役員選挙規則

1年生から6年生までの全児童で構成される児童会は、定められた内規と規則によって組織され、4年生以上の児童を中心に活動が展開されています。

幼稚園編

I 聖徳幼稚園の教育

❖ 教育目標

本園では、豊かな環境と豊かな教育内容を整えて、その中で子どもたちが自由に伸び伸びと活動する「自由あそび」と、専門的な「選択制のカリキュラムあそび」を通して、

- ① 一人ひとりの子どもの個性を育てる
- ② 知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる
- ③ 正しい心・優しい心・たくましい心を育てる

ことをねらって、日々の教育活動を行なっております。

❖ 教育の特色

(1) 知能教育

○ ねらい

- ① 知識や情報、技能を習得する力を育てる
- ② 習得した知識や情報、技能を新しい場面（生活や学習面等）に活用する能力を育てる
- ③ 洞察力や判断力を育てる

つまり知能教育は、知識や情報を習得する“器”を大きくし、自分の頭で考え、正しく判断して行動する能力を育てることがねらいです。

○ 内容と方法

① 自由あそび ～意欲と集中力の育成～

子どもは自分の好きなあそびには、とてもよく熱中することができます。そこで、子どもの興味・関心を生かして、自分で見つけたあそびを工夫して、発展させることができるような環境を整えます。また、その中で積極的な意欲と集中力を育てます。

② 知能あそび

ギルフォードの知能因子構造（22ページ参照）に基づき、小学校4年生まで1週間に1因子ずつ刺激します。

独自に開発したパズルやゲーム等の教材・教具を使い、楽しく遊びながら知能を伸ばすと共に、理解力・記憶力・創造的思考力・推理力・論理的思考力・判断力などを育て、知能の幅を広げます。

(2) 一人ひとりの個性に応じた指導

一人ひとりの個性に応じた指導を徹底するために、次のような指導システムを取り入れています。

① 少人数クラス編成

ホームルーム（生活集団）クラスは、年少児＝25名、年中・年長児＝30名で編成します。

② 複数担任制

子どもの個性や能力・発達段階というのは、一人ひとり異なります。ですから、30人の子どもがいたら30通りの指導法を必要とします。

そこでクラス担任は、

* 年少児 = 2 人担任制

* 年中・年長児 = 2 クラス 3 人担任制

にしております。

③ カリキュラム担任制

カリキュラムあそびの時間は、クラス担任の他にカリキュラムあそび専門の教師も指導にあたります。その趣旨は第一に、教師は園児と接する前に、あそびの教材研究を十分行なう必要があるからです。

第二は、教育は教師と園児の触れ合いを通して営まれるので、いろいろな教師との出会いが、子どもの成長にプラスになると考えるからです。

④ 選択制のカリキュラムあそび

本園では、「自由保育」を基本にしておりますが、幼児期には「知育」・「徳育」・「体育」は、ある程度バランスよく与えていく必要があります。そこで本園では、自由あそびの他に、

- * 知能あそび（全学年・必修）
- * 体育あそび（年少・必修 年中長・選択）
- * リトミックあそび（年少・必修 年中長・選択）
- * 造形あそび（年少・必修 年中長・選択）
- * 英語あそび（年中長・必修）
- * 理科あそび（年長・月1回程度）

6つのカリキュラムに基づいたあそびの時間を設定して、子どもたちが自分の興味・関心に応じて自由に選択して活動できるようにしております。自分で選択して、好きなあそびに取り組むのですから、個性の伸長と共に判断力の育成にも効果を発揮しています。

❖ 教育方法

「自由保育」を実施しております。

その趣旨は、第一に、幼稚園教育は幼児期の発達段階や特性を考えると、

- ① 環境を通して行う
- ② 子どもの主体的な活動である、自由な遊びを通して行うことが大切と考えるからです。

第二は、本園の教育目標である「個性重視」と「知能教育」を推進していくためには、とかく画一的な指導になりがちで一斉保育では限界があると考えます。子どもの個性や知能というのは、基礎基本は押さえた上で自由な時間と自由な遊びの中で、主体的に遊びを見つけ、それに集中して取り組んでいるときに最も促進されるのです。ですから、教育方法も教えることより育てることに重点を置いております。

❖ 課外教育活動

個性教育を充実させるために、課外教育活動として次の2つの教室を開設しております。

○ 英才教室

知能を伸ばし、創造性豊かな子どもを育てることを目標にして、専門的な知

能教育を行います。

○ 剣道教室

剣道を通して、健康な心と体を育成します。



延長ゲームあそび



延長読み聞かせ



体育あそび

Ⅱ 領域別の基本方針と内容

知能あそび

1. こんな能力を育てます!! (教育目標)

一言で“知能”と言っても、いろいろな能力（知能因子）があります。

その中で、聖徳幼稚園の知能あそびでは、パズルやゲームなどの独自に開発した教材・遊具を使用し、楽しく遊びながら知的好奇心を育み、次のような幅の広い思考力（考える力）を育てていきます。

- 理解力
- 記憶力
- 拡散思考力（創造力）
- 推理力や論理的思考力
- 総合的判断力



知能あそび

こうした多くの知能因子を刺激して、自ら考える力を育てると共に、知能の幅を広げ、学習能力の基盤となる知能を伸ばします。特に、創造的知能の開発と育成に力を入れています。

2. こういったところに、重点をおいています !! (学年別の指導重点目標)

《年少（3歳）児》

- 1 学期：形・色・ことばなどを使ったあそびを楽しむことにより、知能あそびへの興味を持たせる。
- 2 学期：切る・組み合わせる・つなぐなどの手先を使った活動を楽しみながら、意欲と集中力を育てる。
- 3 学期：形・数・ことばなどを使ったあそびを楽しみながら、自分で考えることの楽しさに気づかせる。

《年中（4歳）児》

- 1 学期：パズルやクイズなどのあそびを通して、友達と楽しみながら、ひらがなや数について興味をもたせるとともに、知的好奇心を育てる。
- 2 学期：友達とのゲームあそび（文字や数を使ったパズルやカルタ・クイズなど）を通して考える楽しさを知ると共に理解力を育てる。
- 3 学期：グループの友達と一緒に、ひらがなや数、形を使ったパズルやゲームを楽しみながら意欲と集中力を育てる。

《年長（5歳）児》

- 1 学期：文字や数、形などを使ったパズルやゲームを楽しみながら、理解力と挑戦意欲を育てる。
- 2 学期：文字や数を使ったいろいろなゲームや課題を楽しむことで、自分で考えることの喜びを知ると共に、推理力や比較判断力を育てる。
- 3 学期：文字や数を使ったゲームや課題に自分で工夫して取り組み、考えることの喜びを味わうとともに、拡散思考力を育てる。

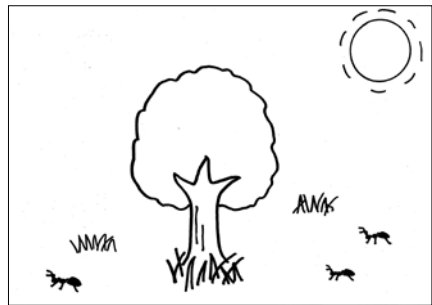
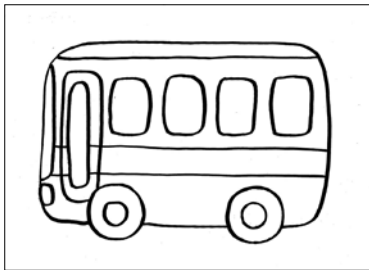
3. このような特長のある教材を使っています!!

知能あそびは、独自の教材・遊具を作成して行っています。そのため、より子どもの実態に応じた活動が可能となっています。また、実践記録など一つの教材を作成するためのノウハウが蓄積されているため、次年度の指導における対応が可能になり、さらにきめ細かい対応ができるよう、努めています。

☆年少（3歳）児が、『はじめての知能あそび』と称して、一番初めてに出会う教材です。拡散思考力を高めると共に、手先の巧緻性も含めて、下の絵にシール貼りをする課題です。シールの貼り方にルールはありません。

- 枠からはみ出して自由にシールを貼る子
- バスの窓にお客さんが乗っているように、また、アリさんが美味しいものを運んでいるようにイメージして貼る子
- 色を分類しながらきれいに貼っていく子
- ぬり絵のように隙間なく、びっちり貼る子
- 一か所にシールを重ねて貼る子（「重たいお荷物を運んでいるの!」と自分なりの考えをきちんと持って。）

こちらが指示しなくとも自然と、3歳児なりの工夫や独創性といった力を発揮できるのが特長です。



☆年中（4歳）児の課題の一つで、『概念で単位を拡散思考する』知能因子です。この課題は、ある条件に対しての答え（考え）を、いろいろと思い付いていくものです。自分の意見を発表することは、時には勇気が必要なこともあります。それでも、お友達と刺激をしあいながら4歳児なりにしっかりと思考を深めていくことが出来、子どもならではのユニークな発想が見られるおもしろい内容の一つです。

問題例1・「とがっているものは、なあに？」

解答例・ 髪の毛 ハリネズミ うに ライオンのたてがみ
 つらら たけのこ ばら スピノサウルスの背中

問題例2・「かわるものは、なあに？」

解答例・ カメレオン 古い家（リフォーム） 太陽
 歯（乳歯から永久歯） ママ（おばあちゃんになる）

問題例3・「たいせつなものは、なあに？」

解答例・ 命 お友達 ママ 空気 お金
 地球 嫌いなものを食べること 家族

※子どもの発想には、毎時間、感心と感動を覚えます。

☆年中（5歳）児の課題の一つで、『図形で体系を認知する』知能因子です。パズルを完成させていく内容です。扱う素材として“漢字”（年長児は熟語に挑戦）を使用していますが、これは読めなくても書けなくても関係ありません。なぜなら、漢字も一つの形として考えているからです。子どもたちは、それはそれは夢中になって取り組みます。そして、この課題をきっかけとして、漢字に興味を持ち始める子も少なくありません。こういった知的好奇心を育むことは、知能あそびのもう一つのねらいでもあります。

近 遊 進 通 遠

橋 歌 岩 谷 鳴

快	電	出	案
速	車	口	内

中	消	自	不
央	火	転	動
線	栓	車	産

4. こういった計画に基づいています。(年間指導計画)

《年少児》

No	知能因子	教材名	ねらい
1		はじめての知能あそび・シール貼り	知能あそびに親しむ
2	CMS	紙芝居	お話を理解する
3	DSU	同色のもの探し	指定された色のものを思いつく
4	EFU	同一形探し	同一の絵(形)を比較判断する
5	ESU	シールあそび1	同じ色並びを見比べながら作る
6	NMU	ものあてカルタ	ヒントを聞いて答えを推理する
7	CFS	乗り物パズル	見本と同じように完成する
8	NFS	ファイブ・セブンピースパズル	見本通りに形を組み立てる
9	CFU	何の絵かな	隠された形を推理する
10	CMR	仲良し合わせ	概念的に関係のあるものを考える
11	CSS	シールあそび2	色の並び方の決まりを見つける
12	CFC	仲間分け1	多くの形の中から共通点を発見する
13	CMC	仲間を集めよう!	概念的な仲間を考える
14	DSS	プレスレット作り	きれいな模様を思いつく
15	DMU	概念拡散カルタ1	条件に合うものを考える
16	CSU	同数の判断	同数を判断する
17	DFC	落ち葉・木の実あそび	形の特徴を捉えて分ける
18	CFI	迷路1	図形的に見通しを立てて考える
19	CSR	数の関係	左右の数をつり合わせる
20	DFU	切り紙	いろいろな形(切り紙)を作る
21	NSS	カラーパズル	見本と同じ色の組み合わせを作る
22	EFS	折り紙あそび	見本と見比べながら完成させる
23	EMS	不合理の判断	絵や文の中の不合理を判断する
24	CSU	数すごろく	サイコロの目数とマス目の対応

《年中児》

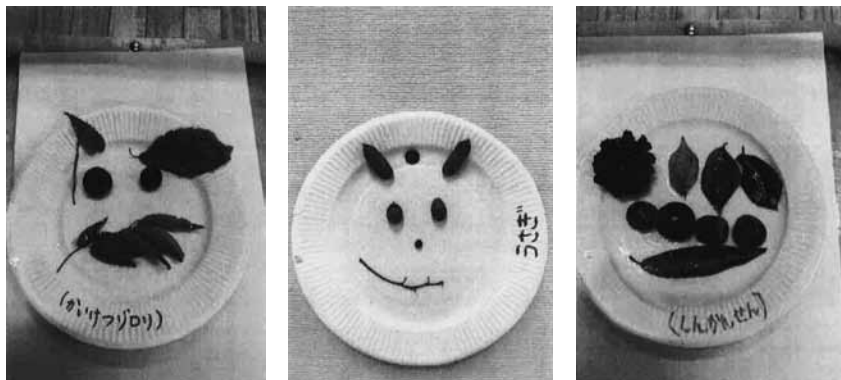
No	知能因子	教材名	ねらい
1	NMU	スリーヒントクイズ	3つの条件をもとに推理する
2	CSR	数の大きさくらべ	数の大小関係を判断する
3	ESU	同一文字さがし	文字配列から特定の文字の判別をする
4	EMC	<u>なかよし概念カルタ 2</u>	<u>同じ類の仲間を集める</u>
5	CSS	色や数の決まりの発見	ゲームを通して10までの順序数を理解する
6	CFI	迷路 2	図形的に見通しを立てて考える
7	CFU	かくされたひらがな	隠された文字を推理する
8	EFS	道つなぎパズル	途切れた線の比較判断をする
9	CSR	数すごろく 2	さいころの目数の対応と2数の和を考える
10	DFC	仲間分けの工夫	形の共通点に着目して色々な分け方を考える
11	DSS	数つなぎの思いつき	数の合成・分解を考える
12	DSU	<u>同じ字のつく言葉</u>	<u>同音のいろいろな言葉を思いつく</u>
13	NFS	セブンピースパズル 2	形の組み立てを考える
14	CFS	漢字・絵パズル	分割された漢字を完成する
15	DSR	たしざんゲーム	数の和とルールを理解をする
16	DMU	概念拡散カルタ 2	1～2つの条件を満たすものを思いつく
17	CSU	ことばさがし	文字配列から、ひとまとまりの文字の判別をする
18	NSR	<u>かずあてゲーム</u>	<u>隠された数を推理する（数の差）</u>
19	EFS	<u>模様作り 1</u>	<u>形の構成を把握してパズルを完成する</u>
20	EMS	話の不合理的	話の適合性を発見する
21	DFI	ひも通しあそび	手先の巧緻性・見通しを立ててひもを通す
22	DMI	もしこうなったら	仮説に基づいた思いつき
23	NSU	文字パズル	2条件を満たす文字を考え、語の完成をする
予備	DFS	<u>形づくりの工夫 1</u>	<u>自由な発想でイメージを広げながら具体的な形を作る</u>

《年長児》

No	知能因子	教材名	ねらい
1	NMU	スリーヒントクイズ	3つの条件をもとに推理する
2	CSR	数の大きさをくらべ	数の大小関係を判断する
3	ESU	同一文字さがし	文字配列から特定の文字の判別をする
4	DFS	形づくりの工夫2	自由な発想でイメージを広げながら具体的な形を作る
5	CSS	色や数の決まりの発見	ゲームを通して10までの順序数を理解する
6	CFI	迷路2	図形的に見通しを立てて考える
7	CFU	かくされたひらがな	隠された文字を推理する
8	EFS	道つなぎパズル	途切れた線の比較判断をする
9	CSR	数すごろく2	さいころの目数の対応と2数の和を考える
10	EFT	形あそび	分割された正方形の変形されたものを判断する
11	DFC	仲間分けの工夫	形の共通点に着目して色々な分け方を考える
12	DSS	数つなぎの思いつき	数の合成・分解を考える
13	CSI	見通し駒取りあそび	ゲームを通して数の和とかけひきを考える
14	NFS	セブンピースパズル2	形の組み立てを考える
15	CFS	漢字・絵パズル	分割された漢字を完成する
16	ESS	模様作り2	見本の色模様の構成を把握し完成する。手先の巧緻性
17	DSR	たしざんゲーム	数の和とルールの理解をする
18	DMU	概念拡散カルタ2	1～2つの条件を満たすものを思いつく
19	CSU	ことばさがし	文字配列から1まとまりの文字の判別をする
20	NSR	石とり	石を取り合うゲームを通して有利な方法を考える
21	CFT	穴あき折り紙	4つ折りの折り紙を切って出来る模様を推理する
22	EMS	話の不合理	話の適合性を発見する
23	DFI	ひも通しあそび	手先の巧緻性・見通しを立ててひもを通す
24	DMI	もしこうなったら	仮説に基づいた思いつき
25	NSU	文字パズル	2条件を満たす文字を考え、語の完成をする

※年中・年長教材は、同じ知能因子であっても、学年による難易度が付いています。また、アンダーラインが引いてある教材は、発達段階等を考慮し、その学年のみが使用する教材となっています。

※尚、本学園における知能教育についての詳しいことは21ページをお読みください。



『図形で分類を拡散思考する』（年少教材より）

体育あそび

1. 体育あそびについて

幼児期は、身体欲求の強い時期です。十分に体を動かすことで運動能力だけでなく骨格や生理的な機能も発達していきます。

そこで聖徳幼稚園では、子どもたちが選択するカリキュラムあそびの一つとして「体育あそび」を行ない、身体を動かすいろいろな遊びを楽しむ中で、もう一度やりたい、難しいことにも挑戦したいという気持ちを持てるようにしています。

2. 指導目標

《年少（3歳）児》

- 1学期：体を動かす楽しさを知る。遊具の使い方・遊び方を知る。
- 2学期：かけっこなどを楽しみながら運動感覚を養う。
集団でのルールを知り、みんなであそぶ楽しさを知る。
- 3学期：マラソンなどを通して、体力の向上を目指す。

《年中（4歳）児》

- 1学期：鬼あそびなどを通して、集団でのルールに気づき、みんなで楽しく遊べるようになる。
- 2学期：かけっこやゲームあそびなどを楽しみながら、体力の向上や運動感覚の鋭さを養う。
- 3学期：マラソンリレーなど、それぞれが目標を持ちながら楽しんで取り組む。

《年長（5歳）児》

- 1学期：指示を理解し、行動できるように考えるようにする。
- 2学期：リレーやチームあそびなどを通して、友だちと協力し合いながら活動できるようにいろいろ工夫する。
- 3学期：マラソンリレーや縄跳びあそびなどを通して、自分で考えたり工夫したりしながら、目標を達成する。

3. 年間指導計画

体育遊びの指導目標に準じて実践していきますが、常に状況判断し、最も適した遊びの提供を念頭に置き、柔軟性を持ちながら調整を行っています。

	年少 (3歳児)	年中 (4歳児)	年長 (5歳児)
1学期	整列・体操 遊具探検 鬼あそび かけっこ 水あそび など	整列・体操 鬼あそび 遊具探検 鉄棒あそび かけっこ 体力作り 水あそび など	整列・体操 色々な鬼あそび 鉄棒あそび 跳び箱あそび かけっこ リレー・ボール 水あそび など
2学期	運動会の練習		
	1学期と同じ マットあそび など	1学期と同じ マットあそび ボールあそび など	1学期と同じ マットあそび ドッジボール など
3学期	2学期と同じ マラソン マットあそび など	2学期と同じ なわとび ボールあそび マラソン など	2学期と同じ なわとび マラソン サッカー など

4. 指導の重点

(1) 年齢に応じた指導について

3歳児においては、身体を動かす楽しさを経験し、4歳児においては、集団のできる遊び、瞬発力・持久力・平衡性などの芽生えをねらった遊びを、また5歳児においては、その発展をねらった遊びを選び行っていきます。

(2) 個々に応じた指導について

幼児の個々の精神的発達・社会性の発達を含めた発育状況を見極め、個々の発達段階に応じた指導を行います。幼児を総合的に捕らえていきます。



体育あそび

造形あそび●

1. 造形あそびについて

聖徳幼稚園では、一人ひとりの個性を尊重し、豊かな感性、創造性を育てることに重点をおいて造形あそびを実施しています。カリキュラムでは、できるだけ様々な素材に子どもたちが触れることができるよう、内容や教材を吟味しています。また、子どもたち自身が技術の習得を含め、造形あそびでの経験を活かし、さらに自由な発想で、絵画や工作を楽しむことができるよう支援・指導をしています。

2. 指導目標

- 造形あそびを通して、豊かな感性、創造性を育てる。
- 複数指導制の利点を生かし、きめ細やかな指導により個々に応じた技術の習得を目指す。

《年少組》

- 造形あそびに親しみ、自分の好きなことを自由にかいたり、つくったりすることを楽しむ。
- いろいろな素材に触れて楽しむ。
- クレヨンや絵の具、のり、はさみなどの使い方を知る。

《年中組》

- 造形あそびに親しみ、自分の感じたこと、考えたことなどを自由にかいたり、つくったりすることを楽しむ。
- 自分の感じたことや考えたことなどを、いろいろな素材を使って表現しようとする。
- クレヨンや絵の具、はさみ、のり、セロハンテープなどの使い方がわかる。
- 友達とイメージを共有して、かいたりつくったりしたり、友達の表現に興味をもつ。

《年長組》

- 自分の感じたこと、考えたことなどを目標に持って、いろいろな素材を使って工夫し、表現しようとする。
- 生活の中で、あそびに必要なものを自分で、かいたり、つくったり、飾ったりする。
- さまざまな活動を通して、用具の使い方がわかる。
- 友達の活動や作品に関心を持ち、いいところを認め合ったり、共同制作を楽しむ。

3. 年間指導計画（2017 年度実施例）

1 学期

月	年少組（3歳児）	年中組（4歳児）	年長組（5歳児）
4月	クレヨンあそび こいのぼり制作 母の日制作	こいのぼり制作 ○△□を作ろう 土粘土	絵画（桜の木） 母の日制作
5月	ちぎりあそび （小鳥を作ろう） はさみあそび （ライオンを作ろう） 絵画（遠足の絵） 父の日制作	絵画（遠足の絵） 空き箱制作 ドーナッツ作り 母の日制作	ビー玉ゲーム 絵画（遠足の絵） シャボン玉の絵 父の日制作
6月	あじさい（染紙） 気球を作ろう （フィンガーペインティング）	父の日制作 牛乳パックで船作り 観察画（パイナップル） 花火（はじき絵） ジュース作り（3原色）	アルミホイルの恐竜 世界に一つだけの花 （紙粘土）
7月	風鈴作り 七夕制作	うちわ作り 七夕制作	うちわ作り（墨絵） 七夕制作

2 学期

月	年少組 (3 歳児)	年中組 (4 歳児)	年長組 (5 歳児)
9 月	野菜を作ろう (新聞紙) カメラ作り (空箱工作) カラフルふくろう	スクラッチ 小麦粉粘土	水族館作り (プラ板を使って) 絵画 (花火)
10 月	絵画 (運動会) ハロウィンキャンディ (紙粘土) みのむしを作ろう	絵画 (運動会) かぼちゃ作り (張り子) マカロンで顔を作ろう	絵画 (運動会の絵) 蜘蛛の巣作り
11 月	絵画 (遠足) クリスマスリース制作 絵画 (おもいほり)	絵画 (遠足) クリスマスツリー制作 雪だるま制作 (紙粘土)	クリスマス制作 (リース作り)
12 月	カレンダー制作 (タンポ) 絵画 (おゆうぎ会)	カレンダー制作 (スチレン版画) 絵画 (おゆうぎ会)	カレンダー制作 (紙版画) 絵画 (おゆうぎ会)



3 学期

月	年少組 (3 歳児)	年中組 (4 歳児)	年長組 (5 歳児)
1 月	コマ & 福笑い制作 釘打ちあそび オニの面作り 絵画 (おすもうさん)	工作 (鬼の面) 絵画 (お相撲さん) オニの面作り 凧作り 釘打ち	オニの面作り 等身大の絵①
2 月	素敵な手袋 (デカルコマニー) 工作 (ひな祭り制作) 卒園生プレゼント制作	工作 (ひな祭り制作) 釘打ちあそび デュビュッフエ 卒園生プレゼント制作	等身大の絵② 工作 (ひな祭り制作)
3 月	作品帳づくり	光る絵 (アルミホイル)	共同制作



リトミックあそび

1. リトミックとは

リトミックは、スイスの作曲家、音楽教育家であったエミール・ジャック・ダルクローズ（1865～1950）によって創案されたものです。またリトミック（rythmique／仏の語）の言葉は、運動に基礎づけられた芸術的な教育という意味を表し、語源的にはギリシャ語、またはラテン語の eurythmic（協和、調和）の語からきています。

2. 指導目標

我が園では、音楽を楽しむことを根底に活動を行っています。学期ごとの計画は次の通りです。

- [1 学期] 身体を動かすことによって、音楽の楽しさを味わう。
- [2 学期] 表現する喜びを知り、身近な楽器にも触れる。
- [3 学期] 総合的な活動を行う中で、音楽反応を高めていく。



リトミックあそび

3. 年間教育計画

	年少組	年中組	年長組
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろなうたや手あそびに親しむ。 ●音楽に合わせて、伸び伸びと身体を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろなうたをみんなで歌う楽しさを知る。 ●音楽に合わせて、手をたたいたり、伸び伸びと身体を動かしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●うたの雰囲気を感じながら友だちと楽しく歌う。 ●自分の考えや感じたことを動きで表現できるようになる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●リズムステップや模唱を知る。 ●合奏する喜びを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●模唱を通して、音には上行下行があることを知る。 ●リズムステップやリズム打ちを楽しむ。 ●友だちと一緒に合奏する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●音の方向を考えながら、正確な模唱をする。 ●自由表現を通して、友だちと共感し合う。 ●みんなで曲を創りあげる達成感を味わう。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽に合わせて、身体で表現する楽しさを知る。 ●自由表現を友だちと一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽に合わせて、様々な表現を楽しみながら反応力を伸ばしていく。 ●自分から積極的に表現活動に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろなあそびを通して、リズム表現を深める。 ●音楽に対する反応力を高めていく中で想像力を伸ばしたり、表現力を養っていく。

4. 実施方法

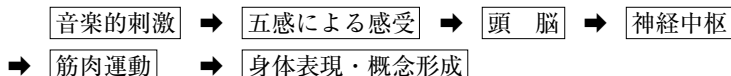
年少はリトミックあそびをクラスで一斉に行い、年中・長は、クラスで行う必修の日と、2つのあそびのうち自分の好きなあそびを選ぶ、選択の日の2パターンで活動を進めています。

◇活動の流れ

- ① 始めのうた～あいさつ
- ② 模唱『お返事はいい』
- ③ ウォーミングアップ（資料1参照）
- ④ メインとなる活動
- ⑤ 終わりのうた～あいさつ

リトミックあそびの主な内容は、ソルフエージュ（音感を身につける）、即時反応（音の聞き分け・リズムや拍子の聞き分けなど）、自由表現（イメージをふくらませて動く）です。

音楽によって、心と身体が融合し調和がとれるということが人間形成、個性を伸ばすことにつながるとリトミック教育では考えています。（下図参考）



（資料1）

ウォーミング・アップ

- ピアノの音楽に合わせて動く ♪……歩 く / ♪……ゆっくり歩く
♪……かけ足 / ♪……スキップ
- 次の合図があったら即座に反応する
 - ① 高い鍵盤—ジャンプしながら、頭の上で手をたたく
 - ② 低い鍵盤—床をドンとたたく
 - ③ 高低同時—片手を上に、もう一方の手は床をドンとたたく
 - ④ リズム “♪♪♪ |。>” —アクセントのところで手をたたく
 - ⑤ 呼びかけ “♪♪♪♪♪” —友だちを見つけて握手をする
ヨロシクネ
 - ⑥ トリルーステップの向きを変える

5. 基本的な活動内容

	年少組	年中組	年長組
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ●お返事ハイ ●手あそび ●模倣あそび ●ピアノに合わせて動く ●簡単な即時反応 	<ul style="list-style-type: none"> ●お返事ハイ ●音の高低 ●いろいろな速さ ●即時反応 ●いろいろなリズム ●音の強弱 ●リズム絵カードの識別 	<ul style="list-style-type: none"> ●お返事はい ●拍子・休符 ●自由表現 ●いろいろな感じ ●だんだん速く、だんだん遅く ●いろいろな即時反応 ●リズムカードの識別
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ●自由表現 ●音の高低 ●楽器の持ち方、打ち方 ●合奏 ●伝統的なうたあそび ●楽器あそび～合奏 	<ul style="list-style-type: none"> ●音階の上行、下行 ●自由表現 ●スキップ ●伝統的なうたあそび ●楽器あそび～合奏 	<ul style="list-style-type: none"> ●だんだん強く、だんだん弱く ●リズムパターン ●伝統的なうたあそび ●合奏
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ●ギャロップ ●伝承あそび ●自由表現 ●音の速い遅い 	<ul style="list-style-type: none"> ●アクセント ●基礎リズムの聞き分け ●イメージ画 ●自由表現 	<ul style="list-style-type: none"> ●ポリ（複）リズム ●カノン ●自由表現 ●イメージ画

英語あそび

1. 英語あそびについて

英語あそびは2016年度から、自由遊びの時間に年中組と年長組で行うようになりました。2017年度からは、正式にカリキュラムあそびとしてスタートしました。

これからのさらなる充実を目指してカリキュラムや教材の研究・制作に努めているところです。

私たちが言葉を習得するとき、まずは聞くことから始まります。そして、話す、読む、聞くという段階へと続いていきます。

ほとんどの子どもが初めて英語の音に触れることになる幼稚園では、たくさんの英語の音を耳にしてほしいので、原則としてクラスは英語のみで行っています。

基本的な言い方を繰り返し聞かせることで、自然に身体が動くよう心がけています。そして、簡単なゲームやアクティビティを楽しみながら理解を深め、まわりの友だちからも学ぶ姿勢を育てることを目指しています。

教材においては、細かな感情表現なども伝わりやすくするために、イラストレータに描いてもらっています。

2. 指導目標

- 挨拶や基本動作の指示は基本的に英語で行い、英語にすぐ反応して、身体を動かせるような態度を養う。
- 英語の歌や絵本に数多く触れながら、英語の音に慣れさせる。
- 絵本の読み聞かせで、集中して聞く姿勢を育てる。
- ゲームやアクティビティを中心に、楽しみながら興味をもたせる。
- テーマに即した独自の手作り教材を使用することで、内容に親しみをもたせる。

3. 年間指導計画

年中

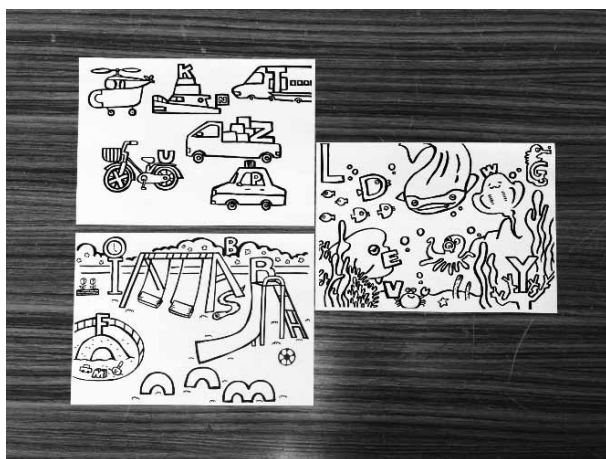
	テーマ	指導項目
1 学期	What am I?	<ul style="list-style-type: none"> • 挨拶や支持の英語に慣れる。 • 動物の名前、色、数、身体の部位に親しむ。
2 学期	I like apples. Halloween	<ul style="list-style-type: none"> • 食物の名前に親しむ。 • おいしい、まずいといった表現に慣れる。 • Halloween のキャラクターをビンゴで楽しむ。
3 学期	Excuse me !	<ul style="list-style-type: none"> • 短い会話文に慣れる。 • アルファベットの大文字に親しむ。



教材 (ビンゴ)

年長

	テーマ	指導項目
1 学期	I can do it !	<ul style="list-style-type: none"> 絵本 “From Head to Toe” を中心に、動物の名前、自分のできることの表現に慣れる。
2 学期	Four Seasons Let's make a face ! Halloween Christmas	<ul style="list-style-type: none"> 四つの季節の名前と気候の言い方を知る。 happy, sad, angry, funny の意味を知る。 Halloween と Christmas キャラクターをビンゴで楽しむ。
3 学期	This is me.	<ul style="list-style-type: none"> 朝から夜までの動作についての表現に親しむ。



教材（アルファベット探し）

理科あそび ●

1. 理科あそびについて

理科あそびは2017年度から年長さんを対象にして、学期に3回程度の割合で、クラス単位で行うようになりました。まずは、自ら自然に近づいていく気持ちにさせるために、興味関心がわくように話をしたり、実物を見せたりしていきます。次に、身近にあるものに触れる事へと始めていきます。年長さんという年齢においては、自然に対する嫌悪感はあまりなく、好んで植物や昆虫、動物に触れようとしています。理科あそびの中では、近づいたことで得られた実感を大切に、そこから次へとつなげていけるようにしていきたいと思いません。

2. 理科あそびの大切さ

子ども達がであう自然一つひとつから発見したことは、大人に成長していくときの知識や知恵のもとになります。また、直接触れることで感じて得たことは、そのもとを更に大きく育てていく力となります。幼い時から自然な形で自然にふれることの大切さを、身近なあそびを通して身に着けることができる時間としていきたいと思いません。

3. 指導目標及び内容

目標：興味関心を、五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）を通すことで、別なかたち（知識・経験・知恵）として身に着けさせます。さらに、次への探求心へとつながるようにします。

活動内容：○育ててみよう：植物（種から育てる・球根から育てる）
動物（見つけた虫を育てる〈ダンゴムシ・アゲハ等〉）

○観てみよう：いろいろな植物の葉っぱをよく観てみよう。
花をよく観てみよう。捕まえた虫のからだをよく観てみよう。

○試してみよう：

- ・砂場で遊ぼう（団子づくり・山づくり・トンネル堀・水を流すて川を作る・手触り）
- ・水に沈めよう（水槽内の水に、砂や石を落としてみる・かき混ぜる・静観）



Ⅲ 園生活の目標

学年別の生活目標：

(年少組)

《4月》

- ・新しい環境に慣れ、幼稚園生活の流れを知る。
- ・教師や友だちに親しみ、喜んで登園する。

《5月》

- ・自分の好きなあそびを教師や友だちと一緒に楽しく遊ぶ。
- ・幼稚園のいろいろな場所を知り、安心して生活する。

《6月》

- ・自分の好きなあそびを楽しむ。
- ・教師や友だちと簡単な会話を楽しみながら触れ合う。

《7月》

- ・暑い時期の過ごし方等を知り、簡単な身の回りのことを自分でする。
- ・水あそびを通して、水の感触や心地よさを味わう。

《9月》

- ・園生活のリズムを取り戻す。
- ・友だちとかかわりをもって楽しく遊ぶ。

《10月》

- ・友だちと一緒に身体を動かすことを楽しむ。
- ・秋の自然に触れながら親しむ。

《11月》

- ・衣服の着脱ができるようになる。
- ・友だちと歌を歌ったり踊ったりすることを楽しむ。

《12月》

- ・寒い時期の過ごし方を知る。

- ・教師や友だちと表現あそびや製作を楽しむ。

《1月》

- ・寒さに負けず、外で身体を動かして遊ぶ。
- ・友だちとのあそびを通して、かかわりを広げる。

《2月》

- ・身近な冬の自然に触れて遊ぶ。
- ・友だちの気持ちに気づけるようになる。

《3月》

- ・進級することへのきたいを持って、園生活を楽しむ。
- ・身の回りのことを自分でできるようになる。

(年中組)

《4月》

- ・入園や進級を喜び、新しい生活や環境に慣れる。
- ・教師や友だちに親しみを持って登園する。

《5月》

- ・自分の好きなあそびを見つけ、楽しむ。
- ・幼稚園での生活の仕方がわかり、できることは自分でする。

《6月》

- ・友だちとかかわりあいながら遊ぶ楽しさを味わう。
- ・雨の日のあそびを工夫して楽しむ。

《7月》

- ・友だちと一緒に水や砂の感触を味わいながらのあそびを楽しむ。
- ・あそびに応じた身支度や後始末の仕方を知り、自分で行う。

《9月》

- ・教師や友だちと一緒に遊びながら、幼稚園で遊ぶ楽しさや園生活のリズムを取り戻す。
- ・外で身体を動かしてあそぶ心地よさを味わう。

《10月》

- ・いろいろな運動に興味を持ち、友だちと一緒に身体を動かす楽しさを味わう。

- ・秋の自然に親しみ、興味を持って関わりながら遊ぶ。

《11月》

- ・あそびの中で感じたことや考えたことを友だちに伝えながら遊ぶ。
- ・友だちと、歌や合奏やオペレッタを積極的に楽しむ。
- ・自然の変化や季節の移り変わりに気づく。

《12月》

- ・いろいろな活動に進んで取り組み、思い思いの表現を楽しむ。
- ・友だちと一緒にあそびを楽しむことで、ルールの大切さを知る。

《1月》

- ・友だちと一緒に正月遊びを楽しむ。
- ・寒さに負けず、外で元気に遊ぶ。

《2月》

- ・冬の自然に触れたり、身体を動かしたりして十分にあそびを楽しむ。
- ・気の合う友だちとあそびを工夫していく。

《3月》

- ・年長組に進級することへの期待を持って、園生活を楽しむ。
- ・自分から進んでいろいろな活動に取り組み、最後までやり通す。

(年長組)

《4月》

- ・進級を喜び、最高学年の自覚を持って行動し、新しい生活や環境に慣れる。
- ・春の自然に触れ、外あそびを楽しむ。

《5月》

- ・当番活動を通して、奉仕の心を育てる。
- ・友だちと一緒に遊ぶ喜びを味わいながらかかわりを深める。

《6月》

- ・身近な自然や動植物に触れて、見たり遊んだりする楽しさを知る。
- ・自分の考えや思いを伝えたり、相手の考えを聞いたりしてあそびを進めていく楽しさを味わう。

《7月》

- 自分で考えたり、よく見たり、試したりしながら、友だちと協力して夏のあそびを十分に楽しむ。
- 宿泊行事に向けて、自分のことは自分でできるようになる。

《9月》

- 久しぶりの登園を喜び、あそびを通して友だちとのつながりをさらに深める。
- 外で十分に身体を動かして、意欲をもって取り組む。

《10月》

- いろいろな運動に意欲的に取り組み、友だちと力を合わせたり競い合ったりすることを楽しむ。
- 秋の自然に親しみ、工夫してあそびの中に取り入れて楽しむ。
- 自分の考えをはっきりと言ったり、相手の考えを聞き、自分たちであそびを進める楽しさを味わう。

《11月》

- 友だちとのつながりを深め、共通の目的に向かって協力して遊ぶ。
- 友だちと一緒に劇あそびやリズムあそびを楽しむ。

《12月》

- あそびの中で意見を出し合いながら、あそびを進めていく。
- 劇あそびをクラスのみみんなで協力して作り上げる喜びを味わう。

《1月》

- 寒さに負けず、外で友だちと、元気よくお正月あそびを楽しむ。
- 新しい年に期待し、目標を持って行動する。
- 友だちと一緒に遊び方を考え、ルールを守りながらあそびを広げていく。

《2月》

- 冬の自然に興味や関心を深め、よく見たり試したりする。
- 異年齢との交流を深めながら、思いやる心を持つ。
- 自分たちであそびを考えたり発展させたりして、ひとりひとりが十分に力を発揮してあそびを楽しむ。

《3月》

- 小学生になる期待を持ち、残り少ない園生活の中で楽しい思い出を作る。
- 修了の喜びを味わいながら、就学に向けての自信や自覚を持つ。

Ⅳ 園 行 事

入 園 式

園庭の桜が満開の四月、幼稚園生活がいよいよスタートします。お父さんお母さんから、離れて同年齢のお友だちと過ごす初めての集団生活です。自分のクラスに入り、担任の先生に「入園おめでとう」のお花をつけてもらうと、うれしそうな子どもたちや、少しドキドキしている子どもたち。そして、お父さんお母さんと講堂へ出発。「何が始まるのかな」と、どの子どもも好奇心の目で満ちあふれています。

式が始まり、ピアノに合わせて歌をうたったり、手あそびをして楽しみます。後方では、お父さんお母さん、おじいさん、おばあさんもお子さんの姿をうれしそうに見つめています。園長先生より、「みなさん、入園おめでとうございます。今日からみなさんは、聖徳幼稚園の子どもです。幼稚園には、大きなアスレチックや鉄棒、すべりだい、スクーターいろいろな遊ぶものがあります。たくさんのお友だちと元気一杯遊んで下さいね。」とお話があると「はい!」と元気な声でお返事しています。

つづいて、担任・カリキュラムあそびの担当教諭・養護教諭など幼稚園の教職員の紹介が行われます。最後に入園の記念として、園長先生より子どもたち一人ひとりに、ミニダリアの球根が手渡されます。最後にクラスごとに全員で集合写真を撮り、担任と一緒に並んで保育室に向かいます。こうして、楽しい園生活の第一歩が始まります。



卒園式

みんなで植えたチューリップの芽が出るこの頃。まるで遅しく成長した子どもたちのようです。お母さんから離れられなくて大泣きしていた入園当初はもうなつかしい思い出。年長組になると、自分ひとりでできることも多くなり、困っているおともだちを助けてくれる、お兄さんお姉さんに成長を遂げています。

大好きな歌や拍手で卒園生が入場。園長先生から一人ひとり名前を呼ばれ、壇上へ上がって修了証書をもらいます。「おめでとう」と声をかけられると、誇らしげに「ありがとうございます」と返事をする姿が印象的です。お休みなく通園できた子どもたちには皆勤賞も贈られます。

そして、年中組の子ども達から、年長児に向けてのことばや歌が送られます。それを受けて卒園生全員で、幼稚園での思い出、小学生になる決意、お世話になった先生方、両親への感謝の気持ちを「おわかれのことば」にこめて贈ります。こうして、多くの人達に祝福されて小学校生活への新たなステップを踏み出します。



卒園式

花まつり

花まつりは、お釈迦さまのお誕生日をお祝いするお祭りで、本来4月8日に行いますが、幼稚園では1か月遅れの5月に行います。

お釈迦さまは、母のマーヤ夫人が出産のためにお里のユ-リ城にお帰りになる途中、ルンビニ園という花園でお休みになった際お生まれになったと、お経に記されております。夫人がアソカの枝に右手を伸ばした時、にわか脇の下から王子が誕生され、梵天と帝釈天という二人の神がうやうやしく王子をかかげ、八大龍王は甘露の雨をそそいで王子の身体を洗い、あたりには音楽がひびき、蓮華の花が空から降り、王子は四方に七歩を進めて、右手で天を、左手で地を指さして、「天上天下唯我独尊（天上にも天下にもただ我独り尊し）」とたと伝えられています。

当日、園児たちは、園長先生からお釈迦さまのお話を聞き、花まつりの歌を歌い、誕生仏に甘茶をかけてお祝いをします。



はなまつり

成道会●

成道会は、お釈迦さまが菩提樹の木の下で「お悟りをひらいた日」をいいます。

一国の太子として生まれたお釈迦さまは、城を出て国を捨て、山に入って修業をします。苦行者たちが修業している苦行杯にバグガ仙人を訪ね、さらにアララ仙人やウッダ仙人というその頃有名だった人達の説教を聞きましたが、彼等の答には満足できませんでした。

そこで、解脱の道は自分の力で見出す以外にないと考えたのでした。はじめは、その頃のインドの多くの修行者が行っていたのと同じように苦行に励みました。飲食物を極度に減らして飢餓に耐える者、凍るような冷たい水に身体をつける者、身体を炎にあぶる者、その他、いずれも「苦あれば楽あり」と信じて、来世の楽しみを願うか、苦しみに耐えることが天に生まれる因となり、解脱のもとになると信じていたのです。お釈迦さまは、「苦が楽のたね」としても、その楽の果報がつかれば「楽は苦のたね」となろうと考え、人間には苦と楽の両辺をはなれた中道を求めることが大切だと気付かれ、苦行6年の末に山を下りて、正しい思惟に入られました。やせ衰えた姿で、髪の毛もひげも伸びたまま、山を下りてこられたお釈迦さまは近くのニレンゼン河の水で身を清められましたが、疲労が激しく、岸へ上がる力もなく、ようやく、垂れ下がった木の枝につかまって岸へよじ登り、身体を休めていると、そこへウルビンラの村長の娘ナンダバラがこれを見て、牛乳をさしあげました。

元気を回復されたお釈迦さまは、そこから少し離れた大きな菩提樹の下に座を占めて思結を続けられました。その間、魔王が成道を妨げようと、異形の鬼神猛獣などで攻め寄せましたが、ついにお釈迦さまを惑わせることはできませんでした。

12月8日、東の空に明星の輝ける時にお悟りをひらいて、仏陀になりました。お釈迦さま35歳の時でした。

幼稚園では、園長先生からお釈迦様のお話を聞き、先生達の成道会の劇をみて徳を偲びます。



遠足●

本園には“親子遠足”“収穫体験”“秋の遠足”があります。

親子遠足は、4月に入園・進級した子どもたちが、幼稚園生活になじんだ5月下旬頃に行います。親子でみんなと一緒にゲームをしたり、戸外でのあそびを楽しみ、お弁当を食べることで、交流を深めることをねらいとしています。ここ数年は、自然いっぱいの野川公園で行っています。

秋には収穫体験を行います。畑にでかけ、土の感触を楽しみながら、芋ほりをします。土の中から出てくる大きなお芋だけでなく、幼虫などの虫にも興味津々大喜びの子どもたちです。

10月の下旬には、井の頭動物公園に“秋の遠足”に行きます。様々な動物たちを見たり、ふれあったりすることを楽しみます。

どの遠足も、武蔵野の自然を満喫することができ、子どもたちにとって貴重な経験となります。

七夕まつり●

子どもたちに“七夕”の由来を教えるために、毎年7月7日には幼稚園ホールにおいて“七夕まつり”を行っています。

各学年で、折り紙などを使って、吹き流しや網飾りなどの笹飾りを作ります。

七夕飾りを飾るための笹を、各保育室の前やホールに用意すると、子どもたちから歓声が上がり七夕まつりへの期待がふくらみます。色とりどりの短冊に、子どもたちは思い思いの願い事を託して飾ります。

『ぬいぐるみが欲しい』『ミニカーが欲しい』と、サンタクロースへのお願いと混同している微笑ましいものもあれば、『お友達とケンかをしませんように』『サッカー選手になりたい』といった大きな夢もあり様々です。

当日は、全学年一斉にホールに集まります。園長先生より七夕にまつわるお話を聞き、『七夕さま』の歌を歌い、七夕の由来を楽しくわかりやすくした教員による劇が行われます。子どもたちは、その劇をとっても楽しみにしています。“七夕まつり”を通して七夕の由来を知った子どもたちは、真剣に「雨が降りませんように!」とお願いをしてくれています。

自然体験教室

年長組の7月に、お家の人から離れて、清里まで1泊2日で「自然体験教室」に行きます。

1日目。滝沢牧場で、乳しぼりを体験したり、アスレチックに挑戦したり、広場を走り回って遊びます。しぼりたての牛乳で作ったソフトクリームは、とてもおいしく子どもたちの楽しみのひとつです。宿泊先のキープ自然学校に到着すると、自分たちで荷物を整理した後、お風呂の準備。みんなで入る大きなお風呂は気持ちよさそうです。夕食の後は、キャンプファイヤー。星空のもと踊ったり歌ったり…楽しんだ後は、ゆっくり眠ります。

2日目。朝の散歩では放牧されている牛をみたり、草原では運がいいと野生の鹿にも会ったりできます。朝食後、レンジャーさんと一緒にやまねの森での散策。いろいろな虫・草花・葉など子どもたちの興味をひくものが森にはたくさんあります。

4月に年長になってから自然体験教室に向けて様々な準備をして当日を迎えます。近づくにつれて、楽しみな反面お家の人と離れて泊まることに不安もあるようです。出発の時、ちょっぴりどきどきしていた子どもたちも、戻ってきたときはひとまわり大きく成長している子どもたち。年長児ならではの行事です。



運動会

本園の運動会は、幼・小一貫教育の一環として幼稚園と小学校が合同で毎年秋に行っています。

学園の行事に参加する喜び、楽しみを感じるとともに、日頃の保育生活の経験を積み重ねた成果や体育あそびの成果を発表することを目標とし、各学年の発達段階に応じた競技や演技が行われます。

幼稚園の参加種目は、かけっこ・各学年の演技・親子競技や、幼稚園児全員による玉入れとなっています。そして、小学校との合同種目の大玉送りもあります。今年度年少児は「みんなDEサンバ☆」を自分で作ったマラカスをもち、元気におどりました。沢山のお客さんの前に立つ初めての経験です。年中児は勇気100%の曲に合わせて「パラバルーン」に挑戦しました。お友だちとの関りを楽しみながら、練習の成果を発揮することができました。年長児は「ソーラン節」。背中に、お家の方手作りの、名前の一文字が入ったはっぴを着て、一人ひとりの気持ちをひとつに、緊張感のある中、会場のお客さんに見守られながら見事に成功させることができました。

3歳から12歳までの子ども達の演技や競技。その中で、小学生の迫力ある演技や競技を大きな声で応援する幼稚園児。また、小さな園児たちの演技や競技を温かく応援してくれる小学生。幼・小合同の運動会ならではの、ほほえましい光景です。



おもちつき会

新しい年を迎える準備として12月におもちつき会を行います。

「ぺったんこ、ぺったんこ、おもちをつきましょぺったんこ。の一びておいしいおもちになーれ!」とみんなでかけ声をかけあいながらつきます。杵は重たいけれど来年も良い年になりますようにと願いを込めて行います。

でき上がったおもちはおうちの人たちに丸めてもらい、お雑煮や、きなこもちにていただきます。自分たちでついた、つきたてのおもちの味は格別なようで、おかわりの声がたくさんあがります。

家庭ではなかなかできなくなった日本の伝統行事を幼稚園で体験します。



おゆうぎ会●

日常の表現活動の成果を発表する場として、年に一度おゆうぎ会を行っています。また、子どもたちも幼稚園の一大イベントであるおゆうぎ会を大変楽しみにしています。この時期になると、各保育室から様々な音楽や、子どもたちの元気な声そして美しい楽器の音色が聞こえてきます。

発表の内容は大きく二つに分かれ、一つは合奏とうた、もう一つはおゆうぎ・オペレッタ・劇です。年少組がおゆうぎ、年中組がオペレッタ、年長組がクラス劇に取り組みます。それぞれ、子どもたちがいくつか用意された演目の中で、自分のやりたいものや役を選ぶのです。自分で演目を選択することによって、子どもの自発性や意欲を大切にしています。子どもたちは、友だちと一緒に楽しみながら練習に取り組みます。

おゆうぎ会当日、子どもたちは楽しい合奏や元気な歌声を会場に響かせたり、かわいい踊りや愉快的なオペレッタ・見ごたえのある劇を披露して、観ているお客さんに感動を与えてくれます。子どもたちもたくさんのお客さんの前で表現し、たくさんのお客さんからの拍手をもらうことで自信がつき、大きな充実感が得られるようです。

友だちと力を合わせて発表を成功させていくおゆうぎ会は、とても意義あるものです。こうした行事を通して子どもたちは一回りも二回りも大きく成長していきます。



園規定及び服装用品●

1. 保育時間

曜 日	保育時間
月・火・木・金	AM 8 : 45 ~ PM 2 : 00
水	AM 8 : 00 ~ PM 1 : 30

* AM 9 : 00 ~ AM 9 : 25 の間に登園してください。

2. 送迎について

本園では登園の際の送迎を保護者の方をお願いしております。
(園バスも利用できます。)

3. 服装について

園指定の服装にて通園してください。

* 制服・制帽の着用。靴下は無地（白・黒・紺色）をはかせてください。

* 園生活では、体操着に着替えて1日活動します。年少児は園生活に慣れるまで、体操着登園になります。

4. 給食とお弁当について

幼稚園での昼食は曜日によって給食と家庭のお弁当の併用です。

* 幼稚園からの給食は週4回で「火・水・木・金曜日」です。

* 家庭からのお弁当を持参していただくのは「月曜日」です。

* 幼稚園での給食は、聖徳学園食堂において炊飯調理したもので、ほどよい温かさで食べられるよう配慮しています。

* 給食の内容については、専属の栄養士が献立したものを『〇月分献立表』としてご家庭にお知らせします。



園生活の流れ：

AM 8:45 ~ 9:25	登園 自由あそび 朝の集まり
AM 10:40 ~	「カリキュラムあそび」の時間
PM 0:00	昼食
PM 0:45 ~ 13:20	「自由あそび」の時間
PM 13:20 ~ 14:00	帰りの集まり・降園
PM 14:00 ~ 17:30	延長保育 (パソコン・ゲームあそびなど申し込み制) 課外活動 (英才教室・剣道教室・ECC 英語教室・レゴスクール申込制)



年間行事予定表 (平成 30 年度) ●●

1 学期

<p>4 月 7 日 始業式 9 日 入園式</p>	<p>上旬 クラス懇談会 PTA 役員選出 身体測定 中旬 避難訓練</p>
<p>5 月 8 日 花まつり 22 日 創立記念日 (休園) 28 日 おすもうさんとの お楽しみ会</p>	<p>上旬 PTA 総会 中旬 親子遠足 (野川公園) 内科検診 視力検査 下旬 体験入園、園説明会①</p>
<p>6 月</p>	<p>中旬 公開研究発表会 (オープンスクール) 下旬 プールあそび 親子で集う会 (未就園児対象) 体験入園・園説明会②</p>
<p>7 月 6 日 七夕まつり 14 日 夏のお楽しみ会 18 日 終業式 19 日 自然体験教室 (年長児) ┆ 20 日</p>	<p>中旬 個人面談 下旬 夏期セミナー (希望者)</p>

2 学期

9 月 1 日 始業式	上旬 保育参観・園説明会① 内部推薦入学考査 中旬 PTA バザー 下旬 体験入園・園説明会③
10 月 1 日 都民の日（休園） 15 日 願書配布	上旬 運動会 下旬 園外保育（井の頭動物園） いもほり遠足 （年長・年中・年少）
11 月 1 日、2 日 入園考査 （園児休園） 12 日 成道会 14 日 新入園児招集日	中旬 学年懇談会・保育参観 下旬 卒園アルバム撮影
12 月 8 日 おゆうぎ会 19 日 もちつき会 25 日 終業式	下旬 個人面接

3 学期

1 月 7 日 始業式	中旬 避難訓練 下旬 おすもうさんとお楽しみ会
2 月 1 日 豆まき会 27 日 新入園児招集日	中旬 おみせやさんごっこ
3 月 1 日 ひなまつり会 13 日 卒園生を送る会 19 日 卒園式 22 日 終業式 修了を祝う会	上旬 PTA 総会 中旬 学年懇談会

預かり保育（早朝保育 夏期保育 延長保育）

幼稚園では就労者のご家庭で希望者を対象とした早朝保育、夏期保育（7月の終業式から土日を除く7月末までの期間）を行っています。また、放課後の活動として希望者対象で、延長保育を実施しています。早朝保育は、8時から9時まで行っています。年少児から年長児まで、自由あそびの中で、早朝保育担当者が用意したさまざまな教材のメニューの中から好きなあそびを見つけてあそびます。夏期保育ではプールあそびを楽しんだりスライムを作ったり、海をテーマにリトミックを行いました。学年やクラスを超えて、一緒にあそんだり、お弁当を食べたりします。夏期保育は幼稚園教諭が保育を行います。

延長保育では、延長保育担当の教諭が、見守る中で、園庭でアスレチックに登ったり、鬼ごっこをしたり、スクーターに乗ったり、お砂場で思いきり泥んこになって友だちとあそびます。異年齢の子ども達と一緒にあそぶ中で、年上の子どもは年下の子どもの面倒をみたり、また年下の子どもはお兄さんやお姉さんになりたいと憧れを持つようです。曜日によって、子ども自身が選べるゲームあそび（オセロ・カルタ・将棋など）やパソコンあそび（小学校ブレイルームでの指導）も行うことができます。



付 記

聖徳学園と英才教育

聖徳学園小学校初代校長 和田 玄 之

本校は、聖徳太子のみおしえを体し、文部省の学校教育法に準拠しながらも、私学としての自主性を活かし、独自の教育を行う趣旨の下に昭和26年4月に設けられ、今日に至っております。

御承知のように、聖徳太子の憲法十七条の中に、「それ聖賢を得ずんば何を以てか国を治めん」という一条があります。太子御自身が英才であられたことは勿論であります。太子は当時、日本の転換期に際して、日本の指導的役割を果たすべき英才を教育されようとなされたのであります。現在、世界各国とも能力開発の課題にとりくみ、英才教育に努力しておりますが、これはすでに太子の御意図でもあったと考えられます。

現在日本にも、英才教育の声が盛んになりましたが、英才のための特別教育は一般の公立学校においては困難であります。カリキュラムが一般化され、能力別編成が行われぬ以上、これは当然といえるでしょう。したがって英才のための特別教育は、どうしても私学が担当しなければなりません。これまでの私学には、相当優秀な子どもが集まり、独自の個性教育が施されてまいりましたが、知能を根幹とする英才教育に関しては必ずしも十分とはいえませんでした。

今般英才教育の主唱者であり、かつ過去3ヵ年、英才教育研究所を設けて英才教育の研究と実践に努力されてきた玉川大学教授伏見猛弥先生を、新たに本校の顧問にお願いして、その御指導の下に昭和44年度第一学年から、英才学級を設けて、これまでの本校教育の目標である個性啓発を、知能の面からも一層深く達成したいと念願しております。

『聖徳学園小学校入学案内』

昭和43年10月発行より転載

聖徳学園の建学の精神と教育の改革

前聖徳学園理事長
聖徳学園小学校二代校長 和田 知 雄

いまから 20 数年も前になるが、文部省の中央教育審議会がわが国第三の教育改革を目ざして大胆かつ抜本的な教育制度の見直しを含む教育の各分野の現状を検討し新しい時代、将来わが国社会の進歩発展を見通した教育のあり方と方向性を審議、いわゆる四六答申として発表した。この中教審の審議結果は幻の答申とされてしまっていてその斬新な内容は現在までほとんど生かされることはなかった。

私どもの聖徳学園の前身、関東中学が聖徳太子の教学の精神を建学の精神的な拠りどころとして誕生して 65 年を経過した。戦後学校制度の変革によって男子の中等学校から幼稚園・小学校・中学校・高等学校を併設する男女共学の学園に大きく姿を変えた。そして昭和 30 年代から 40 年代半ば頃、私どももまた当時の中教審の四六答申の論議と並行して新しい聖徳学園にふさわしい教育の内容・教育レベル・教育の方法を模索していた。そうして昭和 44 年に当時英才教育研究所長であり玉川大学教授をしておられた伏見猛弥先生の御指導のもとに聖徳学園小学校では新しいカリキュラムを編成して再出発をさせた。

聖徳学園の英才教育とは、知能教育を小学校教育課程に導入した全く新しい教育発想によるもので、今日から言えばそれは大胆な実験試行的なものだった。



伏見先生は数年にして亡くなられてしまい、私どもとしては自力だけで進めることを余儀なくされ、いろいろ紆余曲折し、一步一步ではなく全く半歩半歩の前進だったと思うが、最初の発想を大事にし、かつその発想をさらに膨らませることに努力して現在まで進めてきたが、すでに26年も経過してしまった。

教育の実践には多くの積み重ねと長い時間を要することを痛感せざるを得ない。それにしてもこの間多くの人達からの理解と援助を賜ったことによる結果が現在の小学校にあると思う。

さて、聖徳学園の建学の精神は聖徳太子の教学の精神である。聖徳太子と私どもとは1400年あまりも時代を異にしているが、その憲法17条にも示されている様に太子御自身の人格、人間としての御自身の生き方、そして国家社会の指導者としての自覚と業績、伝えられていることだけをみても聖徳太子こそわが国歴史上真の偉大なるエリートである。聖徳太子に対する私どもの人間像は宗教・芸術・哲学等の各側面での真・善・美を三位一体のごとくに体現された人物としての聖徳太子であり、この聖徳太子に対する私どものイメージは聖徳太子の深い人間観によって呼びおこされたものである。つまり聖徳太子の人間観が太子自身の人格を支え、そして自身の人間としての生き方をされたと思うのである。教育は理想をもって行われるべきである。聖徳学園の教育の理想像は人間としての理想像、聖徳太子である。1400年の年月を隔てている今日においてなお日本人の理想像は聖徳太子であると考ええる。

つぎに聖徳太子教学の精神を教育の拠りどころとして、本学園における教育改革をどう進めるかを述べたい。

聖徳学園は幼稚園から高校までの学園である。幼児教育、初等教育、中等教育の課程をもっている。年齢にしてみれば3歳から18歳までの期間であり、教育の最も重要な部分である。この間の教育の善し悪しはその教育を受けた者のその後の人生を左右する決定打にもなるであろう。聖徳学園における一貫教育、それは幼稚園課程から高等学校課程に至るまでであるから私ども教育を受け持つ側として誠に責任の大きい仕事、また勇気をもってあたらねばならぬ課題でもある。

先に小学校課程に英才教育として知能教育を導入したことに言及したが、幼稚園では自由保育を基調としている。幼児の自由な発想に基づく遊びを中心とする。押し付け教育を排し、子ども自身が遊びの中に喜びを見出せる様な教育

が大事である。子ども自身が自由で伸び伸び発想し・感性・感覚・感情を自ら育てる環境の教育である。小学校課程においても自主性を育てる教育を主眼としている。児童の活動が広く深く豊かに活発であることが大事である。幼稚園・小学校の課程では知能を伸ばすことを基礎基本の教育として重用視している。一貫教育として中学高校はその延長にある教育である。中学高校では学力（いわゆる学習能力）を授けることが大事である。学習内容の精選、学習レベル等教育の質が重要である。幼小課程での知能教育の成果で柔軟でかつ鋭敏な頭脳が育てば中高課程で質の高い学力を与えることで磨きをかけることになる。そして高等教育いわゆる大学教育への橋渡し、大学進学への指導が重視される。

聖徳学園の教育改革は現在進めている中学高校の改革が成功することによって成熟するものと考えている。

学校における英才教育

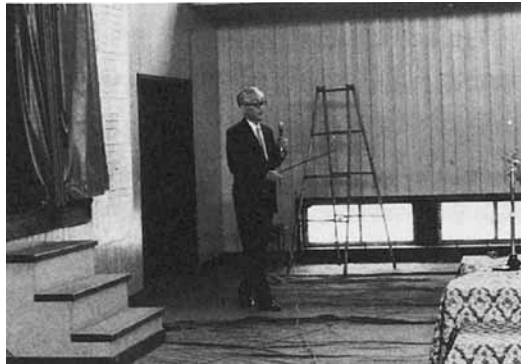
英才教育研究所長 伏見 猛 彌
 聖徳学園小学校顧問

1. 英才教育

わたくしどもは、昭和41年9月から、英才教育研究所を創設して、2歳から10歳までの高知能児を対象とした教育をしている。その内容に関しては、拙著「頭のよい子に育てるしかた」（英才教育研究所）、「英才教育のすすめ」（講談社）、研究所が最近発表した「2歳からはじめる英才教育」（実業乃日本社）、「幼稚園における知能教育」（科学書院）を参照していただくことにして、ここでは、主として小学校における英才教育に焦点をしばってお話したい。

わたくしどもの英才教室には、知能指数120以上の子どもをお預かりしているが、120～130の段階では、必ずしも英才とはいえないようである。アメリカなどでは、最近IQ137を普通児と英才児の境界線と考えているようであるが、わたくしどものこれまでの研究から見ても、IQ140以上でないと、英才児の特性は、はっきり現れないようである。

IQ140といえば、大体40人に1人の出現率となるから、一般の公立小学校においては平均してクラスに1人ということになるであろう。クラスに1人のこうした英才児のために、特別な教育を行なうということは、日本の現段階では不可能である。しかし考えて見れば、IQ140と対照して考えられるIQ60の子どもの場合はこれを精薄児として、特別学級を編成しているわけであるから、それと同じ理



由で、I Q 140 以上の子どもを、一般学級から区別することは、理論的には可能である。

理論的に可能である英才児に対する特別教育がなぜ行なわれないか。これにはいろいろ理由があると思う。少数の英才児を特別扱いにするのは、民主主義の原則に反すると考えていられる方もあろう。そうは考えないまでも英才児の正体が不明で、どんな指導をしていいか見当がつかないという方もいるかも知れない。いずれにしても、現行の日本の教育において、I Q 140 以上の英才児が、教育の将外に放置されているという事実には変わりがない。

2. 英才児の特質

英才児がどうして一般学校において疎外者となるか。それは、おそらく英才児が、普通児と単に量的なちがいがだけでなく、質的な相違があるためであろう。液体である水が0度以下になると個体になり、100度を越すと気体になるように、精薄児とか英才児というのは、普通児とは質的なちがいがあのではないかというのが、わたくしどもの仮説である。この仮説は、わたくしどものこれまでの経験によって、いろいろな面から実証されつつある。

I Q 140 以上の英才児は、まず具体より抽象を好む。普通児の場合は、抽象よりは具体的なものに興味を持ち、したがって学習も具体的なものから入るのが常道となっているが、英才児の場合は、必ずしもこの法則はあてはまらない。身近な、具体的なものより、抽象的、原理的なものに異常な関心を示すのである。一般の学校において、英才児が興味を喪失するのは、おそらく英才児のこうした傾向によるものであろう。

次に英才児は、意欲と集中力が旺盛である。与える課題さえ適切なものであれば、夢中にそれにとりくみ、一切他を忘れてそれに集中する。英才小学校の授業単位は90分であるが、1年生でも科目によっては短かいくらいである。1学期の数学の時間などでは終業のベルが鳴っても、「もっとやる！」といて先生を困らせた。そのかわり、課題の程度が低すぎると、すぐ飽きて騒ぎ出す。一般学校で、英才児の処置が困難なのは、これがためである。

さらに英才児の最大の特徴と考えられることは、教えられることを好まないということである。課題の意味さえわかれば、あとは自分の力でやろうとする。

そしてそれが時間内で完了しない場合でも、答えを教えられることを極端に嫌う。わたくしどもの英才教室では、これでしばしば失敗している。学校教育の習慣で、一つの時限の中では、どうしても結着をつけたいと思う。ところが英才児、とくにIQ 160以上の英才児は、「先生、教えてはいや！」と頑張っ、課題を未解決のまま家に持ち帰る。したがって英才児の場合、必要なことは、解決を教えることではなく、疑問を提起してやることである。このことも、普通の学校教育では、なかなか実施することはむずかしい。

3. 限界への挑戦

わたくしどもの英才教育では、子どもの能力の限界に対する挑戦が試みられる。普通の小学校教育であると、一定の教材があってそこへ子どもを持ってくるのであるが、わたくしどもの英才教育では、まず子どもがあって、その能力の限界を求めて、教材を構成していくやり方をとる。これはなかなか困難なことであるが、英才児の場合は、その能力のぎりぎりの課題を与えなければ、注意の集中が完全に行なわれないし、また、そうした限界への挑戦をやらなければ、英才児の知能は飛躍しない。

正直に言って、学習指導要領によって編集された教科書では、英才児の能力の限界に挑戦できない。理解させたり、覚えさせたりすることは必要ではあるが、そうした課題だけでは、英才児は本気になってとりくまない。どうしても、集中思考や拡散思考、評価などの領域に課題を持ち込むことが必要である。そしてその者には、教育内容を、その子どもの知能の限界すれすれのところで構成しなければならない。その点に英才教育の面白みと困難点がある。

今一つ、子どもの能力の限界に挑戦するためには、教師は課題をいくつかの段階に分けて用意しなければならない。最初クラス全員に共通な課題を出した。半数はすぐできた。それには一段高い課題を与える。そのグループの中、またすぐできたものがあるとすると、それにはまたその上の段階の課題を用意しなければならない。事実、僅か6名のクラスでも、少なくとも二段階、科目によっては三段階の課題をもって教室に臨まなければ、充実した授業はできない。

一斉にきまった教材を学習させるということは、わたくしどもから見れば、極めて安易なやり方である。早く理解したものはストップさせ、理解できない

ものは、努力して理解させる。普通の学校教育であれば、それも止むを得ないがそれでは個々の子どもをその能力の限界に追い込むことはできない。そして、個々の子どもをその能力の限界まで追い込まなければ、英才教育というものは不可能なのである。

〈昭和 44 年 11 月 20 日発行・『英才教育の道』より転載〉

お 誓 い 三 か 条

一、われわれは 未来をひらく戦士となり 新しい世界を 開拓します

一、われわれは 恥と涙をわきまえて 光明正大に 行動します

一、われわれは 祖国の伝統を重んじ 祖国と人類のためにつくします

お誓い三か条（解説）

元玉川大学教授 小 林 健 三

この「お誓い」は三条からなり、聖徳学園小学校がめざす教育信条を述べたもので、カリキュラム委員会の共同討議をへて昭和44年にできたものである。

第一条は、知能のあらゆる因子の開発をめざす英才教育は、それぞれの天分を十分に発揮させることによって、新しい宇宙時代のリーダーとなることを期したものである。

1957年のソ連の人工衛星スプートニク1号の打上げ成功は、それまでの教育システムを大幅に変えた。このため米・ソをはじめ世界各国は競ってすぐれた第1級科学者の養成に、全力を傾けることになった。旧いデモクラシー教育に対するプロテストである。

この趨勢に鑑るとき、わが国も新しい体制のもとに、独自の英才教育システムを急ぐことが必須の条件となった。本校の英才教育は、この新しい時代の要請にこたえようとして、「伏見プラン」に基づいて発足した。

われわれは、英才児が既成の学習方式にのみとられることなく、これまでに到着した学習の限界につねに挑戦し、宇宙時代にふさわしい新発見の創造力を養わねばならないと信ずる。本校が独自のカリキュラムに基づいて、すべての知能因子の開発をめざす学習活動をおこなっているのは、このためである。

それは進学のための予備校的方式でなく、確実な教育原理と実験によって、

英才児のもつ無限の能力を個性に応じて伸長させるのを目的とするから、かれらはそれぞれ「未来を開く」戦士と呼ばれる。

士には、欧州中世の騎士、近代のゼントルマン（紳士）、中国の士夫階級、日本の武士という意がこもっている。選ばれた品格の持主という意味で、古来文明の担い手であった。

第二条は、人間性の尊重すなわち人間としての倫理を言ったものである。

「恥と涙」という表現は、分かりやすくするため使った用語であるが、要は正義（理性）と良心に基づき、同胞愛の精神をもって、正々堂々と生活する態度を言ったものである。

東洋倫理ではこれを仁と義、あるいは敬・愛・信の三要素に、西欧諸国ではヒューマニズムの語をもって表現しているが、さすところは同一である。

いかなる英才といえども、人の道を外れて独走することはゆるされない。科学研究の場合、ややもすれば研究の成果が反社会的な目的に使われるのを見るのは遺憾である。核爆発の実験が大国間に行なわれていること、また科学技術の成果である公害の諸問題が発生・進展している状況などそれである。これらを制御するための理性を内心からよびおこさねばならない。もしその原子力の平和利用に至っては、戦争の惨禍をさけるための、人類の平和をもって強力に推進されねばならない当面の課題と言ってよい。

ここに「光明正大」という術語を使用したことについて一言する。

この術語はふつうは、「公明正大」とかくのであるが、ここでは吉田松陰の「士規七則」第四条の使用例から採択した。曰く、

士の行は質実にして誼かざるを以て要となし、巧詐過を文るを以て恥となす。

光明正大、みなこれより出ず。

第三条は、この教育の国際性を述べたもので、日本国憲法、国連憲章、人権に関する世界宣言が背景となっている。

国際性というのは自国と他国のバランスをさす。自国を立場として世界諸国との共存を計るところに、国際秩序が見られる。それは大国支配体制を意味するものではなく、東西あいよってそれぞれの長を生かすことである。なにびとも国籍を離れてコスモポリタンになることはできない。足は大地におろさなくてはならぬ。ノーベル賞は国際的であっても、その受賞者は必ず国籍をもつことを見てもわかる。

われわれは日本という国土に生まれ、日本文化の伝統をうけつつ、ひろく世界文明に寄与することを念願とする。いずれの国家も、自国のことのみに専念して、他国を無視することはゆるされない。自国と他国とは対等関係にあるからである。

この自他のバランスが、世界を恐怖と欠乏から免らしめ、平和のうちに生存する権利を共有させることになる。われわれは、ひらけゆく宇宙時代に、この崇高な軌道を敷いてゆきたいと思うのである。

〈『英才教育の道』昭和48年11月13日発行より転載〉



野田君が総理大臣賞(聖徳学園)

学生児童発明くふう展

「第65回全日本学生児童発明くふう展」と「第55回全日本教職員発明展」(毎日新聞社、発明協会主催)の入賞・入選作品が決まり、都内からは私立聖徳学園小(武蔵野市)2年の野田諒真君(7)の「透明将棋箱」が同くふう展の内閣総理大臣賞に、日本私学教育研究所(千代田区)の馬目秀夫さん(65)千葉県浦安市の「放物運動実験器」が同発明展の特許庁長官賞に選ばれた。作品は6日から11日まで中央区日本橋室町1の三越本店7階で展示される。



野田諒真君

「透明将棋箱」対局途中で収納

内閣総理大臣賞に決まった野田君の作品は「透明将棋箱」。対局途中で将棋盤にふたをしても駒がずれるこ

となく収納できるのが特長だ。

野田君は昨年、授業で将棋の指し方を学んで以来、自宅でも弟と指すようになった。しかし、家の手伝いなどで最後まで続けられないことも多く、「片付けをした後も対局の続きをした」と発明した。箱はアクリル製で縦34センチ、横38センチ。観音開きのふたの裏側には、盤の格子に

沿って縦には仕切り棒、横にはピンが付いており、ふたをして動かしても駒がずれるのを防ぐ仕組み。透明なので、ふたをしながら長考することもできる。

野田君は「次ももっと便利なものをつくりたい」と目を輝かせた。【奥山智三】



馬目秀夫さん

「放物運動実験器」感動与える授業を

特許庁長官賞に輝いた馬目さんの教材「放物運動実験器」は、二つの機能を持っている。そのうちのひとつの「放物運動すだれ」は、

短冊状に切った工作用紙を、まっすぐな棒に画びょうで留めたもの。先に行くほど用紙が長くなっており、可動式の棒を水平にすれば水平に物体を投げた時の、角度を付ければ斜めに物体を投げた時の放物線の様子が表現できる。

もう一つの「放物運動予測実験器」は、まず計算で物体が落下する時の軌道曲線をグラフ用紙に描き、次に金属球を用紙の前で落下させて、計算通りの軌道になるかを確かめる教材だ。

「知識だけではなく、感動を与えられる授業」をと、私立百合学園の中学、高校で36年間物理を教えた。受賞を機に作品が教育現場に広がってほしい」と笑顔で話した。【刈田伸宏】

「教職員展」は長官賞に馬目さん

毎日新聞 (平成19年3月5日) より転載

初めの1歩

■④■

「生きる力」を考える 第3部

新 教育の森

「生きる力」の基礎となる「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。

「生きる力」の基礎となる「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。

「生きる力」の基礎となる「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。

「生きる力」の基礎となる「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。

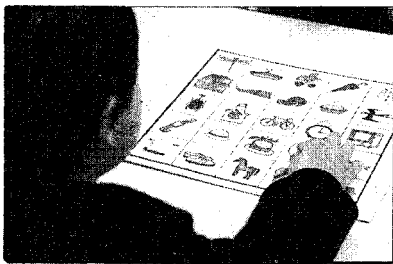
昔神童その後...

「生きる力」の基礎となる「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。

「生きる力」の基礎となる「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。

「生きる力」の基礎となる「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。

「生きる力」の基礎となる「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。これは、1000人単位で成された「学びの意」の育成を期す。



黙 考

反抗期を経ない例も

【記者会見】4月期、國語、算数、理科の公立小学校で、女子生徒の反抗期を経ない例も出てきた。...

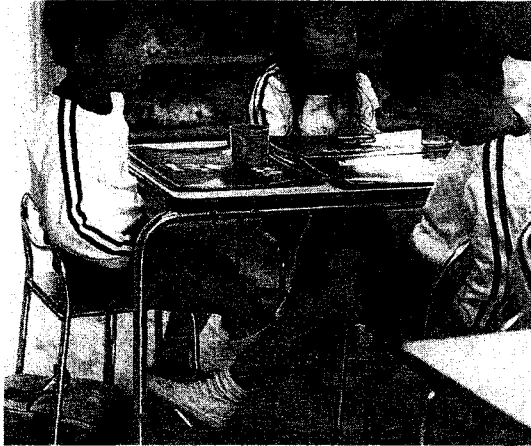
【記者会見】4月期、國語、算数、理科の公立小学校で、女子生徒の反抗期を経ない例も出てきた。...

知能教育のすすめ

子どもの可能性を育てる

● 34 ●

英才児の特徴



英才児は性格、行動、能力の各面で目に見える特徴があるようです
—東京都武蔵野市の聖徳幼稚園

知能教育の成果は、知能テストを実施し、知能指数(IQ)の変動状況で調べるのができます。IQが伸びれば、それだけ知能教育の成果が上がったことになるし、逆に低下すればそれは効果がなかったということになります。ところが、IQというのは数値で表すわけですから、量的な変化

特徴を考えてみることにしました。前にも書きましたように、知能の伸びが良い子、特にIQが四〇以上の英才児になると、いろんな面でかなり秀でた特徴が認められる場合が多いのです。私たちがこれまでの経験では、「性格・行動面」での英才児の特徴は次の通りです。

- ① 意欲がおう盛で好奇心が強い
 - ② 興味が多方面である
 - ③ 未知な内容(課題)や難しい課題に対する挑戦意欲がある
 - ④ 集中力があり、その持続性がある
 - ⑤ 目標に向かって努力しようとする粘り強さがある
 - ⑥ 自立心がある
 - ⑦ 時と場に応じた行動がとれる
 - ⑧ 失敗に落胆しないで、困難を克服しようとする
 - ⑨ 個性が強く豊かである
 - ⑩ エニアマがある
 - ⑪ イニシアチブをとる
 - ⑫ サービス精神がある
- それでは次に、「能力的な面」での特徴を見てみます。
- ① 学業成績(学力)が優れている
 - ② 創造性が豊かである
 - ③ 問題解決が速く、学習進度が速い
 - ④ 言語の使用が早く、語彙(ことば)が多くて正確である
 - ⑤ 表現力が豊かで、文章力や絵画、音楽、演劇などの能力がある
 - ⑥ 因果関係の理解が早く、推理力が強い
 - ⑦ 一般化する能力や抽象的思考に強い
 - ⑧ ひらめきや直感的思考に強い
 - ⑨ 問題の洞察力がある
 - ⑩ 批判力が強い

おう盛な意欲と好奇心

このように英才児には、幼稚園や学校での遊びや学習など、子どもたちの日々の生活状況を観察していると、さまざまな特徴が認められるのです。一方、知能の伸びが低い子の場合は、こうした英才児の特徴とは逆の傾向が多く見受けられますので、これは知能教育の成果と考えられています。

(園田達彦・聖徳学園小学校長、聖徳幼稚園園長)

知能教育のすすめ

子どもの可能性を育てる

●24●

折り紙は日本の代表的な遊びの一つです。子どもたちにも大変人気があります。準備に場所や時間を取られることもなく、しかも正方形の紙一枚からさまざまな形が作れるというように、知能遊びとしては大変有効なものといえるでしょう。

折る紙は、一般的には正方形の紙を使って行われますので、図形の能力を、遊びを通して養っていくこととなります。折り紙の図解を見て、その通りに折っていく過程で、図形的な考え方が自然と深

められていくのです。遊び方はいろいろありますが、三歳ぐらいの子どもであれば、最初にお母さんが折って見せながら、一緒に進めていくようにしたり、自分で折っていくうちに、自然と覚えてしまうものです。お母さんの折り方をよく見て、その通りに折っていくようにしたい、という理解し、その折り方を覚えてしまうのですから、図形での理解力や記憶力が養われるのです。

五〜六歳ぐらいになると、簡単なものであれば、折り方を示した図解を、自分で見て折っていくようになります。図解を見て、その通りに折るといのは、一見簡単そうですが、慣れない子どもにとってはかなり難しい作業になります。

なぜなら、それは理解力だけではなく、前後の関係から推理したり、比較判断しなければならぬ思考が必要とされるからです。つまり、図解を正確に読み取って、作業を的確に進めていくためには、推理力や比較判断力、転換力などかなり高度な知能の働きを必要とするのです。

さらに、この遊びの長所は、常に手先を動かしていくところにあります。手先の運動が、知能の発達と密接な関係にあることは明らかです。折り紙をきれいに完成させるためには、相当、器用な手先を動かしていかなければなりません。このような点から考えても、知能の発達にとって、大変有効な遊びになります。

折り紙

ねえ、やってみようよ。子供の能力を引き出す遊びは偉大だ
—東京都武蔵野市の聖徳幼稚園



「遊び」を通して図形の能力養う

（郡司英幸・聖徳学園小学校、聖徳幼稚園教頭）

「読めますか書けますか」の解答

- ①しんこう②さっそく③は
- っど④どうぶ⑤ほっす⑥はく
- る⑦おんど⑧あそび⑨あいで。
- は「女」。

知能教育のすすめ

子どもの可能性を育てる

●22●

◎いろはかるた

『大も歩けば棒にあたる』『論

よの証拠』『花よらだんご』など

です。現在では、かるたの読み札

とじより、「ごわざ」として使わ

れるようになっていきます。聖徳学

園では四年生の国語の授業を取り

上げ、札を取るだけでなく、内容

についても、考えさせています

が、低学年であれば、読んで取

るいわゆる、かるた取りで十分

です。

◎かるたを作る

前回の折り句の応用です。絵札

を示し、それに合う句を考えさせ

るようになります。既製の絵ではなく、子ど

も自分で絵を描くようにします。

例えば、「なます」の絵な

すこともあります。上級生のチ

ームが必ず勝つとは限りません。

ちなみに、今年の優勝チームは低

学年が増えれば、世界に一つしか
ないかるたができたことになりました。

◎百人一首

あそびの内容は説明の必要もな

いと思います。聖徳学園では毎年

一月に、百人一首大会を全校で実

施しています。本年は一対一で行

う源平戦を、時間・年齢を考え、

三対三で行っています。三年生以

下の低学年、四年生以上の高学年

の二部制です。

対戦相手を決めるのがくじ引き

です。他学年のチームと対戦

することもあります。上級生のチ

ームが必ず勝つとは限りません。

ちなみに、今年の優勝チームは低

集中力と記憶力がつく



遠回りに見える「遊び」の真価を見つめよう
＝東京都武蔵野市の聖徳学園小学校

学年が三年生、高学年が四年生で
百人一首の効果としては、①集

中して聞く力がつく②記憶力がつ

く③日本の古典を知り、日本語の

リズムに親しむ、などが挙げられ

ます。ただし、ものが挙げられ

にしても、何が学ばせたいと考

えずに、かるた取りであそぶと考

るべきです。というのは、人より

も早くたのびたいと考

えたい、良聞き、良く覚える努

力を養われるべきです。その過程で、

「能力を高める」「学力をつける

」といふ、直接にそれを刺激

するものが近道だと考えられてい

ますが、本当にそうでしょうか。

読者の皆さんの記憶をたどって

ください。学校の授業の内容より

も、幼いころ熱中したあそび、先

生の無駄話、そんなことをよく覚

えているはず。そのとき、一

番頭が活動し、心が動かされてい

たからです。

私は遠回りに見える「あそび」

の役割を見直して、二十一世

紀に生きる子どもを育てる確信

しています。

「こま」で紹介してきたあそび

は、聖徳学園で実践した教材の中

から、家庭でも取り組みやすい内

容を取り上げてみました。ちょっ

とした工夫で、子どもの知能の発

達に役立つあそびになるのです。

(草野修三、聖徳学園小学校教

務主任)

知能は幼児期に急速に発達する

「えっ？知能は伸びるんですか」「知能は遺伝でしよう」
 今考えると、信じられないような話ですが、私たちが知能教育を始めた三十年くらい前は、よくその

知能教育のすすめ

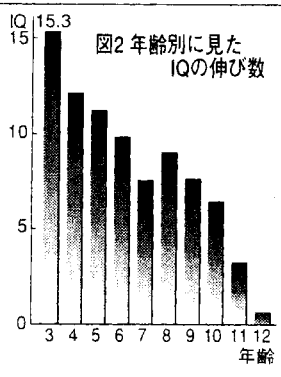
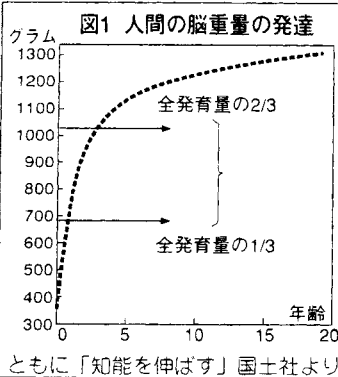
子どもの可能性を育てる

● 2 ●

のような質問を受けました。以前は、人間の知能は遺伝的要素が強く、教育の力では伸ばすことができない、と信じられていたのです。ところが、大脳生理学や

知能についての研究が進むにつれて、知能は遺伝的要素よりもむしろ、生後の環境や教育によって変化するものが明確になってきました。知能を伸ばすこと、すなわち頭を良くするということは、大脳生理学的には大脳細胞を発達させることとなります。「子どもの成長」といいますが、人間の機能は平均して発達するものではありません。

大脳発達にともなって早期実施を



ともに「知能を伸ばす」国士社より
 せん。大脳の発達には、身体の他の機能に比べて、きわめて早期に行われるのが大きな特徴です。大脳の発達状況を測定できるのは脳重量です。カール・ビュラという人の調査報告では、図1のように、人間の脳重量は、生まれたときから成人するまでに約九割が発達します。ここで注目したいのは、三歳くらいまでに、全発育量のおよそ三分の二以上も発達してしまっていることです。

脳重量の発達がいかに急速である、聖徳幼稚園長）
 り、早期に行われるかが分かってしょう。もちろん、脳重量の発達イコール知能の発達ではありません。しかし、大脳の発達が早期に行われるわけですから、それに対する刺激を早く与えたほうが良いということになります。ですから、知能教育はできるだけ早期に実施したほうが、より効果が高まるということになるのです。事実、これまでの私たちの実践結果でも、このことは明白です。私たちの学園では、幼児と小学生を対象にして知能教育を実施していますが、これまでの三十年余の実践結果は図2の通りです。これは、各年齢別の一年間の知能指数(IQ)の平均伸び数を集計したものです。三歳児の平均伸び数が一五・三で最も高く、四、五歳児も一〇以上の伸びを示し、知能が幼児期に一気に急速に発達するが、理解していただけるでしょう。その後は年齢が進むにつれて、伸び数は大幅に減り、十二歳くらいではほぼ定着するようです。もちろん、伸び数や伸びる時期に個人差があることは言うまでもありません。一年間に二〇以上の伸びを示す子もいれば、逆に低下してしまう場合もあります。また、幼児期よりも小学校へ入学後、急速な伸びを示す子もいますが、このように、多少個人差はありますが、一般的にみて知能教育は低年齢ほど効果があるのです。(園田達彦・聖徳学園小学校長)

知能教育のすすめ

子どもの可能性を育てる

● 1 ●

聖徳学園(東京都武蔵野市、昭和2年創立)は「聖徳太子の教学の精神」を礎にする学校法人で、幼稚園、小・中・高校をもつ。昭和44年から小学校で「英才教育」を、51年から幼児を対象にした「知能教育」を実践している。

二十一世紀を目前に控えた今日、「これからの教育」とか「創造的人材の育成のための教育」といった議論がにぎやかになってきました。

その背景には、情報化社会の進展や科学技術の著しい発展に伴う急激な社会の変化が、私たちが社会生活を営んでいくうえで必要とする能力にも変化をもたらしたことがあります。

つまり、子どもの教育を、これまで通りにやっていたのでは、これからの社会の変化には対応できなくなるのです。

わが国では、明治以来、「読書・書写・そろばん」という言葉が示すように、家庭でも学校においても、知識を理解させ、それを記憶させる、いわゆる「記憶力中心」の教育がなされてきました。むしろ、知識を理解したり、記憶する能力も大切でした。

ただ、知識や情報を記憶する能力は、コンピューターの方がはるかに優れています。人間に要求されるのは、習得した知識や情報を的確に処理したり、新しいものを生み出していく創造力です。

では、どうした能力が、どのようにして育つのでしょうか。私たちのこれまでの実践結果から、知

能教育が大変効果を発揮することにはいろいろな説がありますが、第一は、知識を習得する力(学習能力)、それだけ多くの知識や情報を無理なく習得できることです。

第二は、学習によって習得した知識や技能を新しい場面に活用する能力、すなわち応用能力なり変化に対応していく能力です。よく、「この子は安心してみていられる」と言いますが、時と場に応じた行動がとれる能力であり、これからの社会の変化に対応していく上では、重要な能力です。

“器”を拡大し

創造力を養う



子供たちの可能性は無限だ

東京都武蔵野市の聖徳幼稚園

第三は、洞察力や総合的判断力です。これからますます情報量が多くなっていく社会では、情報を的確に処理し、状況を正しく見抜き、判断していく能力はとて重要になってきます。

つまり、知能教育というのは、知識を習得する器を大きくし、自分の頭で考えて解決する力や新しいものを創造したり、正しく判断して行動できる人間を育てることなのです。

私たち聖徳学園では三十年前から知能教育を実践してきました。その結果、これからの社会では知能教育がますます重要になってくることを確信しました。

(園田達彦、聖徳学園小学校長、聖徳幼稚園長)

社会の変化でますます重要に

首都圏 中高受験・塾情報

あすから 新連載! 「知能教育のすすめ—子供の可能性育てる」

あすから始まる連載は、幼稚園児や小学生の知能教育に三十年近く取り組んでいる聖徳学園小学校・聖徳幼稚園(東京都武蔵野市)の園田達彦・校長長と二人の現役教師に交代で執筆していただきます。題名は「知能教育のすすめ—子供の可能性育てる」です。

記憶力中心の詰め込み的な教育ではなく、子供一人ひとりの個性を伸ばし、創造性豊かな知能を育成するにはどうすればいいのかなど、連載で具体的な事例を織り交ぜながら知能教育の考え方や基礎をのべていきます。

ただ、知能・幼児教育を考える場合に注意が必要なのは、目的や理念によって実にさまざまな形態があることです。さらに近年、いい学校といえども、(1)従来型の価値観が揺らぐ中で、個人の能力開発というニーズが高まり本末を、それが幼児教育を一層多様なものにしていきます。

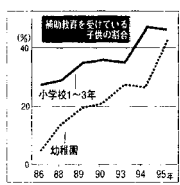
高まる幼児教育への関心

日刊『ゆめくら』は、昨年四月の創刊以来、中高受験や学校・塾情報をメインとした教育関連記事を描いてきました。この間、読者の方々から多くの意見やアドバイスをいただいた中で、知能・幼児教育に対するニーズの高まりがありました。そこで、あす五月一日から、〇歳児—小学校低学年程度を対象とした知能教育に関する連載を開始することに、今後、さまざまな形で取り上げていきます。

知育型 創造性や感性育てる

対象は小学校低学年から〇歳児、さらに妊娠の胎教まで及びます。この分科としては、英才教育研究所(東京)でも教育センター教室、七田チャイルドアカデミー、学習研究社、河合塾、幼児開発協会、ユニ・チャーム、四谷天塚、明光義塾などがあります。

例えば、七田チャイルドアカデミーでは、妊婦から小三程度までの約一万六千人が、全国二百八十教室で学びます。「小さいうちに右脳を刺激することで創造性や感性、記憶力を育てる」という指導理念です。



家庭でのニーズが急激に高まっていることを示しています。幼稚園児で補助教育を受けている割合は、昭和三十二年には全体のわずか四・四%にすぎませんでしたが、平成七年には四割に急増。小学校一—三年生(四六・七%)の補助教育受講率と弱さを並べた。これは、通信教育など幼児教育の形態が多様化することに伴って、幼児教育は、昭和六十一年時点で九割だったのが、平成七年には八・九%と急激に伸びています。

年間費用をみると、学習研究社は幼稚園児が平均十八万四千円、小学生一—三年生が平均一万五千円と、幼稚園児の方が多くお金がかかっています。通信教育では、幼稚園児が三万一千円、小学校一—三年生三万七千円です。

きた子供は、「塾や家庭教師も全く必要なくなる」といいます。ユニ・チャームが昭和六十一年に始めた「どなたでも才能教室」は、首都圏十六教室に約一千五百人が通っています。「全脳教育」の理念に基づき、創造力やイメージ、生活力、表現力、ことば、記憶力など七十二のテーマで個性を伸ばす訓練をします。「高学歴のお母さんが、特に関心を持っていてます。近所に一緒に遊ばないから友達をつくりたい」という人もいます。最近では受験を前提にしたニーズも増え、受験コースも設けています」と話します。

【聴学塾】
「語学と算数は年齢が低いほど伸びる」といわれます。小学校への英語教育導入は現実味を帯びてきただけに、語学教育に対するニーズは一層高まっています。

産経新聞(平成8年4月30日)より転載

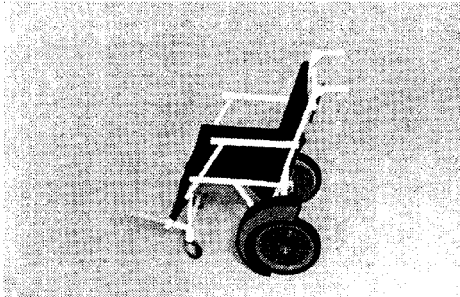


清水 達郎君

六日発表された「第五十三回全日本学生児童発明くふう展」(第四十三回全日本教職員発明展) (毎日新聞社など主催)で、都内からは私立聖徳学園小(武蔵野市)三年、清水達郎君(八)が「秋川市二宮」の段差を簡単に上れる車いす「エス軽号」が、内閣総理大臣賞を受賞した。二年前にも都

聖徳学園小の清水君 総理大臣賞に輝く

教職員発明・児童くふう展



段差乗りこえられる車いす「エス軽号」

「段差を簡単に上れる車いす」で

知事賞を受けたばかり。立派な賞がもらえてうれしい。邪気な喜ぶ。アイディアを思いついたのは一年ほど前。学校の通り、車いすの人が車道と歩道の

「何とかできないか」と得意科目は理科。将来は「電気が大好き。将来は乗って走る電車を」

入賞作品決まる

創意する喜びと豊かな創造力の育成を目的とした第53回(全日本学生児童発明くふう展)と第43回(全日本教職員発明展)の入賞・入選者(敬称略)が決まりました。

奨励賞20点、入選121点、教職員の部が特別賞8点、奨励賞6点、入選26点を運んだ。入賞作品を展示する「発明くふう展」は3月10日から26日(日)まで、東京・日本橋三越デパート本店7階で開催される。入場無料。

主催 発明協会、毎日新聞社
後援 文部省、通商産業省、科学技術庁、特許庁、并理十会
協賛 全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校校長協会、全国工業高等学校校長協会

学生・児童の部

21日から展示

東京・三越本店

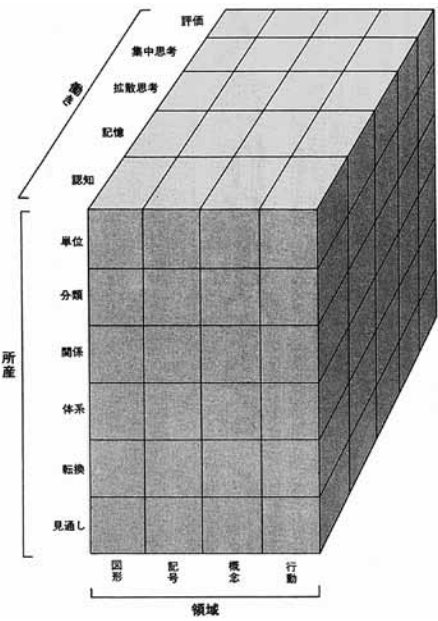
か、関係づけるのか、体系化するの
か、見直しを立てるのか、単位化す
るのか、ガラッと切り替える、つま
り転換するのか、知能が働いた結果
を示し、六つの要素から成る。「働き
こ」には、認知つまり理解、記憶、拡散
思考といつて二つのものを自由
に展開していく能力、集中思考つま
り論理的思考力、評価力の五つがあ
る。

これを組み合わせれば四×五×六
〇の因子があり、一週間に二つ
の因子を刺激するという方法で、能
力を伸ばしている。

たとえば、小学校一年の算数では、
3+2=5、10-4=6と、単純に
足し算、引き算をするのではなく、
□+△=10と、10になる数でできる
だけあげさせる。こうして拡散思考
を養っていく。

集中思考の訓練としては、□+△
=10でかつ□-△=2という問題も
子供たちに考えさせる。□をx、△
をyと置けば、立派な連立方程式の
問題になる。

知能訓練は幼稚園から小学校まで
の、知能の伸びが期待できる時期に
行なう。このような教育の成果は、
例年、発明協会主催の発明王展



ギルフォード博士の知能構造図

小中学校作文コンクールをはじめ、
各種の全国規模のコンクール入賞者
を輩出していることからもうかがえ
る。

園田校長は、

「私たちが重視しているのは、一人
ひとりの子供の興味と関心を生かし、
個性を育てること、意欲と集中力を
育てていくことです。学業成績は、
そういう能力を育てればむしろ自然
についてくるもので、その子の可能
性を最大限に伸ばすことを目標にし
ています。」

と話している。

**多様な刺激と意欲の
育成がポイント**

日本の英才教育の先鞭をつけた、
前出の(財)英才教育研究所では、
二歳〜二歳を対象にした英才教室
や通信教育を続けているが、

「今は、中学受験対策として学力向
上を第一の目的とするお母さんたち
が多いような気がします」
と、同研究所事務局では、真の意味

での英才教育が、わが国ではなか
なか定着していくという。

「可塑性に富む乳幼児期の脳を、い
ろんな方向から、さまざまな刺激を

表2 年齢別にみた1年間のIQの伸び数

年齢(歳)	伸び数	年齢(歳)	伸び数
2	15.6	8	9.0
3	15.3	9	7.6
4	12.1	10	6.4
5	9.7	11	3.2
6	9.8	12	0.6
7	7.5		

(聖徳学園と英才教育研究所の資料による)

与えて、バランスよく発達させる。
それとともに意欲をうまく引き出し
ていければ、まずは成功ではないで
しょうか。本当に優秀な子は、周囲
からあれこれいわなくても、楽しみ
ながら、勉強でも試験でもサラリと
こなしていくのですよ」
多数の英才児を育ててきた同研究
所の経験から、長い目で見守る大切
さを指摘している。

多様な刺激で脳のあらゆる領域を
活性化すること、意欲・集中力を育
てることが、英才児を育てるポイン
トといえるようだ。

脳へのアプローチ

英才児を育てる

取材協力 園田達彦（聖徳学園小学校校長）

学習障害とはワラハラに、知能の優れた英才児の教育も、わが国では取り残された領域になっている。幼児期の知能教育に力を注いできた施設での実績から、英才児の能力を伸ばし、独自のな人材を育てるポイントを紹介しよう。

米國 中国 韓国などは、英才児教育に熱心で、できる子なら飛び級で、大学に入学することも可能だ。

日本ではありえないことで、英才児教育に取り組む学校も、ごくまれだ。その数少ない施設の一つに、私立聖徳学園（東京都武蔵野市）がある。

同校がIＱの高い、知能の優れた子供に知能訓練を行ない、より高い知能を持った、創造性豊かな子を育てるという教育を始めたのは、一九六九年のことだ。すでに四半世紀にもなる。当時、東京・代々木に英才教育研究所を開校して、知能教育を実践していた玉川大学の伏見猛弥教授の思想に、同校の和田玄之理事長が共鳴したのがきっかけになっている。

同小学校校長で、英才教育を指導

している園田達彦氏は、

「一つには欧米諸国に比べて、日本には独創的な人材が少ないという事実。これは、画一化され、知識の詰め込みに重点を置いた教育が原因ではないかと考えたわけです。また一つには、いわゆる英才児といえども、実は一般の学校では、先生から授業の妨害をされると疎まれ、適応できない子が少なくない。こういっただ子供たちの能力を最大限に引き出し、個性豊か創造力に優れ、将来、社会のいろいろな分野で活躍する人材を育てたいというのが、英才教育を始めた動機です」

と当時を振り返っている。

で、実際に、その教室をのぞいてみると…。

表1 聖徳学園で分析した英才児の特徴

知能指数（IＱ）が140以上になると、下記のような英才の特徴がみられる

能力面
①学業成績(学力)が高い。
②問題解決が速く、学習進度が速い。
③言葉の使用が早く、語彙が多くて正確である。
④表現力が豊かで、文章力や絵画、音楽、演劇等の能力がある。
⑤創造力が豊かである。
⑥因果関係の理解が早く、推理力が強い。
⑦一般化する能力や抽象的思考に強い。
⑧ひらめきや直感的思考に強い。
⑨問題の洞察能力がある。
⑩批判力が強い。
性格・行動面
①意欲が旺盛で好奇心が強い。
②興味が多方面である。
③未知な問題や難しい問題に対する意欲がある。
④集中力があり、その持続力がある。
⑤最後までやり抜くことと粘り強さがある。
⑥自立心がある。
⑦時と場に応じた行動がとれる。
⑧失敗に落胆せず、困難を克服しようとする。
⑨個性が強く豊かである。
⑩ユーモアがある。
⑪イニシアチブをとる。
⑫サービスへの意欲がある。

授業風景は、一見、他の学校と何ら変わるところはない。私語をする子もいたりして、伸び伸びと、活発に授業に取り組んでいるという印象だ。が、その内容を見て驚いた。一年生は自習で、本を読んでいたが、漢字がたくさん交っている本が多い。中にはふりがな付きの文庫本を読んでいる子さえいる。二年生は算数の授業だが、二ケタ、三ケタの掛け算、割り算の問題を解いて、子供たちが自身で答えをいい合ひながら、自分で○×を付けていた。

「私たちの学校では、教材も独自に作っています。先に進む子は、どんどん進んでもらって結構だし、先生が個々の子供の能力に応じて対応しているのです」（園田校長）

「領域」というのは、「何を使っているか」という思考の手段を指している。文字や数字のような記号か、図形か、概念か、あるいは行動観察を用いるかによって、この領域は四つに分かれる。「所産」とは「何を作るか」という対象を指し、分類するの

知能を構成する九〇の因子

同校の知能訓練は、主として米國の心理学者ギルフォード博士の理論に基づいている。彼は、知能には二つの側面があり、図のような構造物であると考へた。すなわち、「領域」と「所産」と「働き」で、それぞれがまたいくつかの要素から構成されている。結局、一二〇の因子から成り立っているという仮説である。

「英才児が決まる」井深大

(一) 長
二 養
三 名 會

「原始歩行」というのがあります。生まれてすぐの赤ちゃんを後ろから脇の下に手を入れて支えようと、歩こうとする。ちょっと条件をよくしてやると、どんどん歩いていきます。

ところが、こうした本能的なものは生後三か月もするとなくなってしまうのです。この原始歩行を毎日数分ずつやった赤ちゃんやらない赤ちゃんでは、首の据わりや回転、ひとこと会話などに二か月の差が出てきます。一年のうち二か月です。人間はね、大変な超能力を生まれつき持っているのですよ。それを、みんなが「そんなバカな」と言って帳消ししている。超能力の集団教育の実績もあるくらいです。

だから、その心構えて、赤ち

やんの才能を上手にムダなく引き出してやれば、英才なんてほっといてもできる。人柄のよさ、人間のよさもセロ歳の時に決まってしまうのです。

そして、知育、体育、芸術はすべて絡み合っており、早くからそれらに刺激を与えることが大事です。つまり五感を刺激するわけですが、そこでスキミング、愛情が重要な要素になります。

赤ちゃんは、生後三か月までにお母さんの顔や表情のパターンを覚えちゃ。人見知りをするわけですよ。そんな時に寝かしてばかりいたらダメ。極端な話を、生まれて半年間は赤ちゃんを抱きまめた、母国語の習得などはお腹の中ですでに行われているのです。

卒業生の25%は理 III など超難関大へ

教室の一つをのぞいてみると、幼稚園児の中村真悠子ちゃん(こ)が特訓中。机の上には立方体の小さな積み木が数個置かれ、先生が、上、前、横の三方向から見た図を示すと、真悠子ちゃんは積み木を組み合わせて指示通りの形を作る。幼い頭で懸命に考え、五十分の授業時間内に二十のパターンを完成させた。

「今のうちに考える力の基礎を養って、将来の中学受験を楽にスタートさせてあげたいんです。家だと、どうしても、覚え学習に偏ってしまいますから」

と、母親のみゆきさん(三)。

こうしたトレーニングは、やはり詰め込み式だからねえ。せっかくなので英才教育が十分に生

「知能は百二十の因子で構成される」という米国の心理学者の理論に基づいている。このうち教室での訓練が可能なのは、九十の知能因子。これを一週間に一つずつ刺激していけば、知能の働きをまんべんなく促進できるという理屈だ。

内容は、積み木やカード、巻き尺などを使ったゲーム的なものが中心。研究所のスタッフが独自に考案してきたもので、前出の小森部長は

「子供の興味を引き出し、自主的に考えさせることが大切。知識の詰め込みは、かえって知能の発達に障害になります」

と語る。

こうした実践に共鳴、同研究所の全面的な協力を受ける形で四十四年に「英才教育」をスタートさせた聖徳学園小かされないのではと、それが心配でなりません」

学校の授業はクラス定員三十人程度の小人数制。週二時間、英才教育研究所と同様の知能訓練を行う。

一般の科目でも、「まず考えさせる」ために教科書は用いず、教師手作りのプリントを使う。

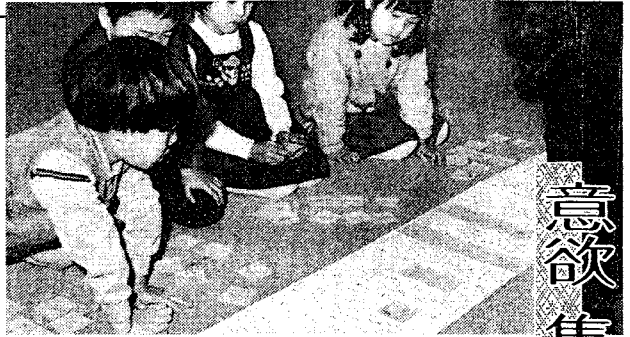
知能訓練や数学(ここではそう呼ぶ)の授業では、クラスを三グループに分け、到達度に応じてキメ細かく指導する。

今年で二十二年目。今までに四百人近くの卒業生が巣立ち、四人に一人は東大理IIIなどの超難関大学に進んでいるという。だが、和田校長の表情はいま一つさえない。

「わが校では教科書がないし、宿題も出さない。だから最近は一本当に勉強してるのか」と心配して、塾に通わせる父兄が多いのです。塾の多くは、やと、またしても受験競争過熱化の弊害を嘆くのである。

3歳ではもう遅い!? 英才教育の決め手

意欲集中・創造力育てる



知能因子を分析し教材

子供たちを集め、知能訓練を行い、卒業までにIQを平均三〇程度伸ばすことに成功しているという。

同校の知能訓練は、アメリカの心理学者ルフォードの理論を出発点としている。「これは、知能の活動を「訓練」「所産」「動機」の三つの面からとらえる考え方で、さらにこの三つが区分され、知能が合計百二十の因子から成り立っているとするもの。

知能訓練は、一回の授業でこのうちの一つの因子に訓練を与え、これを順次行い、て知能をアップさせていく手法だ。

例えば、四年生の「数の性質」の時間は、「記号(動機)による分類(所産)の仕方を知(動機)させる」因子を刺激するところから始まる。

「知能は訓練で伸びる」といふ考え方に基いた英才教育である。入塾は知能検査優先で行われ、合格した児童の知能指数(IQ)は平均一三五。

IQ一〇〇を要する年齢と稱し、神童論が同じとしているの、いわば英才児、こうした存在だ。しかし、既に十五

木曜形赤

そのきつつけられたため知能訓練の中にとんだに取り入れられている遊びの要素ではないだろうか。

年の実績を残している知能訓練の中身は、これまで紹介した通り、必ずしも英才児のためだけのものとは見えない。知能訓練の責任者である園田隆彦(園田)の手紙でも、教育の仕方によって知能を伸ばせるという考えだ。

知能を伸ばすには、まず取りうるものには間違いなく、その創造力を養うことだ。と園田さんは説明している。

興味ある遊びに熱中している時、子供が必ず集中力が、知能発達の基になっているのだ。併設されている聖徳幼稚園の英才教室を見て、遊びながら学ぶ工夫が凝らされているのがわかる。七並べ風連想ゲームとか「五目黒もどき」といったゲームに幼児たちは楽しそうに取り組んでいた。

それでは、最後、園田さんが挙げる、子供の知能を伸ばすポイントを紹介しよう。(1)甘やかさない(2)好きな遊びに熱中させ干渉しない(3)勉強を強制せぬ

④習い事は少く、長い目でじっくり習得させる。⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺、㊻、㊼、㊽、㊾、㊿、

①甘やかさない 好きな遊びに熱中させ干渉しない 勉強を強制せぬ



▲プレイ室で明るく遊ぶ児童たち



併設されている聖徳幼稚園の英才教室の学習

甘やかさない 好きな遊びに熱中させ干渉しない 勉強を強制せぬ

婦人

子供の知能への関心が高まっている。「知能を伸ばす」をうたい文句にした、おもちゃや学習教材もまた売れているという。こうした知能開発の風潮には、当然、賛成と反対との立場があるだろう。が、自分の子供をタマのよい子に育てたい、と願わない親はまずいなはずでは、知能を伸ばす教育とはいったいどのように行われているのか。東京・武蔵野市の私立聖徳学園小学校(和知雄校長)が実施している知能訓練の現場をのぞいてみた。(相馬 幸司記者)

▼ゲーム大会めざして休み時間にも将棋をさす



木曜加赤

教室に歓声 「大会」が待ちどおしい

ちほしーが四枚並んで、あ、と一回目の白は、一と二個と並べ上げ、完成する。きーノキリで切断する。この大敵。

知能訓練というから、もちろん、不器用とわわわわと面倒なものと思っただけが、教室の雰囲気はまるで遊び時間。これで知能が伸びるのなら、子供にとってもいいことだ。

次の時間は、一年生の工作。二、二年生は知能訓練(将棋)。

工作の課題は、小さい子供の手先の訓練になる。工作は、天板の発達を促さざる、ゲームは一種努力を要し、ゲームは、知能教育の中心に取られていく。

工作の課題は、小さい子供の手先の訓練になる。工作は、天板の発達を促さざる、ゲームは一種努力を要し、ゲームは、知能教育の中心に取られていく。

学習に遊び織り込んで楽しく

同校の二年生は正月は、最初に入ったのは、四年生。大きな「耐摩擦」と書いて、クラスも、千五百人以上、生が示す数字に共通する。その中には、数字(二)の性質を語見せるといふ。一、二は、数字(一)では、数字(一)といふ。二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

知能訓練には、知能訓練(一)といふ。二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

にぎやかな英才教育

聖徳学園小



▶ノキリも知能開発に効果的

学校と能力

第一部 知能とは

▷||◁

目立つ。

知能訓練は四年生までを

対象に週に二時間、授業とは別にすめられる。五、六年生をはずしているのは、その年齢になると、訓練効果があまり上がらないとみてだ。

「二枚捨てればよかった」。子供たちは思い思いに声を上げながら、次々とゲームをすすめていく。

思考の知能因子をアップさせるのが狙いだ」と、指導教師は説明する。廊下には、作文や科学研究など各種のコンクールで、優勝したり、入賞したりした表彰状が掲げられている。これも、成果の一つです」と、知能訓練の推進役の園田達彦主事は胸を張った。

「知能は訓練で伸びる」という英才教育研究所(東京・代々木)の考え方を、教育方針にそのまま取り入れている私立の小学校がある。東京・武蔵野市の聖徳学園小学校で、すでに十四年の実績を残している。全国でも例のない試みだ。

入試は知能検査優先で行われ、合格者の知能指数の平均は「二三五」前後。その子供たちに入学後、徹底した知能訓練と授業を受けさせ、学習効果を上げていく。この教育で「一九〇」まで伸びた子も出たという。

「知能は学力の容器。容量が大きいほど、学力を身につけることができる」。

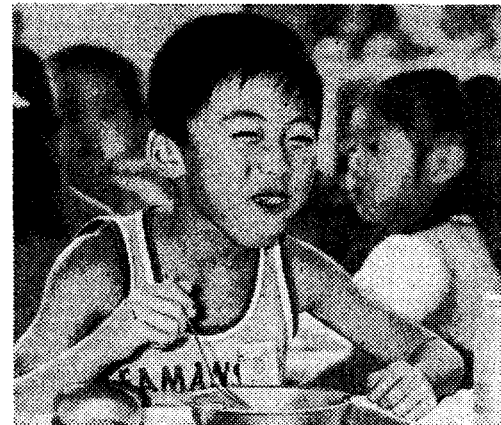
同小の教師たちも、実践を

「効果大」と自信の教師

通して、そう確信している。二クラス編成の一年生は定員五十人。来春の入学者の希望者は来月早々に終わる。都内だけでなく、神奈川県や千葉、埼玉から受験にくるほど評判が高い。二時間もかけて通学している子もいる。

その訓練授業。先月の二年生の教室では、トランプの「ポーカー」遊びを応用した「数字合わせ」をしていた。全員がカード敷きの床に座り込み、手には、足し算や引き算、掛け算や割り算などの記号と数字のカードを持っている。グループに分かれて、そのカードを順番に場に捨てたり、捨ったりしながら、例えば「 $4 \times 2 = 5 + 3$ 」のような等式を早く完成させた方が勝ちとなる。「アッ、割り算にしてお

親たちも「ここでは子供の能力に応じた教育してくれるから……」と期待を寄せ、「公立校では、ムリなので」と話す。公立の小学校からの転校組も確かに



〈給食〉今日のは特別うまいぞ(東京・千駄木小)

毎日小学生新聞

東京・武蔵野市
聖徳学園小二年

文部大臣奨励賞 やったね!!岡村君



「まさかこんな大きな賞をもらえるなんて」と実験の方法をしてみせる岡村君

カエルでタバコの害を証明

2年前から考えていた

第2回小学生けんぴ鏡観コンクール(毎日新聞社、毎日小学生新聞社)に選ばれた。また「第一部特定課題」の一等は、文部省後援、オリ次城県電ケ崎市立電学

は思いませんでした。七歳から四年の寺田将幸と、渡辺裕生、板橋隆行君の三人。第二部自由課題は、大府泉、南葛市南町立下荏小二年、米原良子さんが選ばれました。岡村君の研究はカエルにタバコのけいりを吸わせた。タバコの害を証明したもので、百十三羽わたる大作です。カエル取りか

学生けんぴ鏡観コンクール

◇その他の入賞者

【第一等】藤田雄二(二年)フクダケン(二年)...

【自由課題】一等の下荏小二年の米原さん





才能教育

「答えが6になる足し算や引く算はどのくらいあるかな。」先生の質問に、子供たちは机の上に配られている数字のカードやプラス、マイナスの記号カードをいろいろに組み合わせ始めた。

答は「6」

しばらくして「ハイ」「ハイ」と手が上がり、先生に指された子供たちが、黒板に行く通りもの答えを書いた。

「こんどは足し算と引き算を組み合わせ、答えが6になるような長い式をつくってみよう。できたら手を上げて」A子ちゃんの手が上がった。

「0+8+4+5+6+8+2」A子ちゃんの腕み上げる式の答えが、6になることがわかった。子供たちは一斉に「あって

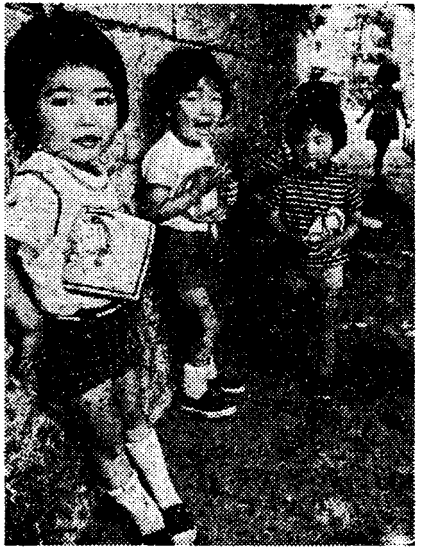
て、数学担当の園田達彦先生は、「こつこつ」とこゝろを教えることより、考えさせることに重点を置いています。6という数の勉強も、普通の学校では「おかつき組」の国語の教室。ここでは、三つ以上の言葉を使って「三題はなし」を作っている。トンチのきいたこつけない話が出来上がり、それを発表のたびに爆笑がわく。

隣の「つばきA組」では、むすかしい新聞社読のコピーを配って、先生が語句の説明をし

ながら読み進め、どの算式もワイワイ、ガヤガヤ。

子供たちの中には「おかつき組」で平均二五二・三、「つばきA組」二六九・六、「つばきB組」二五・三。

「この子供は普通の学校にいたら、授業がおもしろくない、問題児になるような子供ばかり。知恵比べの子供のための学級が必要なのに、英才児のための学級もなくてはいけません」と園田先生はいった。



何持ってるの。(世田谷・代田幼稚園)

IQ一六〇 のクラスも

私立聖徳学園小

わが国唯一の英才学校を昨年スタートさせた私立聖徳学園小学校(和田孝校長、東京都武蔵野市)は六日、第二期生の入学式を行った。和田校長のあいさつ、伏見猛弥英才教育研究所長の入試経過報告に続き、英才学校の先生を二人ずつ紹介、このあと記念品として児童一人ひとりに「漢和辞典」が手渡された。

本年度の新入生は四十一人で女子も三分の一ほどいる。六十六人の志願者の中から知能検査と創造性テストで選ばれた児童だけに平

均IQは一五二・二という高さ。最低知能指数でも一四〇、最高は一〇三という天才児がいた。

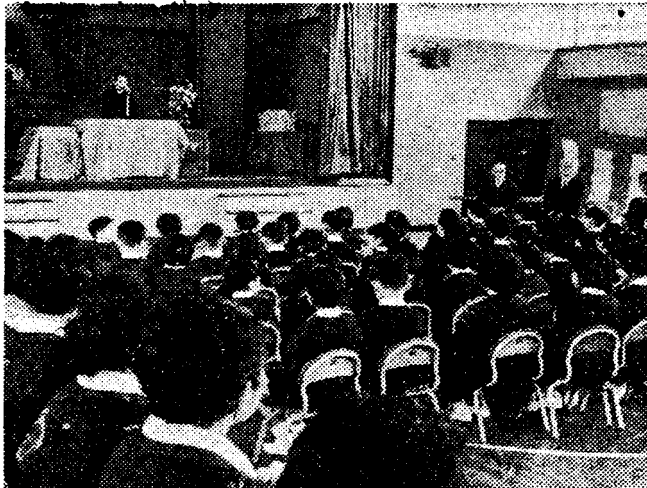
普通児の大半はIQ一〇〇前後といわれる。これが二〇クラスになると四人か五人に二人、また一四〇クラスは四十人に一人、さらに一六〇クラスは千人に一人というデータがある。入学検査には田中ヒネー式知能テストと英才教育研究所が開発した創造性テストを使い、検査官と児童が一对一でテストしたが、ヒクヒクする子はひとりもいなかったという。

同学校は普通の学校のように暦年による学年編成は行わず、知能指数による無学年制を実施しており、新入生もさつそく知能に応じて「みずほ組」(IQ平均一四三・一〇)と「あずさ組」(同一五九・二)に分けられた。IQ平均

一六〇というクラスは日本はもとろへ、外国にも例がないという。

情操教育を兼ねて算数教育の導入としてパイオリンを全員に指導しているのも英才学校の特徴。紐をpushする指の感覚は算数の比例に結びつくという指導観だ。この日は先輩英才児全員によるみごとなパイオリン演奏も披露され、新入生はそのカッコよさに目をかがやかせていた。

なお、入学式に引き続き一期生の表彰式も行われ、算数、国語、理科、地・歴の成績優秀児に記念品と賞状が手渡された。



聖徳学園小の入学式風景

編集手帳

アタマのいい子に育てようというテレビのコマーシャルがあった。自分の子どもがそうであることを願わない親はまずい

ないだろうが、こんど東京・武蔵野市に英才教育の小学校が誕生する◆来春発足する私立聖徳学園小学校(同市境南町二の一一の八)がそれで、さる四十年いらい、二歳から十二歳までの英才児ばかりを集めて教育している英才教育研究所の協力によって、文部省の学習指導要領にそいながらも、徹底した「アタマが良くなる訓練」を行なうことになった◆といっただれでも入学できるわけではない。資格があるのは知能指数一三〇以上の児童にかぎられている。知能が年齢に応じて発達

しているかどうかを見るIQつまり知能指数は、一〇〇が平均とされているが、この程度のふつうのデキの子ともではこの学校にはいることができない◆しかも一学年の定員が二十人で、授業料は年間十四万四千円、入学金七万円というのだから、どこからいっても「狭き門」といわなければならぬ。教育熱の高いわが国のことだから、なんとかわが子を入学させたいと思う親も多いだろうが、さて、これだけ条件のそろった、恵まれた子、がとれだけのものだろうか◆それにしても、英才教育研究所では小学二、三年生が数学の方程式を解くことぐらいいまずしくない。知能指数は年間平均一七・一あたり、なかには一四〇から二〇六に伸びた子もいるという。人間のアタマは、

使いようによってはおどろくほどよくなるものらしい◆その意味でこの学校は、ただの進学校ではなく、英才教育を進めていったらどうなるかの特殊な実験校というべきだろう。高校一年で大学にはいる実力をそなえるはずだとも聞く。それで本当に将来が期待される、頭でっかちでない英才に育つだろうかなどと、鈍才の側からすればかすかすの疑問はあるのだが……◆興味ある試みであるにはちがいない。エリート作りの経験が、ふつうのアタマの人間を、英才に近づけることに役立つならばなお結構というものである。結論をいそがず、気長に成果を待つことにしよう。

英才だけの小学校

入学には知能一二三〇

武蔵野で来春スタート



「才能はのびさなくては、と教材を前に語る伏見教授」

「英才教育」の小学校が来春四月スタートする。武蔵野市城南町二の二の八、私立聖徳学園小学校へ和田玄之校長がそれ。英才教育研究所（渋谷区代々木一の三八）の伏見猛研究所長（玉川大教授）の全面協力を得て開設する運びとなったもので、教育ママが飛びつきそうだが、知能指数三三〇以上（普通児は二〇〇）でないとならば、授業料も年間十四万四千円。

授業料は年十四万円

「英才には英才の教育のしかた」とか「一般化する進学がある」と、伏見教授が二戦「戦争の産物」といふ批判から十二歳までの英才児ばかりを集めて研究のから教育を始め、大のが四十年九月。当時「教育ママの心理にうまく二七・一あげる」と成功した。



マン・ウィー・マン方式で知能の伸びず訓練（英才研究所）

一四〇から二二〇に落ちるいはばの伸びを示したともいえる。「英才教育を単独でなく、学校の授業のなかでうまく結びつけて行なえばもっと効果がある」という伏見教授の考え方に聖徳学園関係者が賛成、来春の新入生から、知能指数三三〇の英才児だけにしほり、カリキュラム作成なども伏見教授らにまかせて徹底した英才教育に切り替えることになった。

校名も現在の「関東小学校」を来春から「聖徳学園小学校」と変更、入学者を募集している。教育内容は文部省の学習指導要領にそいながらも独特なもので、週に二回、五百四十種類もある教具、教材を使い、「アタマが良くなる訓練」をすれば、授業は子どもが進んで応じて、進ませる。伏見教授は「文部省の学習内容なら三か月で消化できる」という。

このため、一学年の定員わずか二十人。科目によっては、三人のグループに先が一人つくといふ授業が行なわれる。勉強は学校でやるだけで、宿題はゼロ。なお授業料は年間十四万四千円のほか入学金七万円。

聖徳の教育に関する 各紙の反響

聖徳の教育

昭和58年9月24日 初版発行
平成20年6月16日 第9版発行
平成22年6月16日 第10版発行
平成27年5月29日 第11版発行
平成30年5月31日 第12版発行

編集企画委員 和田知之 松浦博和
大河内浩樹 磯沼美紀

発行者 和田知之

発行所 聖徳学園 幼稚園・小学校
東京都武蔵野市境南町2-11-8
TEL (0422) 31-3839

© 2018 (2000)

印刷所 株式会社 文伸



